

關西建築協會雜誌

第一輯 第十三号

大正七年十一月廿五日

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ改良ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會ヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會ヲ申込ムヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

二　主　記　一　名

三　編　輯　三　名

編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ニ左ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但ヲ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル講演會ノ開催

二　建築ニ關スル調査研究

三　建築ニ關スル研究報告ノ發表

四　建築ニ關スル重要事項ノ議決

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關シ有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳拾圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ整理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金ハ毎月收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立金ハ毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

關西建築協會第一回大會次第書

一 講演會　大正七年十二月五日午後一時半開會
中之島大阪中央公會堂ニ於テ

講演者及演題

家相論	工學士	葛野壯一郎君
大阪市區改正ニ就テ	工學士	片岡安君
「デモクラシー」ト建築	工學博士	佐野利器君
大阪港ノ將來	工學博士	直木倫太郎君
都市住宅問題	法學博士	關一君

一 晩餐會　大正七年十二月五日午後六時開催
同所階上大會食堂ニ於テ

第一回懸賞圖案募集

本誌表紙圖案を左の規定により募集す。

一　題字　關西建築協會雜誌とし、字体は明快なるべし。

二　圖案寸法　竪七寸三分、横五寸(菊版)とす。

三　圖面「ワットマン」紙を用ひ、寸法は其八分ノ一大とす。

四　彩色　二色迄とす。

五　意匠　本誌の特色を發揮すべし。

六　締切期日　十二月二十五日とす。

七　賞金　金貳拾圓宛入選者五名。

八　入選圖案は本會の所有とす。

九　審査は本會理事會にて決定す。

十　暗號は必ず圖面に記入し、別に性名及現住所を記入せる密封を添附し、本會事務所宛送附すべし。

以上

大正七年十月

關西建築協會

關西建築協會雜誌 第壹輯 第十參號

目次

□ 繪
大阪市中部の娯樂地區(三色版)
平和の都(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)
都市建築の今昔(十九)

△家屋政策確立の急要 …… 會員 野村一郎 …… 二
△都市計畫と建築界の任務 …… 會員 野村一郎 …… 二
△運河に就いて(下) …… 東京高等商業學校敎授 石川文吾 …… 一三
△紐育市雜觀 …… 早稻田大學敎授 內藤多仲 …… 二六
△本邦森林と建築用材に付いて(七) …… 會員 谷民藏 …… 三二
△都市と建築 …… 會員 都市研究生 …… 四五
□三十年後の大阪(五) …… 五一
□家屋問題の勃興 …… 五一
△名流の住宅觀 …… 五一

□建てるまでと建てゝから……歌舞技座技藝部長　中村歌右衛門氏談　五一
□夫婦で住宅の新工夫……日本銀行秘書役夫人　櫻田節彌子談　五六
□事務所と私宅とを同じ家にして……有澤眼科病院長夫人　有澤さく子談　六〇
△明治神宮外苑記念建造物懸賞當選圖案に就いて……會員　大蘆生　六四
△内譯見積書の添削について……會員　瀬戸文吾　七八
△京都古建築觀（三）……特別賛助員　伊藤清造　八六
△演劇と建築（下）……會員　波江悌夫　九三
△建堂閑話（續）……會員　望蜀生　一〇〇
△時報……臨時議院建築局　一〇五
□議院建築意匠設計懸賞募集に關する質疑應答
□建築業協會と建築材料及工手間調査
△會報……一一九
△編輯たより

附錄

△巴里市衛生規則……一七頁

THE JAPAN ASBESTOS SLATES MFG., CO.

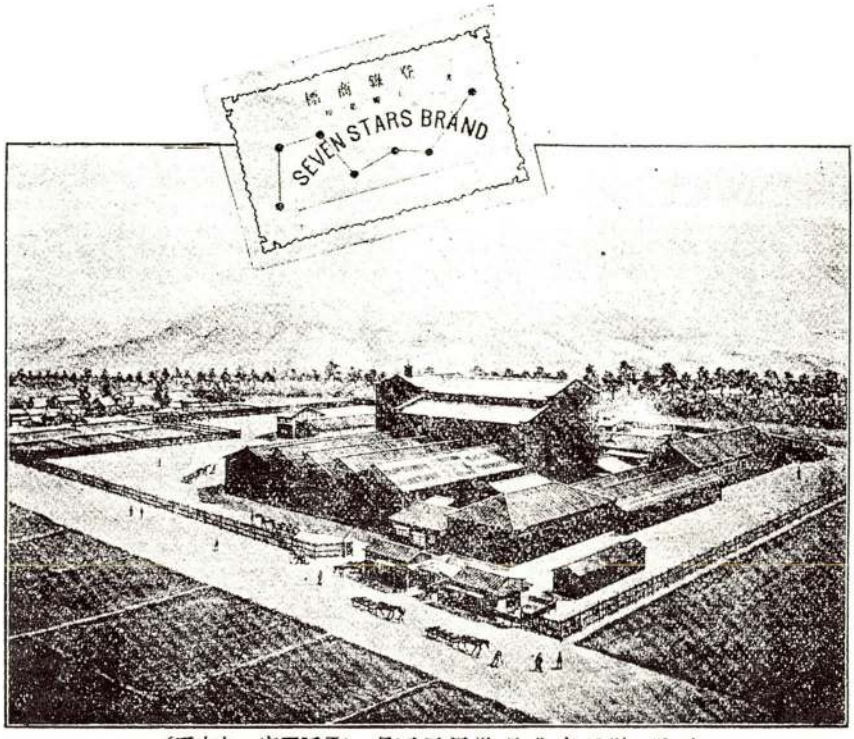
於東京化學工業博覽會

領受牌銀

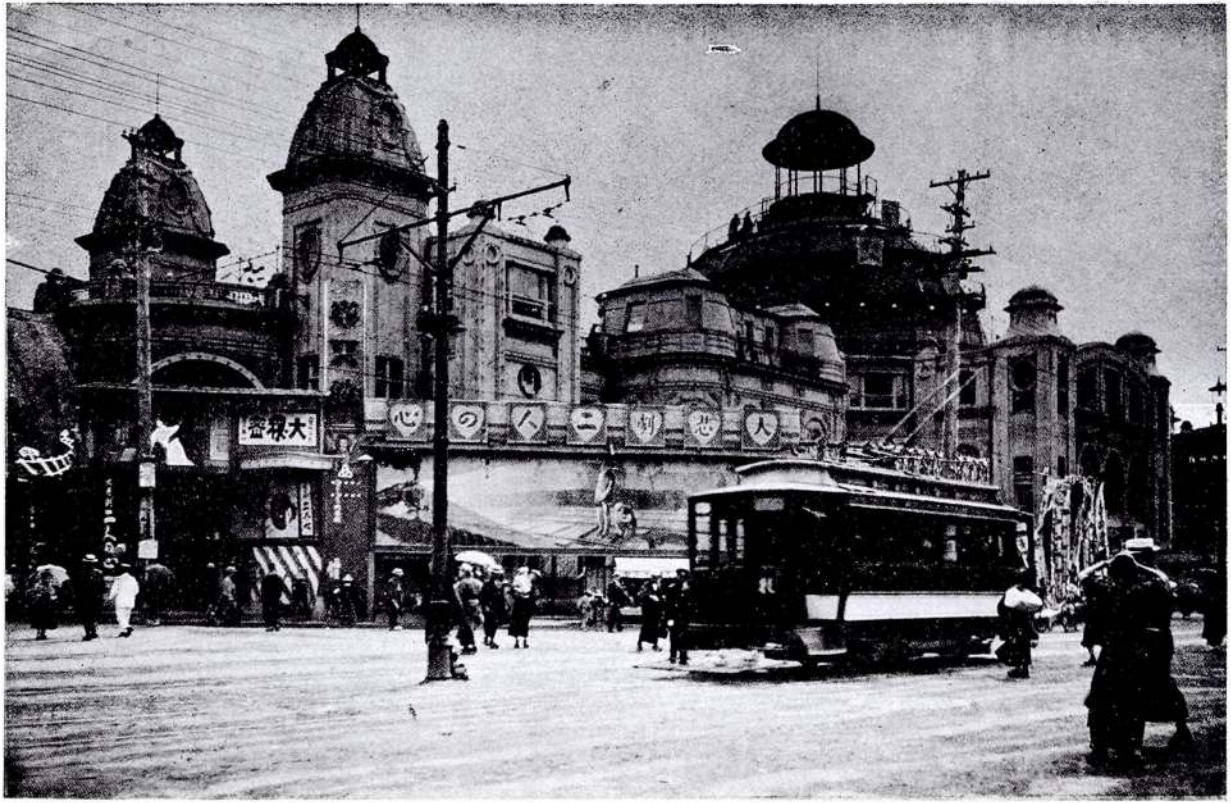
日本石綿盤製造株式會社

RAW MATERIALS USED:—

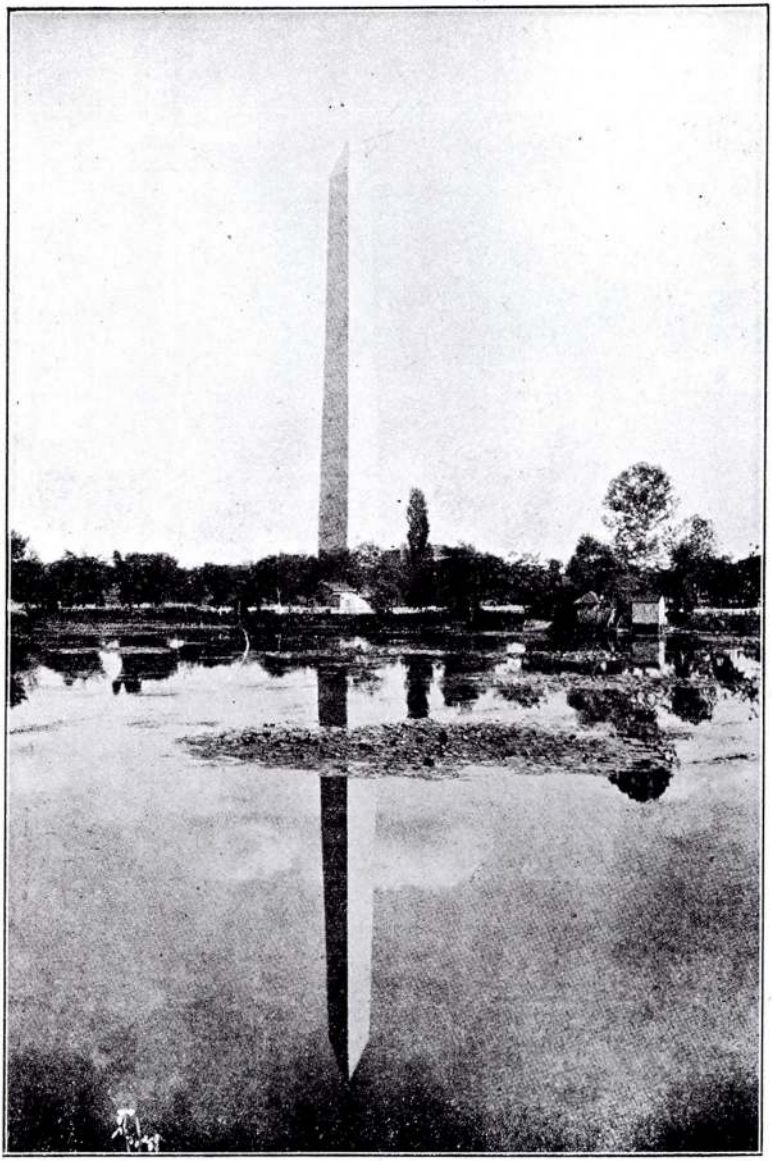
ONODA CEMENT.
JACOBS MINES ASBESTOS.
MARCUIS MINES ASBESTOS.
SOUTH AFRICAN BLUE ASBESTOS.
AND
SUPERIOR COLOURING MATTERS.



（番六九一宮三話電）　目丁三通狹長北市戸神　社本
（番四三七影御話電）　村中田村山本郡庫武縣庫兵　場工

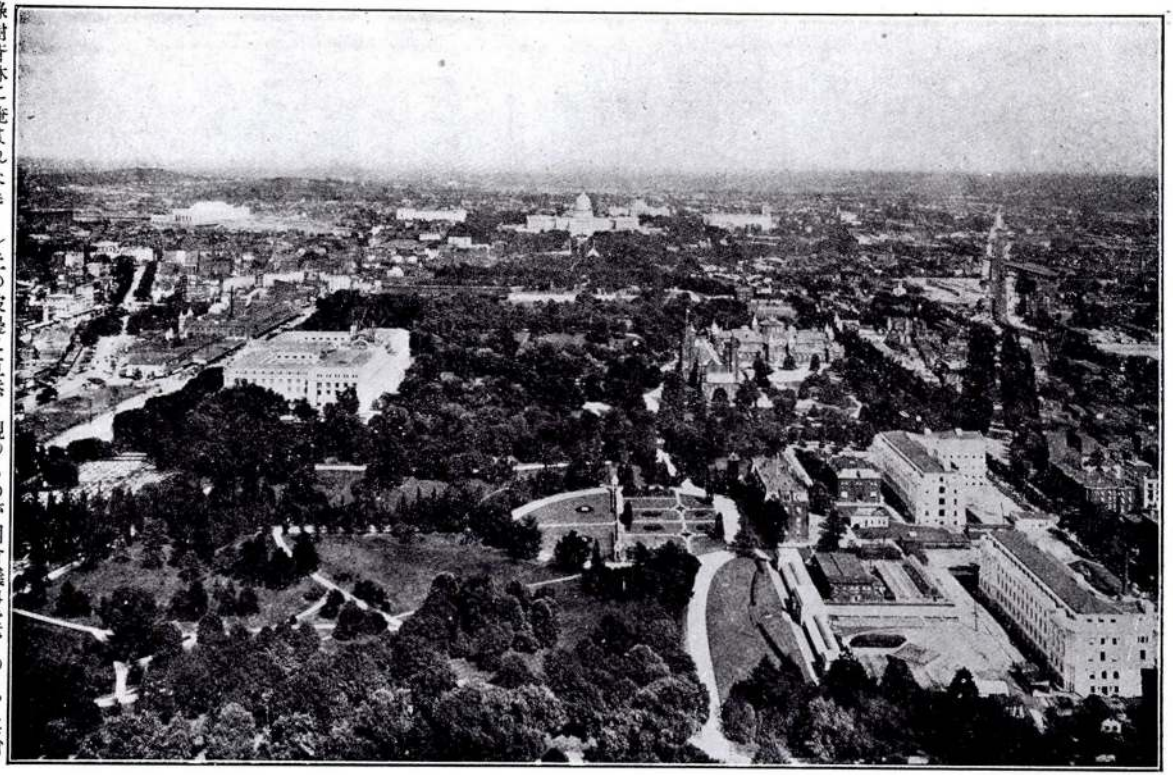


大阪中部の娯樂地區（千日前樂天地）



ワシントン記念柱

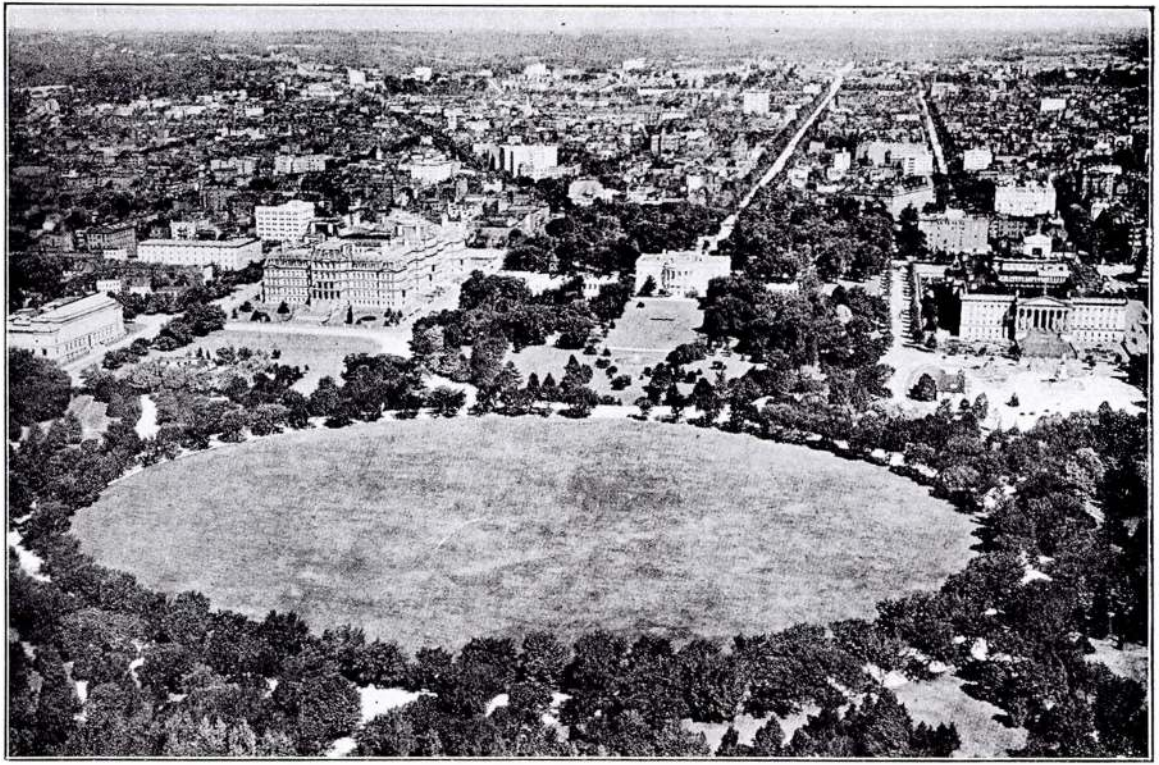
一億餘の米國民が獨立の祖父と崇仰するワシントンの偉業を千載の下に記念する一大方尖塔は、夙に渠の生前に於て其計畫を建てられ、渠自身地をモール丘上の高地に相したのであるが、一八四八年盛大なる建礎式を擧行し爾來七星霜を閲して成り、工費實に二百六十萬圓と註せらる、高さ六百呎の大理石柱何等の裝飾なく眞に邊幅を意に介しなかつた英傑の人格を反映して餘りあるのみならず、自由國民の衷心の赤誠を吐露したものである。



ワシントン記念柱より遠望せる東方鳥瞰圖

綠樹蒼林に掩はれたモール丘の彼邊に巨然と觀ゆるのが國會議事堂である。其稍右後方に在るのが國會圖書館其右にあるのが國會議員の新館左手に在るのが元老院の新館である更らに左方にある白色の巨宇はユニオン停車場であり近く見ゆるのが國立博物館である。右方に遠く延びてゐる大街はバアジニア街であつて華府の西南區と東南區を貫いてゐる。

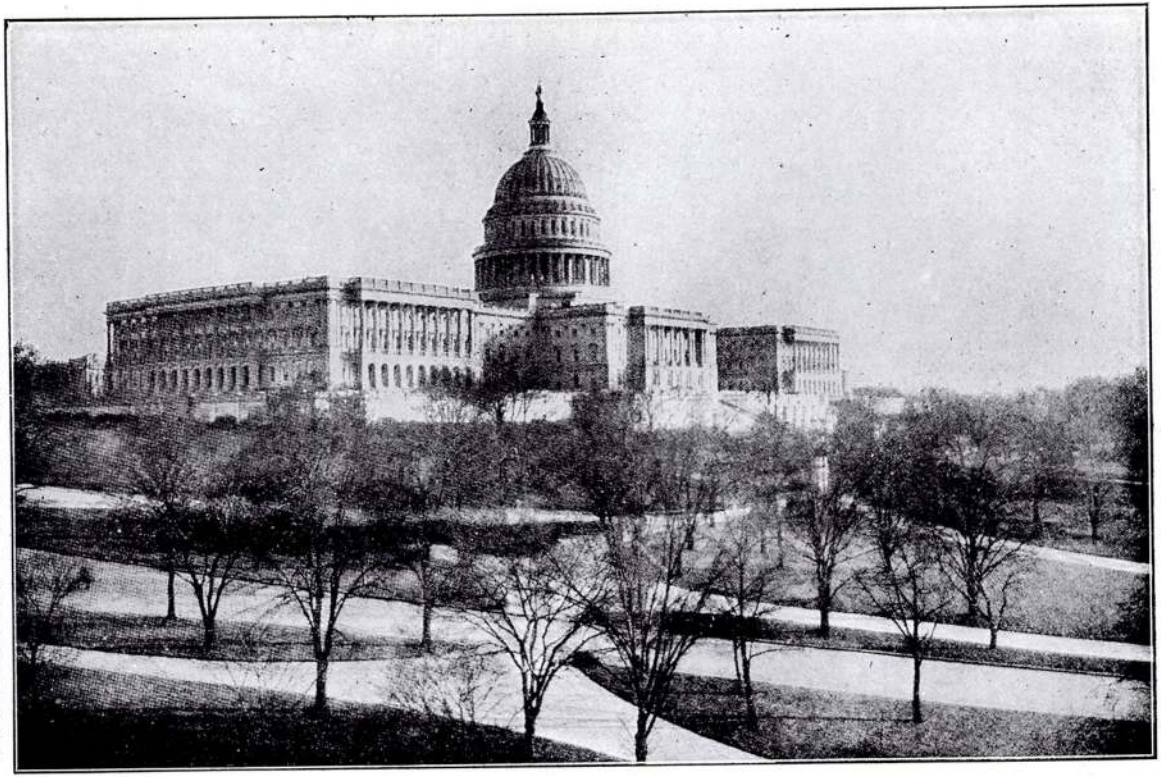
平和の都（其三）



ワシントン記念柱より遠望せる北方鳥瞰圖

眼下の廣場は大統領公園であつて中央に在るのが白堊館である右方の大厦は大藏省、左方の巨館が海陸軍省である、白堊館から北方へ延びて居る大街は第十六街其右に平行せるが第十五街である、白堊館から左方斜に北西に貫通せるのがコンネクチカット通である。

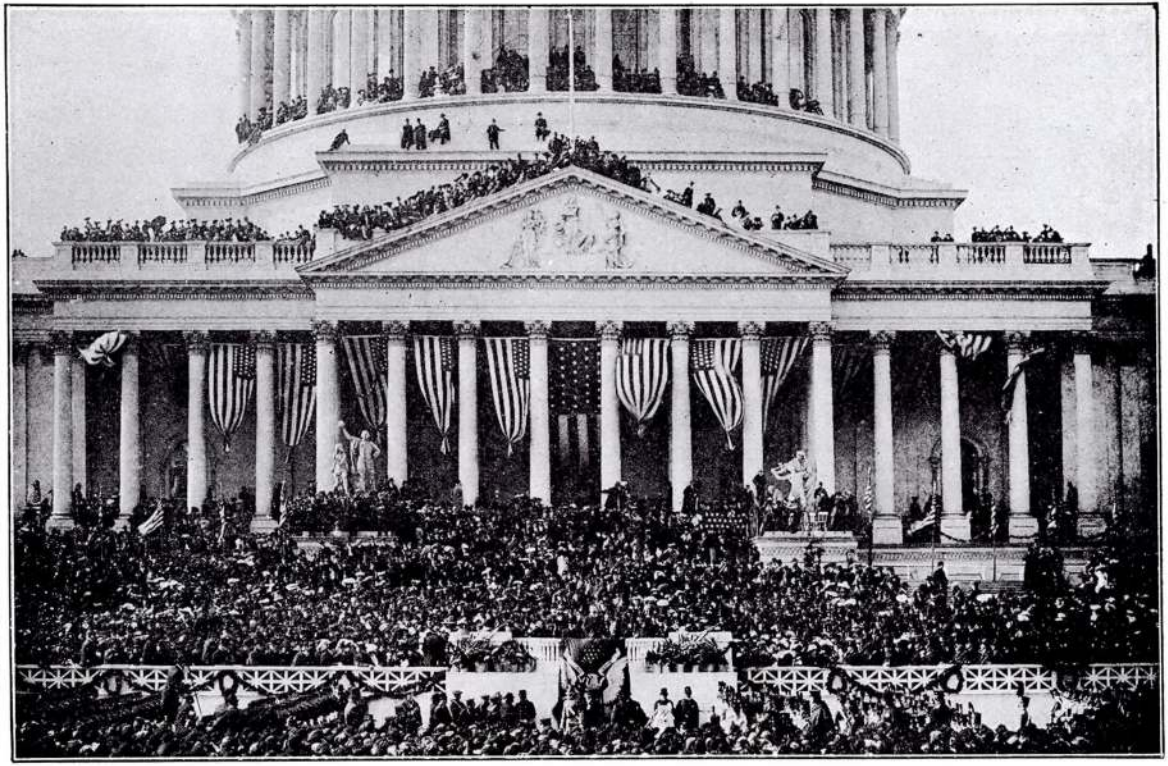
平和の都（其四）



合衆國國會議事堂

雄大宏壯なる一大建築眞に各國國會議事堂中の白眉である、最初の礎石は一七九三年國父華盛頓に依りて据へられ、爾來國運の進展に應し增築擴張せられて今日の壯觀をなしたのである、華府は本建築を中心として東西南北に四分せられてゐる十六條の大街は茲に集まり都市の區劃の整然たる世界に其比を見ざる處である

平和の都（其五）



米國大統領就任式當日の壯觀

今や北米合衆國の盛運は全世界の覇權を握掌したかの觀がある、現大統領ウヰルスン氏は正義と人道との爲めに劍を執つて立ち遂に兇猛横暴なる中歐同盟を屈服せしむ・茲世の英雄を以て自認せしカイゼルも遂に華府に哀を請ふの飛電を致す世界の平和は遂に華府より到來せしものに非さるなきか・

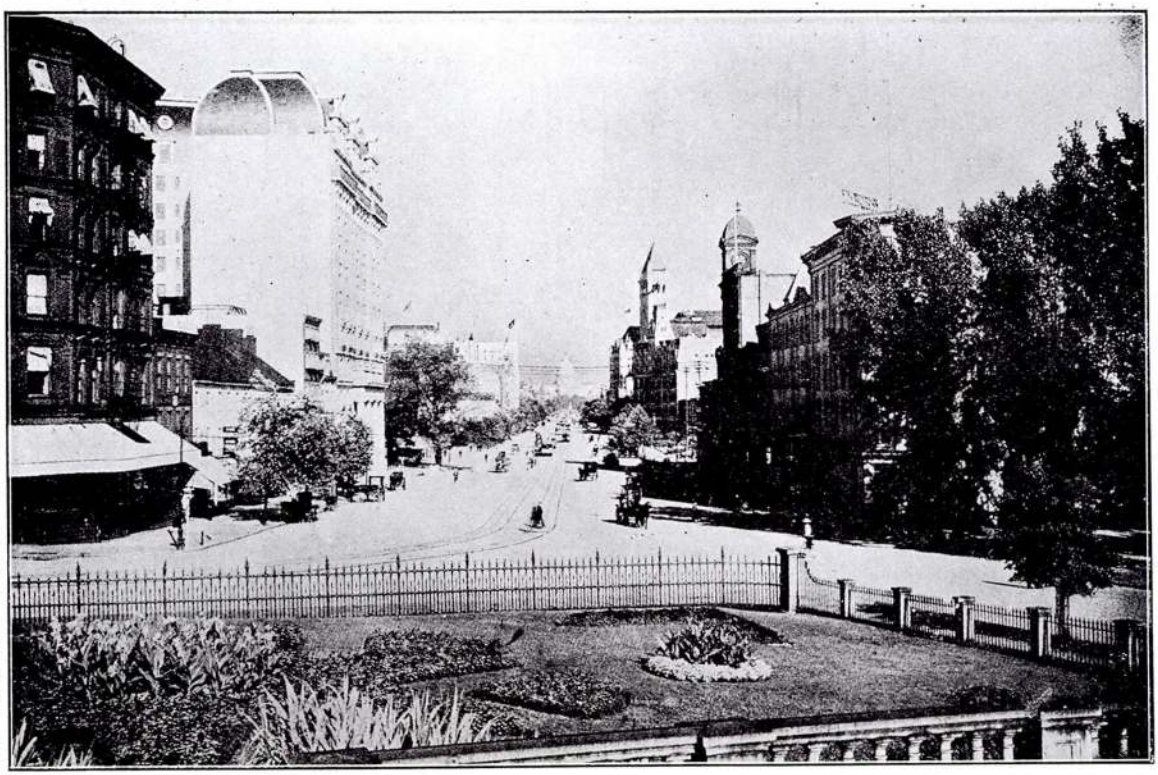
平和の都（其六）



國會圖書館

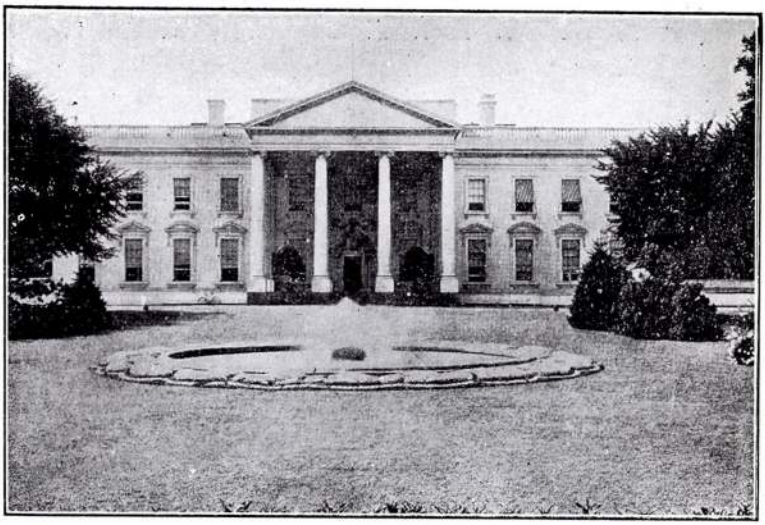
華盛頓國會議事堂に隣接して三英町半の地積を占めニュー、ハムシヤ州産の白花崗岩より成る伊太利復興式の巨開世界最大最美の圖書館である。一八九七年の竣工に係り一千二百萬圓の巨費を要したといふ。既に二百餘萬卷の書冊、十萬の古記錄七萬部の地圖十五萬部の版畫を藏し、書架の全長實に四十四哩に達すといふ

平和の都（其七）

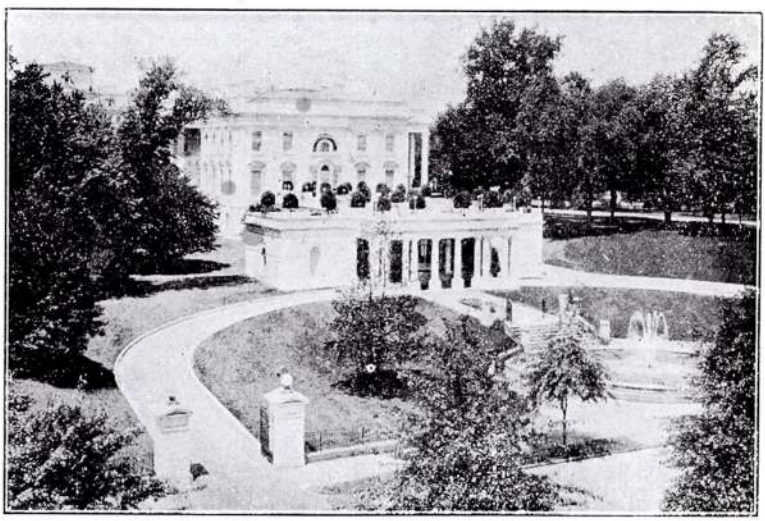


ペンシルベニア大通

國會議事堂と白堊館とを連絡する華府重要の大街圖は大藏省から東南に遠く議事堂を遠望せる光景である、大統領就任式の行列は必ず此の大通を通過することになつてゐる。從つて華府重要の建築物は大概茲に軒を並べて延長約一哩に亘つてゐる。



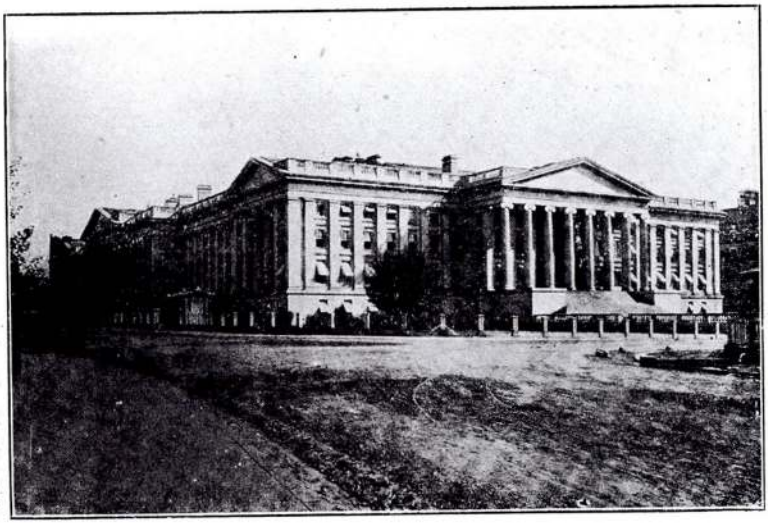
白堊館の北面玄關



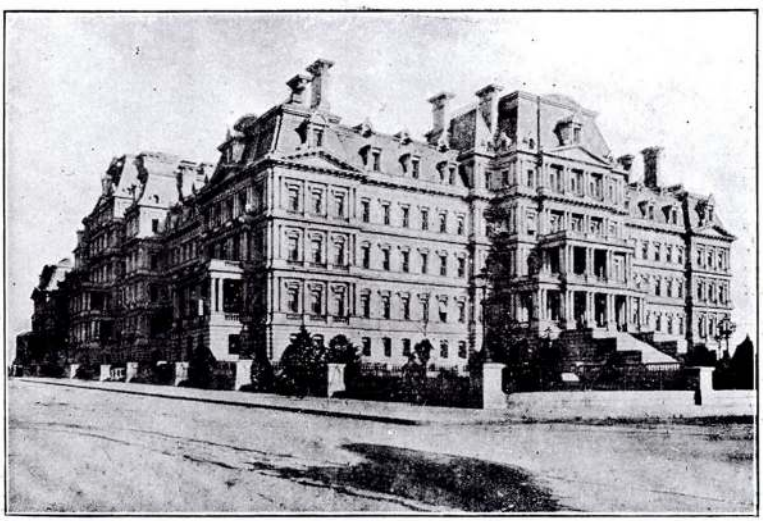
白堊館の東表玄關

白堊館は華府に建てられた最初の公館である。ワシントン氏自ら地を相し一七九二年建礎式を擧げたが一八〇〇年二代大統領ジョン、アダムス氏始めて官邸として使用した爾來此簡素の石造建築は米國の國寶となつてゐる・修繕に際して白ペンキを塗つたため白堊館の名を得た、設計は有名なるジエームス、ホーバン氏の經營に成つたのである・

平和の都（其九）



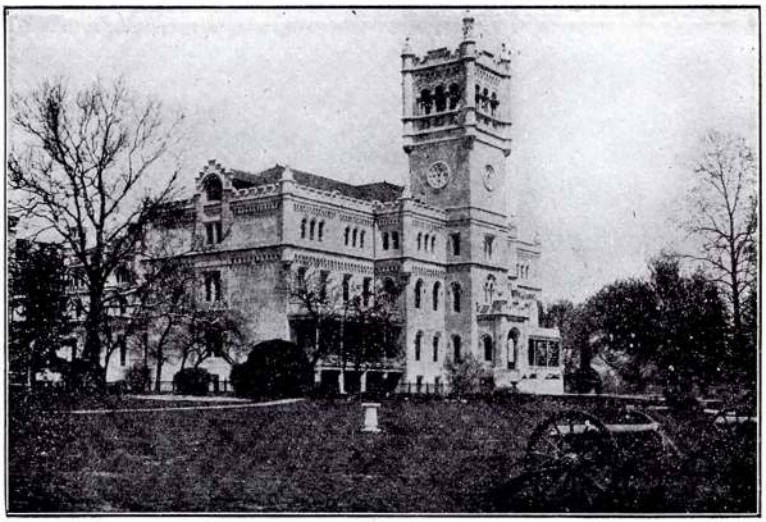
合衆國大藏省



國務省及陸海軍省

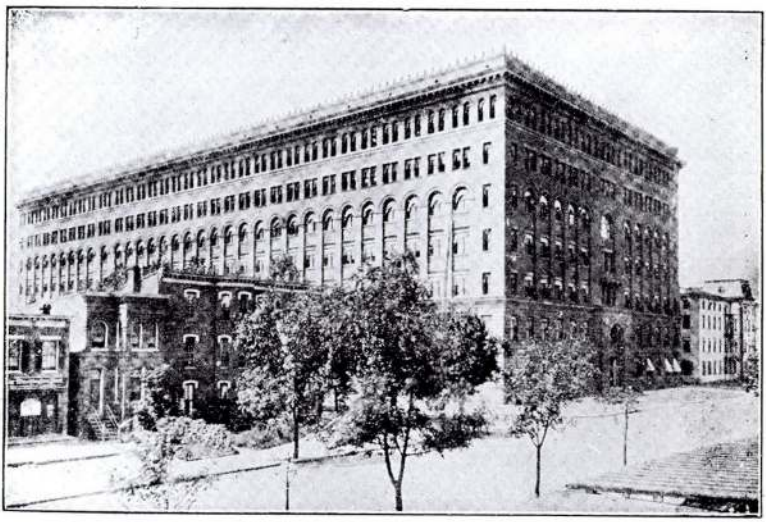
建國創業時代の俤を今に傳ぶ白堊館を挟んで南に大藏省北に海陸軍省の大建築がある。蓋し大統領の行政館の主腦である。大統領公園の兩側には尚重要の諸館があるが基礎に威嚴に於て此の二大館に及ぶものがない。由來華府は政治の府である、そして華府の霞ヶ關は如何にものんびりした風致を備へてゐる。

平和の都（其十）

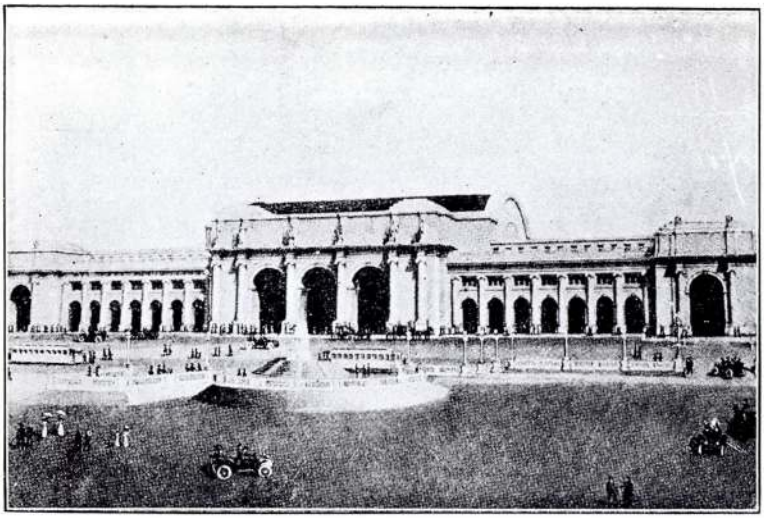


華府の軍人倶樂部

平和の都には軍人迄平和を喜んでゐる、華府の北郊に廣大なる敷地を領有する軍人倶樂部は如何にも亦米國式な處を見せてゐる今度の大戰爭後には念々息呼吸を荒くすることであろう。印刷局は北議院通の北側に在る七層の大建築郵便局と相對して政府の重要な建物である。



合衆國政府印刷局



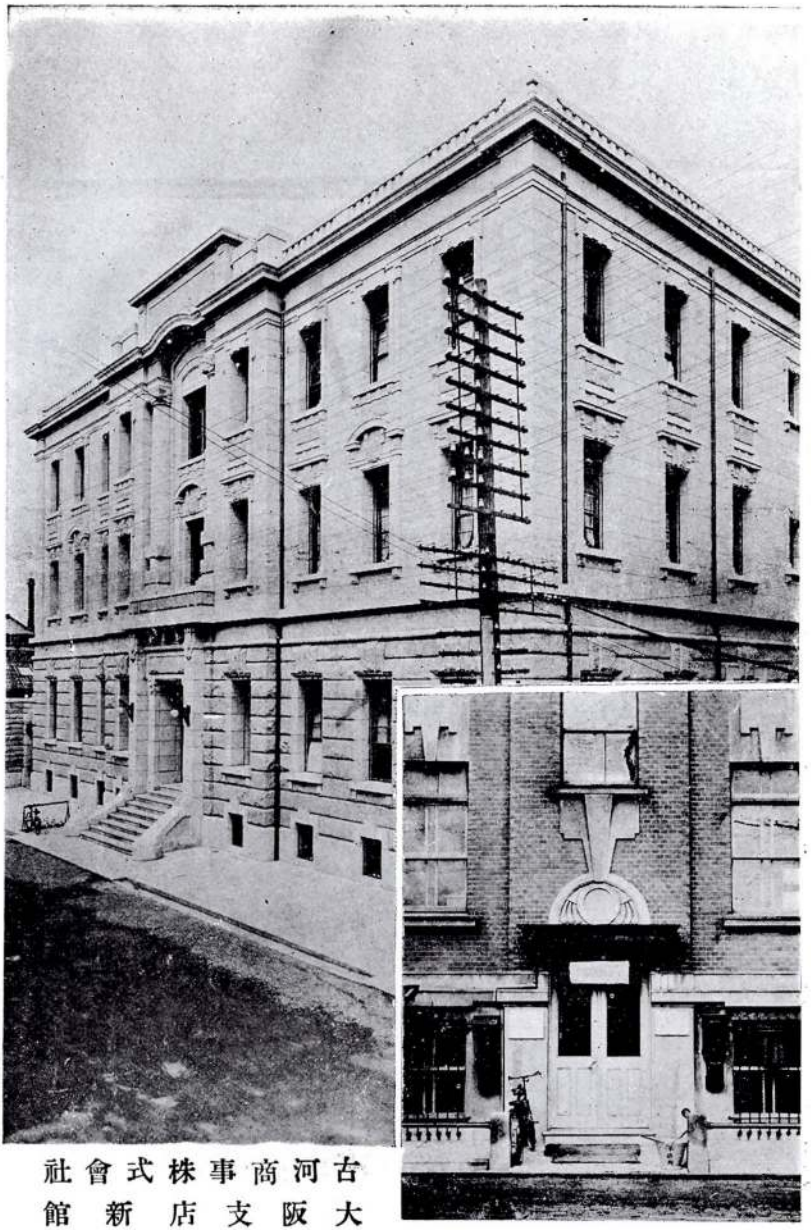
ユニオン大停車場

米大陸の建築が雄大なる其國民思想を体現して居ることは數多の實例の證明する處であるが此ユニオン大停車場の如きは亦遺憾なく彼等の抱負を窺ふことが出來る、英國流の建築觀では到底律することの出來ない表現を持つて居るのである。



ユニオン停車場の大待合室

都市建築の今昔（十九）



古河商事株式會社
大阪支店新館

同社舊營業所支關



家屋政策確立の急要

方今文明國の都市として家屋政策を實施せざるは獨り我國の都市あるのみ、之を國家進運の本體より見るも亦社會民衆の幸福より見るも、到底現代文明の眞髓を得たるものと言ふべからず。我國現時の社會組織は明治維新の大破壞により一たび其根底まで之を刷新したりと雖も、歐米文明の形骸に眩惑して其精神を忘れ、形骸其ものを新組織建設の基礎となしたるの嫌少からず、殊に社會政策的施設に至りては全然之を眼中に置かず以て今日の甚しき欠陷を助成したるは、吾人の最も遺憾とするところなり。今や朝野共に漸く覺醒の機運に達し、救濟事業の調査を始め、民衆の保健衛生、都市の改良計畫及市場の整理にまで研究の歩を進めたり。然るに都市の家屋政策は此等の諸問題に超越する緊急なる施設なるを知る時は、其政策樹立の急要なるは言はずして明なり。吾人は輿論の更に一層緊張して此問題の解決の速かならんことを冀はざるを得ず。



都市計畫と建築界の任務（上）

會員　野村一郎

一

近時都市計畫の輿論勃興して、世上識者の注意を換起し、政府當局者亦進んで、之が實行を企劃し、今や內務省に於ける調査委員會は着々基礎法案の推考に努力しつゝあり、近く法律案として議會の審議に附せられんとするを聞いて、誠に喜悅に堪へない次第である。しかも此の偉大なる機運を捲き起したる原因が種々あるにせよ主として吾建築家の努力奮闘の賜であるといふ點については大いに愉快を感ずるものである。殊に吾關西建築協會の活躍は實に目覺しいものであつたのである

乍然都市計畫の事業は決して一朝一夕に解決し去らるべき問題ではない、今日政府當局者が到來せる機運を逸するなく、よく專門家の意見を容れ、些の躊躇なくして此の大事業に指を染めたるは誠に勇斷であつて敬服に値するものがあるが、同時に此の大事業の完成には必ずや相當の準備と大なる覺悟がなければならぬ、既に着々調査の歩を進めて各般の研究に審議を重ねつゝある以上は改めて此の點について當局者の一考を煩はす必要はない筈である。乍然此の事業の前途は實行に當つ

て頗る多難であり且つ長年月に亘りての努力を持續しなければならぬ丈けそれ丈確實なる一歩一歩を踏んで行かなければならない。由來吾國現時の多くの施設が輿論の勃興に促されて實施せらるゝも、兎角急速なるが爲めに粗製濫造の傾向を齎らし、却つて何等の効果なくして徒らに空規空文に流れ、數多の法律案が世上の物笑となりつゝあるのを觀るときに私は大に考へねばならぬと思ふ。例へば未成年者禁煙法案の如き、或は最近に實施せられた工場法案の如き其好例といふべきである今日に於て徒らに空文に終つたる如き感ある法律案が其の擧がるべき効果なくして吾れ人共に笑止かりつゝある如きは法治國民の執らさる處ではないか。此等の法律案が世上の問題として全社會の注目を喚起しつゝあるの際に在つては世の識者は其議會を通過せらゝを望むこと旱天の雲霓も啻ならざるものがあつたに係らず、一度通過し去つて後の國民の体度は頗る冷々澹々としてゐると思ふときうたゝ慨嘆に絶へぬのである。

都市計畫の事業は決して斯くの如き程度の呑氣さ加減を以て計畫し又實行する譯には行かない。何處迄も眞面目に其基礎を堅め遠大なる識見と永遠なる努力とによつて確實なる効果を收めなければ、要するに何にもならぬ、今や政府當局者は衷心其必須なる所以を認めて之れが基礎案に努力しつゝあるとき切に其永遠なる良果を齎らすべく各般の事項につき細心の注意を拂つて國利民福の增進を謀らねばならぬ。私は都市計畫の將來に就いて聊か自分の希望を茲に述べておきたい。

二

由來我國現時各般の施設は泰西文明の輸入到來によつて刺撃せられ、殆んど急歩の狀態で大膽な

る模倣を敢行して來てゐる、而して其結果を通算すれば各一得一失あつて其利害勘定は到底今日精算を立つることが出來ない程種々雜多であるし、又到底計算の餘裕もない程に多忙多繁であるが顧みて輸入文明の同化作用に於て利害相半ばするもの頗る夥多なるを觀るに及んで、新たなる事業を計畫するものは須らく充分なる研究を積み徹底せる理解を把握して遠大なる企劃を樹立し悠々着實なる努力を敢行するの要がある、若し夫れ其事業の出發点に於て一歩の誤差も將來に於ては千仞の徑程となるを知るときは、實に其第一歩が緊要であるのは勿論である。都市計畫の事業亦此の出立點に充分の用意がなくてはならぬ。

政府當局者は既に着々之れが準備に精勵し、從來其調査し得たる材料を基礎として尚數多の專門家を聘して今日に於て主要なる本問題の基礎案を作成しつゝあるのであるが、此の重大なる時機に於て少なくも機運の到來を認めて是が實行を期するの覺悟を確定するや、固より幾多の法律案として具体的の成案を得んことに努力するは當然の成行であるが、徒らに歐米各國の施設を摸倣するに力むるの餘り、我國現今の國情地理並びに國民思想の歸向を悉細に研究するの疎ならざらんこと切望に堪へない。

既に數多の施設が利害相半はするもの多きを認むる私は都市計畫の前途に對して此際幾多前車の覆轍を踏まざらんが爲めに、吾國情の調査に愼重の注意を拂ひ百年の大計を樹立するに細心の考慮を加へなければなるまいと思ふ。

固より都市計畫の事業たる各般の問題を抱容して一朝一夕に解決し去らるべき程度のものでない

況んや都市計畫を施行すべき地は吾日本國である以上我國現時の情勢とやがて來るべき百年二百年の國家の前途を達觀するの要がある。而してこれや實行案の重大なる要素である、各般の科學的施設に於て幼稚にして貧弱なる日本帝國の現狀は、歐米諸國の現狀と對比して雲泥の差あることは明々白々の事實であるにせよ、彼の長を採り此の短を識るの際に於て彼が斯くの如くであるが故に此か亦斯くの如しといふが如き簡單なる論理で律すべきでない事に注意しなければならぬ、泰西文明の輸入咀嚼の道程に於て數多の失敗せる實例は彼の尺度を持つて此の地を輕卒に測る所に歸因せるを識るとき亦卒然として深く慮る處がなくてはならぬ。

都市計畫の事業は既に吾國に於ては其名稱すらが初耳であるとされてゐる。都市計畫の研究すらが少數識者の注意し來つたに過ぎないとされてゐる。況んや實行に於ておやである。今日幸にして吾國の現狀が頗る幼稚なる丈に是が着手に當つて各重要都市が最都合よき狀態であつて今日を措いて好機逸すべからざるものがあると認められるゝならば之れが實行に當つては却つて輕々に着手すべきでない事を注意したい。

都市計畫の考慮研究すべき各般の事項は幾多の諸名士諸先覺者の痛論せられた所であり、且つ調査委員會の組織せらるゝや其人選の範圍に私の期待を裏切らなかつた以上は、調査委員會に於ける査定が愼重なる熟議を持續せられてゐることゝ信するものであるが、急いでは事を仕損んずるの俗諺にある通り、大局を逸して吾國情を無視せざらん事を哀心希望して止まない。

都市計畫の各般の事項についても、之が査定に當つて其企劃の骨子は出來得る限り遠大であらね

ばならぬ、大局を打算して掛からねばならぬ、大局を打算し永遠の考慮を樹立するの後に於て初めて其實行案の具体的研究に移るべきである。しかも其大局の打算が頗る問題であらねばならぬ、我國今日の凡ての事業施設が多くは中途半端な狀態に行詰つてゐる、此の行詰つてゐる現狀を將來に如何に改良進歩せしむべきかが定まらぬうちはうかと實行案には進めない筈である。只幸にして都市計畫の主要なる部分の一たる建築法案は一日早く實施されば一日丈の利益を國家に齎らし得べき點は既に識者の認むる處であるが爲めに調査委員會に於ても特に之れが急設を要望し近く其發表を見んとする樣子であるが、急ならんとするが爲めに遺漏なからしめんことは甚だ困難なことであろう。乍然刻下の各重要都市の狀況は一日も其現狀を放置して置けぬ以上は今日にて調査し得られる丈の研究を積んで其成績を實際に徵するの外はない。何事も初手は試驗である、元より完全を望むは無理である、唯特に注意すべきは大局を執へて主要なる事項を逸しない工夫が緊要である。從つて其條項は簡にして要を得ることに努力して欲しい。徒らに細微の點に拘泥して動きの執れぬ愚策に陷らぬ事である。

元より建築法案の各項に就いては夫々に愼重の熟議を重ぬべきであるが、決して條文のみの完璧を期することは避けねばならぬ。要は運用にあつて條文にない。況んや各都市各地方に依つて夫々の得失があり夫々の事情を異にするに於ておやである。

三

都市計畫の事業が今日識者の稱導と當局者の自覺とに依つて既に其第一歩を運びつゝあるの時に

當り、此の事業の遂行に最も重大なる役割を負擔しなければならぬのは、吾建築界である、政府當局者が今日の好機を逸すべからずと認め其勇斷を敢行するの覺悟を定めた所以は主として吾建築界の現狀が此の大事業の遂行に堪へ得べしと觀察したるが爲であることは明かな事實である。亦吾建築界が卒先して輿論を喚起し進んで此の多難なる事業の遂行に努力し且つ重大なる任務を双肩に擔ふの覺悟があつたればこそ遂に政府當局者を動かし得たものである。果して然らば吾建築界の責任は重且頗る大といはねばならぬ、いはゞ吾築建界は自ら求めて此の重大なる問題を打出し、且つ進んで其役割を負擔せんとしつゝあるのである。而して吾築建界の自覺は果して政府當局者並びに世上識者の期待に背かぬ丈の自信ありや否や、吾建築家諸君の自信や如何に。吾建築業者諸氏の覺悟や如何に。

私は今更茲に吾建築界の責任を問ふの必要はないと思ふ。堅實なる其覺悟と其偉大なる自信は當然吾建築界に湧出しつゝあるものと認めない譯には行かぬ。乍然一歩退いて此の重且大なる任務を思ふとき、決して輕々しく第一歩を踏み出すべきでないことを痛切に感ずるものである。

既に政府當局者の覺醒によつて着々其調査は進められつゝあるの際に於て、吾等は如何なる体度と如何なる方針によつて吾等の進路を開拓し行くべきかに愼重の考慮を加へ、上下相待つて前途を謀らねばならぬ。況んや都市計畫の事業が頗る多方面なる社會的問題を抱容し、吾國百年後の世運を打算しなければならぬに於てをや。彼の徒らに都市計畫の名に囚はれて脚下に横はる重要問題を閑却して細部の事項局部の研究に沒頭して吾國都市計畫の將來をしてあらぬ方向に行詰らすること

あらば後代の建築界に對して殊に申譯のない始末となるのである。豈夫れ吾建築界の爲めのみでない國家百年の將來に重大なる損失を招く所以であらねばならぬ。

若し吾建築界が今日の重大なる任務を眞に自覺し眞に直覺し得たならば、先以て廣く深く且高く大きく眼界を開き、各員各自其爲すべき任務を分擔して最善の努力を棒ぐることに自からなる默契がなくてはならぬ筈である。若し夫れ一二少數の先覺者の努力に此の重要問題を負擔せしめ有爲多望の諸建築家は手を束ねて對岸の火災視する事あらばそは吾建築界のために執らさる處であろう。若し夫れ此の重大問題をして吾建築界の總体の任務とするの是認なくして或特種の團体者のみの問題とするならばそは吾建築界のために執らざる處であろう。或は亦或一都市より觀察し行きて吾國諸都市の大勢を忘却する樣なことがあつては吾建築界のために執らない處であろう、若し夫れ建築界の此の重大問題をして吾建築家のみの問題として片隅の世界より眺め得たる見解を以て律し去つたならばそは本問題の將來に憂ふべき暗影が投せられる事であろう。

私は先以て建築界全般の覺醒が今深く且つ廣く行き渡ることを希望して止まない。そして多くの建築家が層一層の眞面目の体度を以て絕へず大局の打算に失敗のなからんことを注意して止まない目下政府當局者間に於て審議中の成案が、來春の議會を首尾よく通過するにせよ。本問題は決して其第一步を確實にし得たとは思はない。又政府案が多くの建築家の希望に添ひ得るの結果を齎らし得たにせよ。具体的の成案が發布せられたるが爲めに何等の安心を感ずることは出來ない。吾建築界の全体が本問題を痛切に味ひ切實に究め行かぬうちは決して油斷すべきでない事を主張したい。

少なくも吾等が今日の建築界に棲息してゐる間に此の重要問題が其第一歩を踏み出すことに衷心の理解が吾建築界に徹底せぬならば吾建築界の努力は甚だ輕からざるを得ぬと思ふ。況んや將來の建築界を双肩に擔ふ若い人々の頭には少くとも私等中年の者の考へてゐると同程度の理解があつて欲しいと思ふ。やがて諸君の問題であるに相違ないではないか。

私

私は吾建築界の覺醒が廣く深く行き渡ることを希望した。高く大きく研究されんことを切望したそして更らに大局の打算を誤ることなく第一歩の確實なる効果を得んことに吾建築界が擧つて努力すべきであると注文した。それと同時に吾建築家が此の重大問題を片隅の世界から色眼鏡を以て窺ふべきでないと注意した。

茲に私は更らに一歩を進めて吾覺醒しつゝある建築界が擧つて爲さねばならぬ一つの重要問題のあることに注意したい、それは外でもない。之を內にしては建築界の覺醒であるが、之を外にしては實に社會其者の覺醒である。既に都市計畫其者すらが我幼稚なる社會に在つては初耳であることは、曩に建築學の大講演會に於ても水野前內務大臣の切言せられた所である。乍然都市計畫なる名稱こそ吾國に飜譯せられたるは最近の事實であるが、都市經營の事業は決して今日に初まつては居らぬのである、既に本誌に於て片岡氏が特に詳述せられたるが如く、奈良及京都等の帝都が頗る雄大なる計畫によつて實施せられたることは吾國の歷史の上に明確なる誇るべき事實であるのである降つては鎌倉幕府の創設の如きは當時に於ける大規模の劃策であらねばならぬ。更に降つて桃山期

に於て都市計畫の偉大なるものをして我大阪城下の經營の如きは其好例である。當時太閤幕下の三將たる堀久太郎、片桐且元及筒井順慶等が大阪城の改築を命ぜられて晝夜兼行其業に從事した事實は其屯在地に久太郎町、順慶町、片町（元片桐町と稱せり）の名を殘せるを見るも知ることが出來る。又黑田如水軒の指揮の下に成りし福岡城下の創設や、或は加藤清正の熊本城下並びに其藩内の施設の如き擧げ來れば甚だ多いのである。況んや德川治下に於ける各諸藩の小規模なる主要都城が今日重要なる我國都市の淵源をなせるを觀ば決して大正時代に始まつたものでないことは明かである。

蓋し明治時代の四十有五年は國運の開拓に國力を傾け、あらゆる科學的文明の輸入に努力して亦他を省みる餘悠なかりしが爲めに、德川時代に小規模ながら經營されつゝありし、各藩城下が自然の消長に依つて何等の制裁なく何等の規則なくして盛衰興亡し來り、今日遂に識者の注目を蒙り始めて新時代の新熟語の輸入と其模倣を敢行せんとするの時期到來したるに過ぎないのである。

乍然過去の時代の遺物よりして脫化變形し來りし各都市が明治時代の過渡期を如何に無邪氣に如何に不用意に膨脹し來りしか、今日各市の現狀を通覽すれば、寔に明治年間の社會的狀態が如何に無秩序無整頓に變遷し來りしかを反證するのであつて、吾國識者の如何に無頓着なりしかを知ることが出來る。幸にして吾國帝都たる東京は其丸の内の一角に於て有力なる識者の存在するあつて不規律なる過渡期にも悠々面目を新たにし來らしめたるは、後人の忘るべからざる處であろう。乍然大東京の大部は遂に何等の建設的施設の見るべきなくして今日遂に行詰らんとしつゝあることを顧

みて天保時代より學ぶべき數多の敎訓あるを觀るのである。

蓋し是れ明治時代の政府當局者があらゆる泰西文明の輸入咀嚼を斷行せしに係らず、兎角は歐米諸國の皮想觀に累せられて、急造の新日本を造るに沒頭して何等大局の打算に着眼し得ざりし不徹底文明則ち片輪文明を樹付くるに汲々たりし爲めに依る處が甚だ多いと思ふ。

觀じ來れば大正時代は明治時代の亂雜なる成績を收集するに努力すべき時期である。必ずしも都市計畫といはず、各般の事物に就いて何等雄大なる基礎案を確立し得られなかつたのである。今や漸く脚下の動搖を成して萬般の設備に改築を策すべき時代となりたるものであると思ふ。

さりながら四十有五年の長年月を不秩序に不整頓に養成せられたる我國都市文明の現狀並びに市民の心理は到底一朝一夕に改造せられ得べくもない樣である。

茲に於て私は都市計畫の第一歩を確實に踏まんが爲めに吾建築界は進んで此の亂雜なる社會的整理と不秩序なる市民の思想を改造することに新たなる劃策をしなければならぬ。今日の都市文明は到底過去の不秩序を其儘踏襲して行くことに堪へ得られぬのである。此の亂雜紛糾の社會狀態を脫却しなければ進んで世界の競爭場裡に優者たることを得られないのである。而して此の社會整理に從事すべき役割には果して誰か當らなければならないであろうか。固より夫々の分擔がある筈である。そして其有力なる責任者の役割に吾建築界が居ることは決して忘却すべからざる事實である。吾建築界は社會の將來を何うなるであろうと考ふべき時でないことに氣が付かねばならぬ、斯ふすべきであるといふ確實なる成案を樹立すべき時機であることに氣が付かねばならぬ、吾建築界は徒

らに歐洲文明を模倣して萬事終れりとして居るべき時でない事を自覺しなければならぬ筈である。斯く考へ來るとき吾建築界の任務は則ち退いて考へ進んで盡すべき重大なる時機に到來したのである。既に重大なる問題を双肩に擔ひ、重大なる任務を遂行せんとするとき更により重大なる事實を發見したものであると思ふ。そして此の事業が誠に男らしい價値ある骨折甲斐のある事業であるのみならず、やがて都市計畫の完成に到來することに覺醒し盡さねばならぬと思ふ。(丁)

◻ 新しい言葉 ◻

……日本に於きましては都市計畫といふ言葉それ自身が新しい言葉なのであります。第一都市計畫といふ言葉が適當な言葉であるや否やといふことに就いて實は此度公の文書に現す上に餘程考慮を致しましたが、外國などで「シテッテバカ」と云ふやうな言葉があります。都市計畫と云ふ言葉自身も新しいし、又都市計畫なるものは今日まで企てたことがない。唯東京市に對して東京市區の改正爲すが爲に東京市區改正條例、東京市區改正委員會と云ふやうなことがありまして、之に依て東京市區に對する改正事業と云ふものは或る程度まで實現したのであります。其以外に於きまして今日所請都市計畫なるものは我が國にはなかつた。……

(建築學會大會に於ける前內務大臣講演の一節)



運河に就て（下）

東京高等商業學校教授　石川文吾

本稿は國民經濟雜誌に寄稿せられたる高論にして我建築界のために特に同氏の許容を得て掲載するものに有之深く同氏の厚誼を謝す（編輯員）

五

吾人は鐵道なる至便の利器が大に使用せられつゝある現時に在りて尚運河には決して捨つべからざる固有の長所あるを信ずるものなり。先づ其供する直接の利益を擧げんか其第一は運河に依る運輸の費用が甚だ低廉なる事之なり。運河の運輸費を鐵道の夫れと比較せる數字は數多の事物に引用せられあるも各地經濟事情の一樣ならざる結果は地方毎に其割合甚しく異るものあるを以て是等の數字に依て幾何の節約を期し得べきを判斷し難し。從て是等數字上の復雜なる比較を爲すを避け只如何なる場合にありても運河通過の貨物の負擔する運賃が鐵道經由の夫れに比し著しく下位にある事を力說するに留めん。從來英に米に數多の鐵道業者が運河を競爭の强敵視して之れと拮抗するがためにあらゆる手段を盡しつゝありし事例を記憶する者は此斷定が單なる憶斷に出づるものにあらざるを肯定すべきなり。

鐵道にありても運河にありても運送費を定むべき重要條件の內に考ふべきは其の建造費、船車費及動力費等之れなり。建造の費用は國に依り一樣ならざるも英國の例に依れば鐵道は一哩に付き五萬磅を要したるに對し運河は僅々一萬百磅餘を要したるのみ。這は英國現存の運河が概して小規模なる爲めに生じたる異數の例なるべく佛國にては鐵道が一萬七千五百磅に留まれ

るに反し運河は一萬一千六百磅を要したり。是等は平均の數字にして建設地の狀況に依りて兩者に要せらるべき費用は大差あるべしと信ぜらるゝも如何なる場合にありても特別なる事情あらざる限り運河開鑿の費用は概して鐵道建設費の下位に存すべし。維持に要する經費に付きても運河は遙かに負擔輕し。コンダーは鐵道に於ける强烈なる摩擦に伴ふ線路車輛の消耗は運河の維持に必要なる費用の四倍半を超ゆると論じたるが、英國商務院の調査に從ふも運河の維持費は一哩に付五百十三磅に過ぎざるに鐵道の夫れは千九百二十八磅と傳へられたり。運輸の具たる船舶と車輛との比較は一層運河に有利なるものあり同一分量の貨物を、搭載すべき船舶と車輛とは其建造の費用同日の談にあらず。加之通常の貨車は其自身の重量其の積み得べき貨物の重量の二分の一乃至四分の三に達するに反し運河用の船舶に至りては其重量は其積み得べき貨物の重量の五分の一又は六分の一に留まるを以て鐵道の運送費中には運賃を拂はざる多大の重量に對する報酬をも含有するに至るは當然の結果なるを記憶せざる可らず。ウエルスの云ふ處に據れば二百二十噸の積荷を運ぶべき列車は三千三百六十磅を要するも同一量の運送に堪ふる汽艇は千六百磅を以て買ひ得べく而して此汽艇は別に千磅を値する二百噸積の船舶三隻を曳くの餘力あるを以て運河に於ける船舶費の低き到底車輛費に比すべきにあらず。動力に付きては既記アボットの言の如く水上に於ける抵抗は陸上に於ける夫れに比べて遙かに低き結果水上の費用亦陸上に於けるよりも少く從て亦船艇の被害消耗も車輛の夫れの如く大ならずして維持費修繕費に有力なる差異を生ずべし。歐米の例に依る運河上の動力としては挽馬を用ふるもの汽力に依るもの、石油發動機を使用するもの及電車をして陸上より牽引せしむるもの等あり。挽馬は最舊式の方法なるも尙一頭能く百噸の貨物を載せたる小艇を牽くを得べし設備整へる運河にありては二頭の馬能く三百噸の貨物を牽引するの例ありとす。第二に注意すべき重要なる

長所は運輸力の大なる事之れなり。鐵道上にありては牽引すべき物の重量加はるに連れて要せらるべき動力の減少する割合少きに對し運河上に在りては速力緩なる場合に於ては二百噸の積荷にても二百五十噸の積荷にても動力の費用に於て殆んど差なく從て嵩張りたる原料品の如く運輸貨物の單位が大なる場合に於て運河は特別なる長所を有するものなり。第三は運河の輸送が鐵道の運輸に比して安全なる事實を閑却すべからず。摩擦多き鐵道上を馳驅する貨車にありては其の斷へざる激動は往々にして輸送荷物に被害を生ずるを免れず。速力の大なる場合に於て此事特に然るものにして大理石の彫刻物等が屢破損する原因實に茲に存す。之に加ふるに特に脫線衝突等の災禍を以てす鐵道貨物の運命想ふべきなり。運河に依る貨物は緩かなる水面を滑かに進む船上に在り平生何等の激動を感受せざるのみならず時に奇災の生する事あるも其結果や多くは汽車積の貨物の被むる如き被害を造り出さゞるべく何れの點よりも危險を冒す事少きは何人も認むる處なるべし。最后に尙一の附記すべきは運河は其全線を通じて到る處格別の設備なくとも貨物の積卸を爲し得るの便宜ある點に於ても亦鐵道に優越するの長所ある事之なり。

運河の具有する間接なる利益としては先づ其流域の各地に亘りて廉價なる運輸の便宜を提供して各所の天賦の富源を遺感なく發達せしむる事を擧げざるべからず。鐵道が如何に發達するも尙幾多の地方は或は最近の停車場との距離の關係より或は其他の產出物が鐵道業者の定むる運賃を負擔するに堪へざるが爲め又或は其鐵道に於ける貨物が常時餘りに輻輳し居る爲め其惠澤を受くるに至らず。可惜富源を抱擁しながら產業起らず人烟稀少なる寒村として存するもの決して尠しとせず。運河一度通じて是等地方を幸せんか此動脈を通じて流布する活氣は神速に有益なる刺戟を與へて拓植の業鬱然として勃興せずんば止まざるべし。第二は運河の利用に依りて國際的通過商業を國內に招致し得る事之な

ん。固より國勢の如何にも因る事なれども白耳義の如きは久しく此點に留意して國内の運河の使用料を定むるに方りて開鑿の費用を眼中に置く事なく專ら隣接せる佛、獨、蘭等の運輸機關の徴する料金に鑑み幾分之れより廉價なる運輸の便を供して近隣の國に移るべき通過商業を其國々民の手に收むる事を謀りて成功せる顯著なる實例なり。第三大規模なる運河の存する處内地深く存する都邑も亦海濱にあるものと等しく重要なる外國貿易港となり得べき事之なり。運河は單に距離を短縮せしむるのみならず海洋を經て入り來る船舶を直に内地の地點に達せしむるを以て積替への費用を節約せしめ當然高かるべき内地の運賃を不用ならしむ。曩に引用せるアボットの著書に記する處に依れば佛國第一の外國貿易港としては人多くマルセーユを擧げんとするも輸出入品の額より評すれば巴里こそ其首位にあるものと云ふを得べく、此地セインの河口を距る百二十四哩の内地に位するも蛛網の如き運河は遠く延びて白耳義の各地ライン地方ダンカーク等に連接し、是等地方及び是等地方を經由し來る諸國の商品を載する舟舶の出入の頻繁なる佛國隨一の外國貿易地として推すべきものありと云ふ。或は更に運河の水を利用して灌漑の便に供し其水力を用ひて簡易なる動力を作るの便宜も亦伴ふて生ずべきなり。既記ヘバーンの世界人口水路論中には支那の運河を說くに方りて彼國にては運河は同時に重要なる養魚場にして此言葉に於て國民を利する處少からざるのみならず其の水底の沈澱物は重要なる肥料として亦彼國農業者の重要視するものなる事を併記したり。或は附記して運河の提供する間接なる利益の中に算入するを得べきか。

六

運河事業と鐵道事業の比較價値如何、運河と鐵道とは兩立し得べからざる競爭者なりや否やの問題は從來屢學者實業家の論爭したる處なり議論は暫く措き多くの鐵道業者が過去に於て執り來れる態度は何れも運河を以て其事業の强敵

となし融和し得べからざる競爭者となせるもの
ゝ如く其發生を沮止し其發達を妨壓する爲めに
手段を撰ばざりしなり。彼等は常に運河と鐵道
とは互に其の何れか一方の衰頽萎縮に依りての
み他方の隆盛發達を期し得べきものと解し來れ
るもの〻如し。其結果は Canal strangulation
movement となりて或は運河に併行する部分の
貨物運賃を極度に引き下げ（無論旅客運賃に於
て競爭なきを以て引き下ぐる事なし寧ろ之れを
引上げて貨物運賃の減收に供ふる例あり）。或
は競爭の位置にある部分の運河を買收し又は其
制御の下に置き其部分の通過料を引き上げ或間
通航禁止を行ひ又は故意に修覆を怠りて全線の
利用を難からしむる等の手段に出でたり。マン
チニスター運河が計畫せられたる當時英國の鐵
道業者は此運河にして成功せば一旦終熄せる運
河を再興するに至らしむる恐れもありとして先
づ議會に於て其案の通過の防止に盡くして多額
の運動費を支出し、運動敗れて同運河設けらる
〻に至りてはマンチエスター、リバプール間の
運賃を極度に引下げて其事業を妨害し遂に此運
河會社をして久しきに亘りて寸毫の利益配當を
爲すを得ざらしめたり。之れより先セバーン川
改修せられ四百噸級の艀艇直にウースターに達
し得るに至れる時も競爭の地位に在る鐵道業者
は運賃戰を開始して其營業としての成功を難か
らしめたり。米國にてはイリー運河は終始鐵道
業者の嫉視する處にして彼等は運河開通期間は
バフワロー紐育間の運賃を運河經由荷物の負擔
する處と同一程度に引き上げて夏期に於ける損
失を回復せん事を期するものなり。其餘多くの
實例は鐵道業者が當に運河を嫌忌して策を盡し
て其繁榮を奪はんとせるを示すものあり。元來
鐵道の如く一方に旅客運送をも經營し貨物運送
の損失を彼に依り幾分にても補償するの便宜を
有し年內或期間は休業せざるを得ざる如き弱點
なき鐵道業者は運河業者に對して殆死命を制し
得る場合も多きを以て、斯くして千八百四十六
年以來屢英國に現はれたる事實の如く時に多大
の資を投じて成れる運河が徒らに無用の長物と

して化了せしめらるゝ事も起り來るは經濟界の爲めに惜むべきなり。

鐵道は果して運河と兩立し得べからざるか、其の何れか勝れる一方を存せしめて他方は之れを止め將來長く其の勝れるもののみ使用する事の必要あるべし。若し兩者は異れる方面に特色を有し俱に偕に發達し得るものなるか、其性質を研究して兩者相侵す事なからしむるを要す吾人を以て之を視るに運河の開通は鐵道業者をして其の從來有し來れる重量貨物の運送の大部分を失はしむべし然も運河の通ずる處事業生じ都市立ち鐵道に固有なる快速力を以て輸送せらるゝを要する製品其他の需要起りで鐵道を利し快速力を要せざる重量貨物の出入亦加わりて其一部は運河あるに拘らず鐵道貨物として托送せらるゝに至るべし。從來の寒村化して都邑を生せば旅客の往來亦繁かるべく運河が旅客運送を行はざる今日此事實は獨り鐵道事業をのみ幸するを忘るべからず。此事たる國際運河會議に於て數次獨逸の代表者が力說せる處にして又幾多事實を裏書する處なり。マンチエスター運河は結局鐵道業者に利益を與へたるはグレートセントラル鐵道會社のフェー氏が公言する處たり。フランクフヲートはメーン川の運河工事ありて以來貨物の出入急に七十萬噸を增加し此數量は運河と鐵道との間に略均等に割取せらる。Lake Shore and Michigan Southern R.R., New York Central and Hudson River R.R. 等の米國の鐵道が有力なる運河に沿ふて設けらるゝに拘らず是等運河が改良せられ行くに伴ひ最も良好の成績を呈しつゝあるは亦這般の消息を窺ふに足らん。

運河の專ら輸送する處のものは急速力を以て送附するを須ひざる大貨物ならずんばあらず。從て腐敗變質の患なき又は流行の變動に依りて販路を左右せらるゝ事なきもの輸送に月を曠ふするも金利を失ふ恐れ少き廉價のもの等を主とすべく此一事既に鐵道との事業上の分界を明にし得るものと云ひ得べし。上記ヘバーンの著書中千八百九十年、千九百十年及び千九百十一年

に於ける佛國の水路を經由せる貨物の分類の掲げらるゝあり。就て見るに最も多量なるは建築材料にして總量の三割五分以上を占め燃料用の礦物三割を以て之に亞ぎ農產物及食料品は更に之に次で一割三分に當る。其他肥料、薪材、木材等多きを占め工業品の如きは僅かに三分を出でざるなり。英國の運河調查委員が發表せる事實に依れば彼國の運河の主として輸送するものは石炭にして四割五分を占め鐵鑛、銑鐵、建築材料(石、煉瓦、瓦、石盤、木材、セメント等)道路材料(砂、砂利等)塵埃之に次げり。是に依りて之を觀れば運河は是等の嵩張り物の運送を鐵道業者より釋放して彼等に與ふるに其の最も適任たる種類の運輸に就くの餘裕を以てするものとも云ふを得べし。鐵道業者の大なる活動に待たざるべからざる事業は其快速力を發揮せる旅客運送及び比較的高價なる貨物(持久性なき商品)の輸送之なり。從來の如く鐵道業者が運河向きの貨物の輸送に任じ居りては彼れ等は到底其天與の職に忠なるを得ざるは自明の理にして現時既に屢此点に關し幾多の缺陷を感じつゝあり將來に於て一層然るものあるべし。

運河と鐵道の任務の分野は炳乎として明なり運河は其費用の少き点に於て存在の理由を有し鐵道は其速力の大なる事に於て奪ふべからざる長所を具ふ。兩者其の最適の方面に專心貢獻を期せば双方の利益は決して相牴觸する處なく寧ろ兩々相扶けて互に益する處大なるべし。而して社會全般の利益よりせば兩者俱に存する事に依り運賃の暴騰、取扱方の不親切の如き動もすれば獨占事業に免れざる弊を未然に防ぎ得るの利生すべきなり。

七

吾人は上文に於て運河が吾國に起らざる理由を索めて其地理的形勢に依るにもあらず鐵道の發達が之を無用ならしめたるが爲にもあらず運河は依然特有の長所を有するに拘らず吾國には只何となく發達せざる事實を舒述し來れり。既に其必要を認め而して其發達を無用又は不可能

とする理由なしとせば當然の結論は吾國に運河事業を起す事を急務なりとするに歸せざるべからず。

吾人は思ふ吾國には特に運河開鑿の必要大なるべきを。其理由に五あり。一に曰く吾國は世界に類例少き水田國なり水利の用ふべきものある處必ずや田野開く若し運河の通ずるあらば爲めに灌漑の便を得て農家の利を受くる事必ず大なるべし。勿論運河を開鑿したりとて多量の水を得るとは定まらざれども此点に付きても吾國は雨量の多きことに於て世界多數の國に勝るものなるを以て患ふるを須ゐざらん(Mulhall: Dictionary of Statistics, Art Meteorology)。其の二に曰く吾國由來鐵に乏し鐵道機關車等に要せらるゝ材料は凡て之を外に仰がざるべからず米國一度鐵の輸出を禁ずれば恟恐即ち到らんとす。從て鐵道の事業は其固定資本を要する事の大なる到底運河の比にあらず。他日支那に於ける吾利權擴張せられて鐵の自給自在となる日あるやに思わるゝも夫迄は此事業にのみ執着せんとするは策の得たるものにあらざるべし。其三に曰く吾國は歐洲大陸の北部に比し氣候遙かに温暖河川の化して氷源となるが如きは寧ろ稀に見るの事實なるを以て吾國に設けらるゝ運河は歐米の夫れと異り終歲結氷を見る事なく運河としての能力を十分に發揮し得るもの必ずや多きに居らん。其四に曰く運河の特に便なるは内地に産出せらるゝ輸出商品が直に其産地に沿ふて流るゝ運河を下りて港灣に達し此處に碇泊する船舶に横付けとなりて容易に積み込みを爲し得る場合之なり。斯る際若し鐵道便に依るものとせば一旦産地に於て積込を爲し港灣の地に達して積卸しを行ひ更に艀舟に載せて沖合の本船に送致するを要する事となり、其間時日を要し危險を冒し經費亦自ら高きを免れざるべし。吾國の如く港灣の設備概して不良にして多數の港にては本船は海岸近くに碇泊し得ずして沖荷役を普通とする場合に在りて特に然るものあり。吾人曾て九州に遊び上記の事實と反對の實例を見たり。筑豐の産炭地より輸出せらるゝ石炭の

戸畑に集るものゝ大多數は鐵道の便を藉り特に石炭の輸送のために開鑿せられたりと見るべき遠賀川の河流を洞海灣の西端たる陣原に連ぬる運河に依るもの殆皆無なる事之なり。然れども此事たる彼の運河が餘りに小規模にして櫓櫂を以て操縦さるべき小舟を通ずるに足るのみなるに加へて遠賀川が殆自然の儘にて舟運の爲め工事を見るべきものなきが爲め僅に一萬斤を積み得たる艀船にあらざれば通航しがたき事及び洞海灣が若松築港株式會社の作業と鐵道院の設備とに依り善く三四千噸の船舶を岸壁に横付けとなし一晝夜に三千噸の石炭を容易に積込む裝置を數ケ所に有する事の特別なる結果なりと考ふ若し彼の運河と遠賀川の河流とが一層大なる艀艇を往來せしむるに足り同時に洞海灣が沖荷役を要する狀態にありしならんには筑豊炭の多量は水運を利用すべき筈なり。一瞥の管見固より正鵠を得たるを必ずすべからざるを附記して以て世の批正を仰ぐ。其五に曰く吾國の鐵道が貨物の輻輳に苦しみつゝあるは今に始まりし事にあらず當局屢々公言して曰く吾國鐵道の現時の輸送力を以てしては假令之を極度に用ふるも到底是以上の運輸を果たすを得ずと。若し果して然らば吾國に設けらるべき運河は正に鐵道の短所を補足するの働きを爲すものにして斯くありて始めて輸送機關の有効なる動作を見るを期し得べきものにあらざるか。

運河は夫自身に於て現時尚重要なる運輸機關なり。殊に現時吾國に存ずる上記の五原因は吾國に於ける其利用を緊切ならしむるものあり。吾人寡聞にして未だ之れに對する有力なる反對意見を聞くに至らざるを恨とす。

八

運河を設けて好成績を得んが爲めには第一には地盤の平夷ならんことを要し第二には水量の豊富ならんことを要し第三交通の頻繁ならん事を要し第四商工礦業隆盛の土地を連ぬる事を要す。前三項に付きては特に記するを須ゐざるべく第四に付きては此條件あるにあらざれば終歳

多數の通航貨物を見る事難ければなり。農業の如き亦多量の運河に適する物資を供給するものなるも性質上農業地方の運河に對する需要は間歇的にして之に依頼して運河の繁榮を期する事能はざるなり。吾國は第一の條件を具備する廣き地方に乏しと雖も是等の標準に應じて撰む處を定めんか運河の設けらるべき地少きを訴へざらん。

運河に外洋を航する船舶を通ずべき大運河（Ship Canal）と河川を往來する小艇の便に供する小運河（Barge Canal）とあり。吾國の形勢は大運河を要求する事寧ろ少きものゝ如く田尻市長の薦むる鹿島灘東京市を連ぬる運河の如きを外にして或は琵琶湖を浚渫して北は敦賀灣に通せしむると共に南は伊勢海又は大阪灣に達せしむる運河を設くるが如きも亦一策ならんか。小運河に至りては必要限りなく存すべし人若し舟を賃して城東小名木川を下れば大艇小艇舳々相摩するは尋常茶飯事のみ。往く舟來る舟河身を埋めて舟行幾度か停まり或は逆行の止むを得ざるに至り一里の水路時に時餘を要する事稀なりとせず。若し河幅の幾分にても擴張せられ若しくは並行水路の增設せらるゝあらば此地域に存する幾百の工場が時間節約に依り受くる利益の如何に大なるやを思はしむるに堪へたり。思ふに工業隆盛の地にして水路の乏しきがために不便を感ずるもの到處其例少からざるべく此種の運河の新設又は擴張は當面の急務なりと信ず。

運河事業の經營は之を何人に託すべき、英國の實例は鐵道業者をして之を兼營せしむることの不可なるを立証したり。鐵道業者にあらざる民間事業家に之れを經營せしむるは必ずしも不可なるにあらざれども是亦英米等の事實に稽ふるに斯くては各運河業者其地方の要求に投合して眼前の利益に憧憬する事となり各運河の間水深、幅員、閘門の大さ等に統一を缺きて連絡運輸の困難を釀すの恐あるのみならず、運河の如く流域の廣き範圍に惠澤を布く事業にありては之を民間の事業家の奮起に待たんとする於ては流域地方の土地所有者が擧りて株主となるを諾

する場合の外は株主にあらずして沿道に土地を有する者が何等事業の危險を冒す事なくして只地價の上騰に依りて利得する者を嫉視するの感念は其事業の成立を容易ならざらしむべし。吾人は信ず運河は其性質に從ひ專ら大小の公共團体をして一定の標準に適應して統一的に之を經營せしむる事彼の獨佛等の例に範るべきものなる事を。是れ運河の性質として小區間に付きては交通甚少く到底收支償はざる水路も之を長き水路の一部分として觀察するに於て全線の利用を可能ならしむるために其の保全維持を必要とする場合に於ては收支を度外視して其の保持に勗めざるべからざるものにして限ある小資本を投じて收利を期する事業の管下に置くに適せざるを以てなり公共團体の事業として存ずる運河ならんには假令運河として收支償はずとするも各流域に在る住民が運賃低下のために受くる利益と之に伴ふて增加する納稅力とは其團体をして失ふ處あらずして止まん。

運河の開鑿を成功せしむべき條件の多くは同時に鐵道事業の成功にも必須なるものなり、茲に以て運河業者の囑目する如き地は同時に又鐵道業者の注意を牽く處の地たり易く孰れか先づ存するやは別として運河の存する處通常之と併行して鐵道の建設あるを免れがたし。其結果は競爭となり何れか一方の致命傷と他方の大損失を生ずるは逆賭に難からざる處なり。吾國にも今後運河の發達を期せんがためには海外の例に倣ひて運河の保護に注意する事運河政策中の大要件たるべし。獨占に胚胎する弊害に具ふる最善の策は其獨占物に代り得べき或物を存せしむるにありとせば此策の重要なるは自明の理なるべし。英國にては千八百七十二年貴衆兩院の聯合委員は運河をして其の天賦の特性を發揮せしむるの手段として將來鐵道業者に運河事業を兼營し又は之を其制御の下に置く事を禁ずるの必要なるを宣言したり。佛國にては運河をして鐵道の壓迫を免れしむる目的より凡ての鐵道業に令して其運賃を併行せる運河の通航料に二割を加へたるもの以下に低下するを禁じ唯一の例外

として單に運河と併行の區間のみならず全線に渉りて均一に運賃を低下する場合には此制限を適用せずとなせり。是等の規定は吾國の運河に付きても亦其施行を必要とすべきなり。

海外の運河業者中單に運河なる機關の提供を爲すに留めずして自ら多數の小艇、汽艇、挽馬倉庫積卸裝置等を有して依賴ある毎に自ら船を艤して自己の水路上の運送の勤勞を併せ供するものありて多くは成績甚可なるが如し。蓋し此事亦運河事業の成功に必須なるべし。何となれば運河業者は單に水路を提供するに止め運送依賴人の爲めに實際運輸の衝に立つものは數隻の小艇を有する少資本の運送業者等に於ては依賴人の受くる便益多くは不十分なるが上に運送業者としての信用も不足なり易く荷主の信賴自ら薄くして畢竟運河を盛ならしむる所以にあらざるべし、若し之に反し強大なる資本を有する運河業者が自己の責任の下に弘く運送貨物の取扱を爲したらんには運河の利用者は始めて完全に近き安心を得べく斯くして始めて運河の發展に資し得べきなり。

運河利用の有利なるべきは既に詳說したり。吾人は更に思ふ近き將來に於て吾人は運河を利用せざるを得ざる機運に逢着するの日あらん事を。英國々民は千八百九十三年の恐慌に方り艱苦を具に嘗めて始めて營業費の大節約の必要を感知したる結果鐵道運賃の不廉なるに注目するに至り、續きて米國其他の通商國が續々保護主義を採用して英國品の輸出を難からしめたると新進の獨、佛等の國が到る處に英國品を驅逐するに及び內憂外患共に發して究餘終に不景氣調査委員の(Commission on Depression of Trade)任命となり、結局一時不振の狀態に陷れる人工水路の復活の止むを得ざる事とはなれり。事態何ぞ夫れ吾國の現狀に肖る處多きや。吾人は今次の大戰に次ぎて恐慌が吾國に襲來すべしとは信せざるも從來自由貿易主義を固執し來りし吾通商國が多くは國產奬勵のために保護貿易主義に趨るを疑わず。同時に又現時殆吾國商人の獨占地たる觀ある印度南洋等の輸出地が戰後必ず

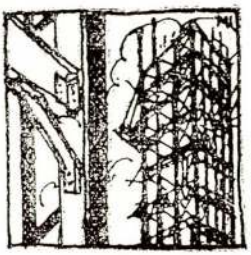
強勢なる競爭者の侵略する處となるべきを確信す。四十年前英國が經驗せる處と同一なる運命は吾人を強ひて運河の利用者たらしむる事は有り得べきの數にあらずや佛國に於ける運河の復興は普佛戰後の商況不振に方り職を失へる多數の勞働者の救濟上一方に於て止むを得ざりしは既に述ぶる處の如し。吾國亦今職工の動員狀態にあり大戰止むの日業に離るゝ多數の職工を生ずるは或は夫れ避くべからざらん。是を思ひ彼を思へば運河の開鑿は必ずしも急に其實行を斷ずべからずとするも今に方りて大に其研究を要するものあらずんばあらず。吾人の此言を爲す幸に無用ならざるを得んか。

◉自二松滋一江東泊二渚宮一　　孟浩然

放レ溜下二松滋一　登レ舟命二梹師一　寧忘二經濟日一　不レ憚二沍寒時一
洗レ幘豈獨古　濯レ纓良在レ茲　政成人自理　機息鳥無レ疑
雲物疑二孤嶼一　江山辨二四維一　晩來風稍緊　冬至日行遲
獵響驚二雲夢一　漁歌激二楚辭一　潯官何處是　川嶼欲二安之一

◉自二羣洛一舟行入二黃河一　　韋應物

夾レ水蒼山路向レ東　東南山谿大河通
寒樹依微遠天外　夕陽明滅亂流中
孤村幾歲臨二伊岸一　一雁初晴下二朔風一
爲報洛橋遊宦侶　扁舟不レ繫興レ心同



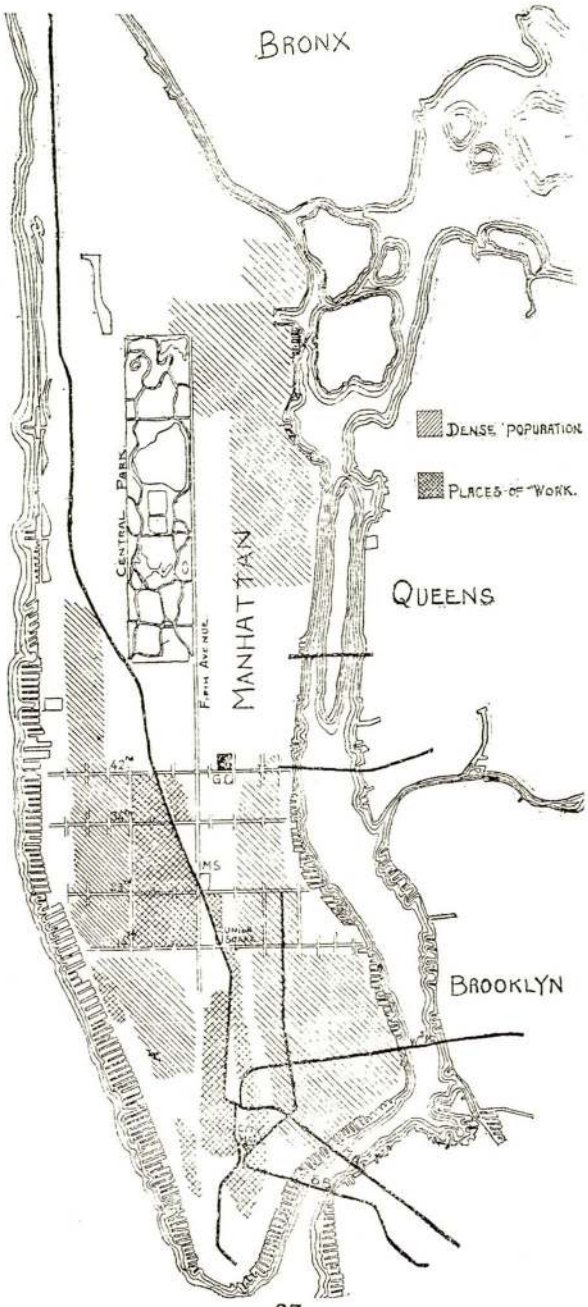
紐育都市雜觀

早稲田大學敎授　内藤多仲

自分の紐育に關する知識は、下町のハドソンターミナル建築から始まつて居る。大倉組の友人が同建築のオヒス六一〇號に居るので、自分はワシントン方面から、ハドソンチユーブを潜つてこの地下室の大停車場についた時は一九一七年五月の廿九日であつた。六一〇號の室は六階に在るので、エレヴエーターを降つて直ぐ友人を探がし當てた。未知の處でも何等の苦もなかつた。それから暫時に知つた紐育の町は全くこの式で、街區整然として少しの亂れる所がない即市區を十文字に、町（ストリートアヴエニユー）と街とに分ち、何れの處でもコオーデチート式に分るし、其上地番が奇數と偶數とで側を別にしてあるから、家を探し人を探すに少しの間誤つく事が無い。世界に美を誇る紐育、ことにマンハッタンは、この狹い所に斯樣に秩序良く、二百餘萬の人を容れて有機的に活動せしめ、發達せしめて居る。

或日紐育市役所（ミユニシパルビルヂング）に行つて建築課を訪ふた。こゝは所謂紐育マンハッタンの建築局で、新築改築の屆出等に對し敷地調査や、構造設計の可否を取調べて居るのを見た。數十人の官吏が計算のチエックなどして居るのを見て大に驚ろいた。こうして條例に準據して許可された建物は又時々檢査官（インスペクター）に依つて現場の施工構造を監督される。中々行屆いた親切極まつたものであると少なからず感じた。米國各地の都市に於ても皆條例があるから、恐らく同一の方法で遣つて居ると思ふ。そうして隨分きつい規則も條例に依

つて開行されて居る。自由と云ふ言葉は米國人の合言葉であるが、以上の方面で見れば其自由なる言葉は意味仲々に深長である。即彼等の自由とは、各自の自由我儘乃至放縦と云ふことゝ正反對に、法に定むる處に從ひ他人に制肘せられず、自己の自由意志に依つて行動するので、ふ自由は我々から見れば專制の樣に見ゆるけれども、彼等は凡てこの自己を捧げ、多大の犧牲に依て獨逸に對し、その國をして自由ならしむその結果自他の利益を保護し、國家の利益を增進し、やがて各自の自由を得ると云ふ事に解せられて居る。今度の戰爭に對しても、米人の云



ることが、即自己をも自由ならしむる所因であると解して居るらしい。此意味で法則なぞは自分達で定めて自分達で實行すると云つた樣に、都合よく行はるゝものらしい。

建築條例も都市計劃の大本を考へて作らなければ、往々にして救ふ可らざる本態を生ずるに至る事がある。外觀頗る美に大廈高層軒を並べたる紐育に於ても、良く之を窺むれば既に取り返しの附かぬ失敗をやつた事が分る。こは市の發展を自然に委ね、人爲的制肘を加へなかつた爲で、最近地帶法が定められるゝに至り、この弊を免れることが出來る樣になつた。今少しくこれらの事項に付いて見聞した所を書いて見やう

紐育に於ては高さの制限も、職業に依る建物の制限も亦空地に關するものも不完全なりしため、地價の騰貴と共に高層建築が急激の進歩をなし、競つて其高さを誇とし、從つて下町に於ては建物の上層に非らざれば光線も空氣も得られぬ狀態で、ある區域なぞは八十五プロセントの電燈を要するのである。即イクイタブル建築は高さ四九三呎で十二月二十一日の正午に投ずる蔭が、長一〇一八呎其面積實に七、五九〇エーカー（約三町歩）に達する。又ウルウオースは高さ七九一呎冬の晝に於ける投影一六三五呎以て如何に高層建築が常に他の光線を害し、從つて事務室に働く公衆に衛生上の危害を與ふるかを知る事が出來やう。かゝる建物の害に依り附邊の建物主は地價や貸賃に大なる損害を受くる事となる。

又一方建物の用途は時と共に變じて來るもので、古き薄暗き建物はやがて新式のものに勝を制せられ、自然一方は家賃が安くなり、そこには下等なる職業商業が巢窟を作ることゝなると同時に家内工場と變じ、漸時擴張されて之が重層貸工場（ロフトビルヂング）となるなぞは免れ難い趨勢と云はねばならない。即一方に於ては新らしき美くしき建築物と人とを以て充さるゝに、直ぐ其裏手横手等には醜惡なる工場の男女工が出入し、同時に安物の飯屋、酒屋、古着屋なぞが附邊に軒を

並ぶことゝなる。紐育見物者はそのシチーホールパーク、マヂソンスクエヤー、ブライアンパークなぞ目抜きの場所の公園に於て、日中見るに堪へざる醜汚の勞働者が、爲す所無く只臺に靠れて唾を吐き、噛煙草の赤黑き汁を吐出し公園を汚し、又は居眠りなぞして居るを見るであらう。これ程開けた都市に於ては不思議の現象で、表通りの美々しさに引きかへた裏通の慘めさは想像に絶して居る位である。下町よりブロードウエーに沿ひ、上は四十二町目附邊に至る迄は、既に前記の工場が竝びこれるを見るであらふ。若し晝十二時頃此處を通過するならば、薄汚なき町の人道は殆ど此の勞働者を以て滿たされ居るに驚かざる人は無いであらふ。彼等は十一時半頃より二時頃迄に飯屋に駈け込み、食を終れば往來に出で蠢動して居る。飯も彼等のは一食平均十五仙以下で、然も晝食のみなれば飯屋の營業も決して綺麗に出來る筈はないのである。又往來には大きな馬車と馬が共にウジャ〳〵して居る。ブロードウエーや第五街のみ通る時は、その裏にかゝる別世界のありとは思ひ設けぬ事である。かゝる地區は始めより決して然るに非らずして、皆工場と云ふバクテリアの侵略に依り、地價も屋賃も暴落してかゝる結果になつたものである。今紐育の工場と人口稠密度とを表はす圖を見れば、既に繁榮を誇りたりしブロードウエーが下町より上は四十二町目迄も工場が盛んとなり、從つて職工は電車賃無く通ひ得る地に居住する關係上、下町東部の方なぞ尤も多くこれらの人間が住んで居る。かゝる狀態は紐育のみならずシカゴなどに於ても同樣で、ワシントンなどに於ても、古い家が明くと家賃が安いから黑人が直ぐに入り込み、中產以上の人は郊外の新らしき住宅地に引込む。黑人は今度は一部は中に、一部は又更に外部に移ると云ふ有樣、自然の推移ほど興趣多いものはない。前記紐育に於ける工場は、商業地區も住宅地區の方迄も侵略して之を俗惡化するのみならず不衛生にし、且つ馬車其他の爲め住民に危害を與ふる事が頻繁である。更に又小賣店は住宅

地に侵入し、之を害しつゝある有様、商賣は工場に追はれて大なる社會的の悲劇を演じつゝ此十六箇年間に十四町目から二十三、二十四丁目邊より暫時四十二丁目に追ひつめられ、現今では四十二丁目のグランドセントラル停車場を中心として最も繁華なる中心となつて居る。

從つて衰微せる所は實に悲慘の狀態で、一九一一年のReal Estate Recordに依れば、二十六町目の第五街に於て八千五百弗、三十四町目にて一萬五千弗位のものが、今日は六千三百弗とか一萬四千弗位に下落して居る。其他各所に於て毎年一〇—二〇パーセント宛位の下落を來し此數年間に四〇—五〇パーセントも下落した所があると云ふ。土地の下落はその衰微の反影にして、こゝに土地を經營し小賣商業をなすものなぞには非常なる損害を與へると同時に、一般事業家並に住民に大危害を與ふるものである。之れを以て當時一般市民は之を防遏せんとする氣運を醸成したと云ふが實に無理からぬ事である。

時は一九一六年三月五日と六日の兩日、全市の新聞は全紙一頁大の記事を掲げて此問題の爲め大に輿論を喚起したとある。先づ其記事の上に大書して曰くShall we save N.Y.?我等は紐育を救ふべきか—こは世界の大都市を以て誇る我々市民に取りて實に重大なる問題なりと、即工場が商業地區を侵害し、住宅地を襲ひ、地價を低落せしめ、紐育の中心を全く腐蝕して餘さず、更に進んで上町を襲はんとしつゝあり、紐育を世界の大都市なりと誇らん我々は、宜ろしく此侵略を防ぎ、事業家の利益を保護し、住者の爲衛生上其他の危害を除かなければならない、こは一に市民相互の一致團結の力に俟たなければ初まらぬ、請ふ紐育を救はんとするものは皆之れ同意せられ、次の決議に從はれん事を

我々下記名の者、並に之に同意加盟せんとするものゝ、紐育二十三丁目—五十九丁目に至る第三—第七街地域及三十二丁目三十三丁目の第六街より第七街に至る地域に工場を有する製造業者よりは如何なる商品（Suits, furcoat, clock,

clothing etc) をも取引せざること、此決定は一九一七年二月一日より實行すること。

その記名者は B. Altman Co., Gimbel Brother, Lord & Taylor, Franklin Simon, Stern Brothers, 等のデパートメントストアーを始めとしクラブ、ホテル其他種々の商店が擧つて之に加盟した、これより先紐育市當局者間にもかゝる傾向を防遏する事に關し種々の調査を遂げたる結果、一九一六年七月二十五日附を以て地帶法（ゾーニングレギュレーション）を發表實行するに至つた。該法會の內容に關しては、山下工學士が大正七年七月の建築雜誌に委しく紹介してある。

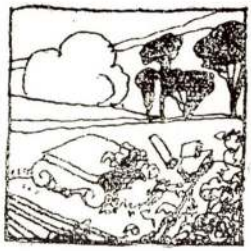
以上の地帶法を實行する上、種々の論爭請願等の事項が非常に澤山起つて來た。これは總て Board of Standard and Appeals と云ふ建築裁判所と云ふ樣な處で充分審議して判決を下す、この委員中議長は前の建築局長 R. P. Miller 氏で、委員會は現在の紐育各區の建築局長及消防局長から組織せられて居る。そうして每火曜日に其會議が開かれることになつて居る。

この法令に依れば、今後はウルウオースの樣な高い建物は出來なくなるので、ウルウオースは摩天樓最後の花を飾ることゝなつた譯である然しこれが爲め紐育の市區も萬般の方面に健全なる發達を遂げ得ることゝなるので、遲蒔ながら誠に結構の次第と云はねばならぬ。（了）

Ihre Vorgänger.

Selbst der Amerikaner, der vielleicht für kurze Zeit sein Land nicht mehr gesehen hat, ist häufig überrascht, denn seinen Blicken bietet sich ein neues, ungewohntes Bild, welches durch neue Riesenhäuser entstanden ist, die ihre Vorgänger meist um Beträchtliches überrangend, fast unaufhorlich aus dem Boden schießen.

Otto Rappold.



本邦森林と建築用材に就いて（七）

會員　谷民藏

木曾飛驒御料林の樹木概要

□木曾名古屋支局管内の面積
□施業按編成地に於ける蓄積及年伐
□御料各種々の規定
□大阪出張所の概況
□網場及び貯木池
□各領域より採出する木材の性質及特徴
（以上前號所載）
□運材法及其經濟
□伐材期と實行
□貯木池に於ての販賣時期

予は前號に於て木曾飛驒御料林の概況を、自己の實際に視察見聞したる材料に依つて綜合記載して置いたが帝室林野管理局當事者の熱心なる説明に對なからず予が心を刺撃して本稿を起すに多大なる便宜となつた茲に改めて深謝する所以である。

運材法及其經濟

凡そ木材運搬の研究は吾人建築家の本領でない從つて多大の趣味あるものとは考へないし、今更之れを喋々するは聊か贅言の誇りあるを免れない。左れど運輸機關が直に木材の形態に一大變革を加ふるを思へば木材研究と同時に是非之れが調査の必要あるべしと信じて居る。今卑近の一二實例に徴して見れば左の如くなる。

從來木曾小川上ケ松御料林より採出する扁柏が「ク上」材として斯界に於て誇呼讃賞して直に之れを高價で買取したるものである其材質の優良なるは勿論目標とする造材法が其樹木の株根末端共に恰も糯粉木の如く外皮は既に灰色に化し一見古木の感を惹き起さしめてゐる。然るに方今運輸機關に一大革命を起し伐木造材に著しき變化を生じたのである見よ近時高野紀和地方及土佐九州方面より柚夫を傭聘し各自其形式に則り或は折衷大成して專ら造材せしものを水運に據らずして直に高架索路或は森

林鐵道及び中央本線より熱田の白鳥、桑名、遠きは東京、大阪の各貯木池へ瀧車運送を爲すべきものにして其木材の外皮は未だ甘肌にさへも付着し兩端輪功の跡に變色又は蠹症さへも見へず今次　明治神宮御造營に專ら此森林の扁柏を採用せらる、予は名古屋堀川に於て該木材の運送途中を一見するに其外貌は已に木曾獨特の形態を失ひ一見所謂地山材の感を惹き甚だ紛しきものであつたが之れ皆運搬上より歸因する影響にして蓋し止むを得ざる事であらう。需用家は宜敷く斯る變化の各地に出現するを知悉しなければなるまい。觀よ近時紀和國境の森林に於て伐木林業の組合續出し一方には各種索路會社の組織成り山岳重疊にして千古斧鉞の森林否な木材も高架索路の計畫を起し一湯千里の滑走力を以て搬出する樣になつた。索路師は自慢して「夕邊に深山の樹木が朝に都邑の家となる」杯と誇稱する今日、吾人が古き先輩より敎示されたる木材の形態を標準として市場に臨み而も低廉利得に儉い得んとするは聊か厚顏の厭いがないでもない。要するに運輸の機關は惹て造材の形態に直に影響するを忘れてはならない。

從來我國の實施する木材運搬法は勞力を主とするものと機械力を主とするの二樣であつた。其內勞力應用は主に木曾飛驒の管流運材にして木馬、橇、荷馬車、駄背等にして運搬するも就中機械力に依るものは牛馬車、輕便軌道、高空索路、一般鐵道等に依る運材法を採用するものである、左れど明治晚年の頃迄では我國の勞働賃金も比較的低廉なるが上に山麓或は交通路傍の伐木多く從つて勞力運材を採用せしものである、然れども前述せる如く現今は既に機械力即ち高架索路或は森林鐵道利用の時代となつてゐる。

今試みに木曾山林の運材方法の近況を左に摘錄して見ると。

◆森林鐵道の地名區域と距離

A 阿寺輕便鐵道

木曾支局野尻出張所部內の阿寺御料地（「クノ」材の伐出箇所）內に起り、木曾川に達す延長八千五百六十四間軌間二呎、十四哩付き軌條を布設し自然勾配により運材するものなり。猶ほ本鐵道による木材は索路にて木曾川を渡渉し、更に牛馬鐵道により約二哩を距つる中央線野尻驛に到達するものである。

B 小川森林鐵道

木曾支局上松出張所部內小川御料地（ク上材の伐出地）と中央線上松驛と連絡す、延長約八哩餘輕便蒸瀛機を利用してゐる。

本鐵道の終端より更に輕便なる作業軌道を隨處に布設し伐採木の集材を行ふものである。

C 王瀧森林鐵道（目下工事中）

木曾支局王瀧出張所部內王瀧川、木曾川の支流流域に屬する御料地と中央線上松驛とを連絡する線路にして、目下工事中に屬す、完成の上は延長三十哩以上に達するであらう。

D 方今名古屋電氣株式會社に於ては木曾川筋王瀧川渡合下流諸處に水力に因る發電裝置計劃あり所謂木曾川に於ける川狩

は爰數年の後には絶對に不可能となるべき乎然る上は悉く之を中央線に依り搬出する事を要するに至るであらう、從而木曾川筋各御料地と中央線とを連絡すべき運材用軌道の必要を感じ目下之れが開設に關し夫れ〳〵計劃中を見れば爾後幾歲も俟ずして深山幽谷の木材も淺山、地山材の如き形態と爲じ市場に頒布するに相違ない。

之れ即ち前述の如く木材の形態が運搬の機關に依り大變遷を見る所以である。

所說聊か脫線の感あるも更に特筆し度きは歐洲戰亂勃發以來建築は勿論一般工業界に木材の需用激增し需給相均衡せず惹ては時價不量の暴騰を釀し斯界を狼狽せしめてゐる斯して來るべき大資本家が所謂山林經營、伐木事業を企畫せらるゝもの雨後の筍の如くである、譬へば三井物産の北海道に於ける、大倉組の鴨綠江の如きは世人既に悉知の事である、更に數年以前より對外貿易に其實績の顯著なるもの日本樂器會社、淺野、增田の兩氏等或は藤田組、秋田木材會社、松昌洋行、鈴木氏林又近時世評の如く住友本店に或は海外木林會社等其他個人小資本家が山林經營熱の旺盛なること實に驚嘆すべきものあり。若し此狀勢を以て進行せんか國有、公有の一部は暫く之れを可とするも我森林の面積既に四割五分を占有する、公、私有林に於ては茲數年ならずして明治初年の運命を再び惹起するの怖なかるべき乎凡そ林木の樹齡には豫め齡級のあるもの更新の時期を失すべからず、即ち大資本家には森林の整理と之れが調節の機關となり國家的經倫を念として一小資本家の及ばざる森林に着眼せざるべからず、顧るに山嶽重疊して所謂原始的森林の經營に努力すべきである、之れを要するに山師の謂へる如く「山を買ふより出しを買へ」。此の言や顯る簡にして其要を得たるものである。今之れに備ふべき運搬機關に就て畧述して見やう。

高空索路の構造及運搬方法

高架鐵索路は其發明較近の事にて本邦林業上には其利用旺盛の域には到達せず左れど近時歐洲戰亂勃發以來我工業界には木材の需用漸く激增し淺山は勿論假初にも交通至便の森林には濫伐機に行われ漸次深山幽谷に入り概ね索路を以て溪谷を越え山嶺を跨げ以て山麓目的地點に到達するものである。右運材方法に對し茲に具著述がある調査既に十年以前に屬すけれども其著頗る細を穿ち微に入つてゐる、漆山氏著書運材法の一部を拔萃して見やう。

抑も架空索路には其種類甚だ多く又森林の地形に依り各々其特徵を發揮せるものなり蓋し一時的輕便なるものは、鐵線を以て短距離に斜架し輕少なる材料を自動的に往復せしむる法なり古來籠渡しと稱し木曾、飛驒、大和地方に於て行わる一時間百貫內外の運搬量に過ぎず、然れども長大なる貨物の多量を遠距離に運搬するには、鋼索を空架し、其動力は水力、電力、或は瀝靑力等を使用し運搬せるを唯一の法となす、今其種類及び構造の大要を記述せんに、架空鐵索路の鋼索には貨物を支持するものと、貨物を曳引するものとの二種の働きあり、此二種を兼備するものは單線式にして、複線式は二種の働の分立するものなり。

又單線式の運搬力は複線式の二分の一乃至三分の一に相當すべし而して鐵索路は深山の、運搬上に付き到底他の運搬機關の摸倣することを能はざる特色あれども、亦一長一短は數の免れざる所にして、即ち積載貨物一個の重量、並に容積に制限あるの不便是れなり、元來積載量は鋼索の斷面積に正比例すれども而も限りなく太からしむること能す從て容積に於て單線式は普通十尺(尺締)二三分位の貨物を適當の運搬量として定めらる複式線にありては稍々其不便を補ふ事を得べし、即ち複線式鐵索路の如きは容積に於て長さ十五尺を普通とし、連絡搬器を用ふれば重量約二百貫、長三十五尺迄を積載し得べし。

之れを要するに板類、鑛山用支柱、枕木、小角材の類を運搬するには單線式によれば比較的簡便にして適當なれども、長大の用材に至りては、複線式の裝置を必要とす、然るに其工事費に至りては單線式は複線式の約三分の一、乃至二分の一にて足れり。我國既設鐵索路の中單線式との裝置及び工事費等を左に表示す。

明治四十一年調査	單線式(ハリヂ式)	複線式
工事費(附屬建物共)	二萬九千二百圓	三十六萬八千八百圓
一哩當り工事費	九千五百八十五圓	五萬五千九百六十九圓
軌索延長區域	六千五百七十五「メートル」(四、一四哩)	一萬四百五十五「メートル」(六哩五)
鋼索	一區二十「ミリメートル」	五區軌索は徑直二十二乃至二十七ミリメートル曳索直徑二十ミリメートル
原動機	水車十四馬力	瀝機四十馬力
搬器一個の運搬力	重量は十五貫目長さは十尺を限度とす夫れ以上は連結搬器を使用し四十貫目長さ三十尺のものを積載し得	重量は七十貫目長さは十五尺を限とす、其れ以上は連結搬器を用ひ重量約二百貫目長さ三十五尺迄を積載し得る
一時間の速度	二哩	四哩半
一時間の運搬量	約三噸(八百二十貫目)	約十五噸(四千六百貫目)
位置	横根山脈の海拔三千六百七十尺を越ゆ其最大高低の差二千百三十尺	上、下野の國境海拔五千九百七十尺を越ゆ最大高低差三千二百六十三尺
營業費	一ケ年一萬千五百圓	一ケ年二萬八千三百圓

右は比較的學理應用上の研究なるも從來管流を以て特意とせる木曾飛驒流運材の勞力及び機器の得失並に工費事業費等比較せば左の如し。

運搬方法の種類	現在個所	延長	運搬器一個の積載量	一哩の創業費	一噸一哩の平均營業費	備考
輕便蒸汽鐵道	愛媛縣別子銅山	六、四〇哩	千貫	三、六一九、円	、〇三三円	營業費ハ三十六年ノ現在
急勾配の輕便蒸汽鐵道	右ニ同シ	三、三三千	貫	三六、〇六二、	、〇七二	同上 營業費高キハ急勾配ニシテ索引力少ナキニ依ル
バリヂ式單線鐵索路	群馬縣山地	四、一〇	一籠二十貫	九、五八五、	、二七	三十二年十二月竣工、營業ハ三十六年ノ現行索條ハ徑四分ノ三吋モノ
輕便牛車鐵道	栃木縣日光	五、五〇	一輦四百廿五貫	六、四七〇、	、二六	營業費ハ三十六年ノ現行
板敷道荷車	同高原山	五、〇〇	一輦百貫	五五六、	、二九八	三十五年十月竣工、
駄馬運送	同上	七、三三	一輦三十貫	五三一、	、四三	營業費ハ三十六年現行
木馬	同上	四、六九	一輦百五十貫	八九、六	、五九五	三十五年竣行
肴貨運送	同上	六、二七	一人十六貫	二八、二	一、一九	三十六年竣行 同上

但し本表に示すものは、可成延長の近似なるものを集め以て比較に便ならしめたり。

一哩の創業費とは、起業當費を全延長の哩數にて除したる一哩當りの金高なり、又一噸一哩の營業費とは創業費償却を含まざる當年度營業費の一噸一哩當りを算出したるものなり。

右表に列記せる各種の運搬法は、其運搬すべき貨物の蓄積高によりて、實際應用上の得失に大差あるは勿論にして、又搬路を設くべき地勢貨物容積の大小及搬出の期間等に關係して各々其得失を異にするものなり。

先づ運搬すべき貨物の蓄積數量のみに就て觀るときは何れの方法にも其數量增加するに從ひ創業費の負擔を減少し營業費を要する割合を節約し得て運賃益々低廉となる可きは勿論なれども其漸減の割合は運搬方法の種類によりて非常なる相違あるものとす、故に前表に掲示せる創業費、營業費に基き運搬すべき貨物數量の異なれる二三の場合を假定し、一噸一哩の運賃を概略算出して之れを比較せんとす。

運搬すべき貨物の量 運搬の方法	總貨物三千噸の時（尺〆一萬本に當る）	同上三萬噸（同十萬本同）	同上五萬噸（同十七萬本同）	同上二十萬噸（同六十萬本同）	同上五十萬噸（同百七十萬本同）
急勾配の輕便蒸氣鐵道	円 二、〇九二四	円 一、二七二八	円 七九二九	円 二五二〇	円 一四二八
輕便蒸氣鐵道	一〇、六七六六	一、〇八六九	六六五三	一、九一〇	〇九六一
ハリヤ式單線鐵索路	三、三五二〇	四七六四	三四八六	二〇四八	一五七八
輕便牛車鐵道	二、四一五六	四七四八	二八四〇	二九一五	二七三一
板敷道荷車	五八六六	四二六六	四〇九二	四〇〇九	三九九二
駄馬運送	五九三	四四〇〇	四三三〇	四三五〇	四三四
木馬	六二四五	五九七七	五九六六	五九五一	五九〇九
肴貢運送	一、一九八八	一、一九〇三	一、一九〇〇	一、一八九五	一、一八九四

但し本表の運搬賃算出法は前表に於ける一哩の創業費を蓄積貨物の全數量を以て除したる一噸當りの費用即ち創業費償却金及び一噸一哩の營業費を合計したるものにして是れ即ち一噸一哩の運賃に當るものなり。

營業費は運搬量の增減に伴ひ多少其割合を異にすべきものなれども些少なるにより何れにもこゝを加算せず是れを比較する上に於ては甚だしき都合なければなり。

運搬設備の數年以上に渉り使用する場合には大修繕費（年々の小修繕費は營業費中に加算しあり）を要するものなれども茲には何れもこれを省畧す。

前表によるに運搬すべき貨物の多少は各運搬法の運賃に甚しき差異あること一見明なり、即ち運搬を要する貨物三萬噸の場合は三千噸の場合に比して蒸汽鐵道にありては何れも十分の一に減じ鐵索路は約八分の一に減ずれども木馬肴貢運送の類に至つては殆んど其差なきが如し而して三千噸の貨物を有する場合には荷車を最も有利とし次ぎを駄送木馬とし蒸汽鐵道最も不利なり、三萬噸の場合には荷車、駄馬を第一とし牛車鐵道、鐵索路之れに次ぎ肴貢運送、蒸汽鐵道最も不利なり若し五萬噸の貨物を有するときは鐵索路、牛車鐵道最も有利にして荷車之に次ぎ肴貢運送最も不利なり、然るに漸次數量を增加し遂に五十萬噸に及べば三千噸の場合と全く相反し、蒸汽鐵道を以て最有利の方法となす。之を要するに貨物の量增加するに從つて機械力を以て應用する高尙なる運搬設備を必要とするに至るべし而して峻峰連山を越て搬出せんとすれば木馬、肴貢運送の用ひ難き

は勿論駄、送、荷車、牛馬鐵道も亦不便多し獨り鐵索路は此の場合は能く山を越え谷を穿ぎ搬路を短縮して施設するを得る便利あり、今其勾配の限度を表示して地勢と運搬法との關係を畧示する事左の如し。

運搬法	搬器一個ノ積載量	最急上り勾配	最急下り勾配
急勾の輕便蒸汽鐵道	一輩に付平均一千貫	1/18	1/18
輕便蒸汽鐵道 同上	一籠に付二十貫	1/30	1/30
ハリヂ式單線鐵索路	一輩に付四百廿五貫	1/15	1/15
輕便牛車鐵道	同 百 貫	1/5	1/15
板敷道荷車	一駄に付三十貫	1/8	1/15
駄馬運送	一輩に付百五十貫	1/5	1/6
木馬	上りに堪ず		1/3
脊負運送	一人に付十六貫	1/4	1/6

次に貨物の大さにより て各種の運搬法に得失あり、或る方法は大貨物は絶對に運搬すること能ざることあり、即ち長大の木材、或は過大の重量品の如きものゝみには到底鐵索路、駄馬、脊負の方法による能はざることありて、只蒸汽鐵道、牛馬車鐵道、或は荷車等によるの外なかるべし、依つて今以上運搬法に於て運搬し得べき貨物の大さの限度を例示すべし。

運搬法	運搬器一個の運搬量 運搬器名	平均	最大	備考
急勾配の輕便蒸汽鐵道	トロー	千貫	千百五十貫	カーブの半徑短くとも普通の長物を搬出するに難からず
輕便蒸汽鐵道	同	同	千四百四十貫	長大のものは連結車にて搬送する事を得
ハリヂ式鐵索路	トレー	二十貫	四十貫乃至七十貫	最大量を運搬するには特別の裝置を要す
牛車鐵道	牛車一臺	四百二十五貫	五百貫	最大のものは連結車にて運搬し得べし
板敷道荷車	荷車	百貫	二百貫	長さ三間以上のものは運搬に困難なり
駄	馬	三十貫	三十五貫	長さ二間以上のものは運搬するに困難なり
木	馬木	馬百五十貫	三百貫	長さ三間以上のものは運搬するに困難なり
脊	負人	十六貫	四十貫位	長さ二間以上のものは運搬するに困難なり

以上は何れも現に實施せるものに付て其限度を例示したり、故に地形其他の關係によりて、其運搬力に多少の相違あるべきは勿論なり。

是れに由りて之れを觀れば、何れの方法にても、運搬し得る

は貨物一個の重量二十貫位のものにして、其容積は長さ二間以内なりとす。若し夫れ長大の重量材にありては蒸汽鐵道によるの外なかるべし。

更に貨物の搬出期間に限りある時は一時に多量を運搬し得る方法を選ばざるべからず。

今各運搬が營利的に運搬する場合に於ける一定期間内の運搬高の實際を表示すれば左の如し。

運搬法	延長	一ケ月の運搬量 全量	一哩に付	備考
急勾配の輕便蒸汽鐵道	三、三三哩	九、九九〇噸	二、六三噸	一ケ月五百列車回轉
輕便蒸汽鐵道	六、四一〇、六三三	一、六三六		一ケ月五百五十五列車回轉
ハリヂ式鐵索路	四、一〇	一、六三〇	三九五	晝夜回轉
牛車鐵道	五、五〇	二、五六〇	五七〇	六十五輛一回往復
車	五、〇〇	一、四〇〇	二八〇	五十輛使用
馱馬	七、三三	八九三	一二三	三百頭を使役す
橇	四、六九	三三〇	六八	三十五輛使用す
負	六、二七	二九八	六四	二百人を使役す

但し勞力者を使用する運搬方法にありては其勞力者を增加するに從つて運搬量も亦無限に增加することを得るが如きも、總ての企業は、利益を離れて之を想像することを得ず、故に實際上最も營利的の數を限度としたり。

即ち前表に依つて之れを觀るときは、一定の期間内に最多量の貨物を搬出せんとせば蒸汽鐵道によるを利益とす。他の勞力による方法は往々勞力者の供給平均を缺ぐことありて、運搬量に意外の違算を生じ爲めに搬出の期間を誤ること少なしとせず。

以上記述せる所より更に全般に亘りて推考せんに、我邦は山勢甚迫り到る處急峻懸崖の地多く平坦なる林地の乏しき處なるを以て彼の進歩せる泰西の運搬法を直に跡襲することは困難なる場合ありと雖も務めて機械力を應用する方法によるを得策とす。

殊に此方法による時に運賃低廉にして、而かも運搬力莫大なる便あり加之、近時交通機關の發達、或は諸工業の勃興により森林勞力者の供給從前の如く潤澤ならず。勞銀も亦連年昂騰の傾向あるにより勞力を省き運搬法は將來必需の方法として益々發達するは必然の勢ならん。果して然らば本邦森林利用上稗益する處莫大なると共に、工業界の利便大なるべし、乍併其運搬法の撰擇は獨り學理にのみ拘泥せず、克く實地の模樣、造材高、各種運搬設備の實際等を精査し充分比較講究せざるべからず。

◈木曾飛驒流運材方法の一班

本川の流運材は過去三百年の歴史を有し遂次進歩發達し來りしものにして、木曾山には角材、丸材に限り一種の運材法にありて、專ら勞力者を使用し、運材裝置は運材途中の木材を以て結構し運材の終りに於て破壞搬送するに依り勞力を要すること

莫大なると、搬出期間の長さ等は他の事業に於て多く其比を見ざる所なり、然れども設備に多大の資金を固定するを要せず一種の輕便なる方法なりとす、此方法は元と木曾川筋に行はれたる運材法なれども當今は全國各地方に傳播し、殊に市場に遠き未開發林の運材法として賞用せらる、今次逐ふに此運材法の一班を綴述せんとす。

事務所の組織　事務所は俗に會所と稱し事務員、總頭、代人小者を以て組織す。而して事務員は造材及び運材の指揮監督並に受授及び糧食金錢の出納、其他百般の事務を擔當處理す、總頭には杣總頭、日雇總頭の二種あり、共に事務員の指揮を受けて代人を統御し、造材或は運材に關する外部の事務を督し代人も亦杣代人、日雇代人の二種あり。共に總頭の指揮に從ひ杣夫及び運材夫を率ゐて、各其事業を分擔す。小者は會所人、炊事夫、持子、茶坊の四種にして物品出納の爲め吏員を補佐し、其他炊事割烹文書の遞送、事務の用達等の雜役に從事す。

勞働者には杣夫、運材夫の二種あり、杣夫は專ら、伐木造材に從事するものなり、杣夫に厘杣夫、小杣夫の二種あり、前者は主として受負に依り伐木造材を爲し從者は厘杣夫の不備を助け、又運材途中に損傷の材を修造する等のことに從事す、運材夫は又日雇人夫と稱し專ら運材事業のみに從事す、而して厘杣夫は十二人、小杣夫は二十人、運材夫は山落し小谷狩には各三十人、大川狩には二十五人を以て一組の定員とし其組取締上に關する一切の責任者を組頭（又庄屋と云ふ）となす。

賃金　賃金は厘材夫は造材高（尺〆）の出來拂高によりて之を定む、之を厘代と稱す、小杣夫、運材夫は米味噌を支給し、日額を以て賃金を支拂ふ、其賃金は組天上と稱する其の年の最高賃金を定め置き各自の技倆に應じて之を定む。但し山落に於ける勞働の成績により技能拔群なるもの十四人以內を選拔して役名を附し、一手合の小頭となすときは、特別の增金を爲すものとす。

賃金精算は、杣夫は、伐木造材の終りを告げたるとき運材夫は小谷狩及大川狩終了の時を以てするを普通とす故に精算日迄の間は食糧を給與し又必要に應じ現金內渡を爲すに過ず。

勞働者の功程及其數　杣夫が造材の功程は林拍の粗密、杣夫の技倆等によりて一樣ならざれども丸太材なれば一人一ケ月約尺〆二百本、角材にありては約七十本を製作するを以て標準の類と爲すを得べし。

運材夫の所要數は、山落し及小谷狩にありては三千五百本に付一組。大川狩にありては七千本につき一組の割合を普通とす故に尺〆一萬本の出材高とせば山落し及小谷狩運材に之組即ち九十人、大川狩運材に一組半即ち三十八人を要する勘定を以て募集するを適當とす、

運材方法の種類　凡そ運材方法を四種に區分す第一山落し。第二小谷狩。第三管流。第四筏流し。是れなり。

山落し　山落しとは、伐木地に錯雜散在する木材を拾集し、小谷狩を爲し得る場所まで轉送落下する方法にして、主として溪水に乏しき山中を運材するものなり故に其運材裝置は殆ど水力を利用せず木材の自重と人力とに依りて轉送す、其轉送に要す

る裝置をサデ、ウス、トメ、トヒ、と稱す。而して又サデにはソロバンサデ、タンバサデ、ノラサデ及モツコサデの四種となす、其製造の方法は大同小異にして雜木の細き丸太を用ひ棧橋の如く組立たるをソロバンサデと稱し、最も緩斜地に用ふ、又其棧橋の如き構造の上に枝條を以て編みたるものを敷たるをタンバサデと稱し板を敷きたるをノラサデと云ふ、枝條を重ねて之に土を置きたるものをモツコサデと云ふ最も急斜地の傾に裝置するものなり、各種に對する適當勾配次の如し。

名稱	勾配	
	最小	最大
ソロバンサデ	〇%	八%
タンバサデ	5%	一〇%
ノラサデ	一五%	三五%
モツコサデ	三〇%	五〇%

サデは其路面の兩側椽に木材を並べて之をカデキと稱し搬出材が路面外に逸走するを防ぐ而して落下不十分なるときは、水を撒き速度を速め又速度急なるときは砂を撒布して速度を緩力ならしむるものとす而してウスはサデの上を滑送する木材の方向を轉じ又滑走の速度を減ずる爲めに用ひサデの終點に對し屏風の如く二方を圍み、內に土砂樹木を堆積し置き滑走し來る木材の衝突に依りて材の損傷を防ぐウスより次のサデに移る場所にはシュラ一二枚を設くるを普通とす。

トメは又マヤと云ひ上部より滑下し來る木材を一時停留集積して次のサデに送り出すものにして材木留及本留の二種あり材木留は搬送中の丸太を以て組立つるものにして、本留は雜木或は不用材及搬送中の木材を以て構造す。

トメの送り出し口にはシュラ一二枚を設くるを普通とす。

長き線路にトメの設けなきは、一部の運搬故障は全線に及ぼして休止せざるを得ざる不利益あるよりトメを造るは仕事の分割を爲すに便するものである。トヒとは木材を堆積する場合に便するが爲めに木材を高處に導く裝置にして、山落しにありては山落しより小谷狩に移る段落しとして之を用ふ。

小谷狩　小谷狩とは、谿谷の水流を利用し得る個所の運材法なり。山落しの人力を要する多きに反し、水の流下力を利用し、人力之を助けて搬出するの方法なるも、大川狩の如く殆ど水力に依るものに非ず。要するに、小谷狩は水量少く、或は岩石の障害するを以て運搬し來りたる木材にてセギ、シュラ等の裝置を設けて搬送するものである。

セギとは溪水を停留濃溶し、其一方に流れ口を設け之れに接してシュラを設け流口よりシュラを傳ふて木材を流下するものにして、本セギ、ボサセギの二種あり、本セギは搬送中の木材を以て構造しボサセギは粗朶類を以て結構す。

シュラは必ずセギに連續するものにして、搬送し來りたる木材を組み合せ凹狀の構造をなすものなり本材は其上を滑下し、水中に滑落するものとす。

小谷狩の終點即ち木曾川本流の近接して大留を設くることあり是れ山落に於ける本流の大なるものにして、小谷狩中不時の出水によりて流出せる木材を此處に集聚する爲めの設備にして其

基礎構造は平時常設するものとす。

大川狩　大川狩は又管流しと稱し、木曾川本流を流下するもので、是は多量の流水を利用し、殆んど水力に依りて流送するものにして運材夫は僅かに鈎(鳶口)を以て流下を助くるのみ、然るに大川狩に當つては一伐木地より搬出する木材のみならず諸方の伐木地より集落するものを以て、或は伐木地の分は一時流下を停止し、又或は障礙物を避けて疏通するを要する等のことあり從つて夫等に於ける相當設備を要す、即ちアラカヒ網張り等は木材を停止る用をなし、尻止め、締切等は木材を疏通するの裝置なり。

木曾川に於ける大川狩の木材は、美濃國可兒郡錦津村の錦織網場に於て河身を横斷裝置せる鋼索により、皆な繫留遮斷せられ此所にて編製せられ、次の筏流し事業に移るものとす。

筏流　筏流しは木曾川にありては四ケの段落あり、其一段は錦織鵜沼間にして、河流屈曲し且深淵峻巖相續き、流送危險なるを以て筏一枚を一乘とし、二人にて之を操縱す。

第二段の鵜沼、笠松間は、河底石礫多きも、前者より危險少なきを以て筏二枚を連結し、一人にて之を操縱す。

第三段の笠松、兩國間は、河幅最も廣く、且つ水流緩なるを以て筏卅六枚或は四十二枚を連結し、之に回漕中炊事宿泊の用に供する小舟を用意し。六人又は七人にて下送す。

第四段の兩國、白鳥間は一部河幅狹く、一部は又海なるを以て筏三十六枚又は四十二枚を幅狹く、或は幅廣く連結し、前段同樣六人或は七人にて回漕す。

筏の構造は、二間材にて二繼ぎ、幅一丈乃至一丈二尺にして、木數凡三十本材積二十尺〆内外を以て一枚とす、其排列法は中央に眞、其兩脇に眞脇、耳、耳脇等併せて十數本を列べ、之に踏梁二本を載たるものを二繼ぎとし其繼合せの上に副木二本、兩側に附木各一本を添付す、是等の結束には皆藤蔓を用ひ兩端及中央の二ケ所を結束し其上に筏の幅に相當する長さを有する檜皆木と稱する粗朶を横たへて再び之を結束して各材の浮沈を防ぎ、踏梁の兩端に梶枕と稱する小材を結束し、之に藤蔓を以て梶壷を作る、梶は運常檜にて作り其長さ凡一丈二尺、上部は圓々、中央四角、下端扁平にして彎曲す又ツナギガシと稱して檜製の長さ一丈乃至一丈二尺の棹、及び長十七八尺の竹棹を用ふ。

筏の連結法は其數六枚未滿のときは縱に連結し、十二枚なるときは六枚づゝ二列となし、三十六枚なるときは、十二枚のものを三列とし、四十八枚なるときは四列に連結するを法とし、普通十二枚の倍數を以て增すものとす。

事業期　普通は毎年四月頃伐木造材に着手し其傍らより運材を始め、翌年二三月頃を以て川狩筏下げを終るものとす、又越木と稱して、秋季に伐木し置き木材を乾燥せしめ、翌年四五月の頃運材する方法あり。是は資本回收速かならざれども、材質並に運材上の利益なからず。

運搬費用　木曾流運材の費用は、谿谷の位置、川流この模樣、造材の種類等により一樣ならざれども、信州木曾小川御料林にて、檜、花拍等の角、丸太材を熱田白鳥伊勢桑名兩貯木場に

搬出するに要する費用大略左の如し。

（但し本調査は明治四十年度の積算とす）

運搬費の種別	摘要	延長	一尺〆一哩に對する運搬費	一噸一哩に對する運搬費	備考
山落し及小谷狩り	山落は凡そ十町其他は小谷狩とす	八哩	円 〇、三四	円 〇、一四五	一尺〆は八十貫とし一丈五尺〆に依る
本川狩	木曾川管流するもののにして錦織迄	五十六哩	〇、二七	〇、〇一七	同
筏下げ	錦織より白鳥迄	六十一哩	〇、一九九	〇、〇一二	同
合計		百二十五哩	〇、八三〇	〇、〇三六	同

◈伐材と賣行

伐材の季節は概收冬期なれども此期間は寒氣酷烈にして積雪多く危險なるものなり殊に冬季の採伐は外皮剝離容易ならず之れ等種々の關係上伐木期は初春より冬季に至る就中最も機なるは三月頃より九月迄を最良の期節として居る。

運材期は初秋より初春の間にて流水と雪を利用せりと雖も方今架空索路或は森林鐵道に因れば時期を選ぶの必要がない。

◈貯木池に於て販賣時期

毎年十月より五月迄での間は例年賣行最も良好の時期なれども六月以降九月迄では夏期に入り酷熱烈しく爲めに日射其他の原因に依り木質粗悪となる處がある中にも名古屋商人中完全なる貯木池を有する人は材總（鈴木總兵衛氏）其他一二を除くの外之れを見ず即ち名古屋商人の大多數は完全なる貯木池を有せざる爲め殊に七八月の頃は購買力を有せず否な減殺するを以て素人買には市場沈衰の好時期の一なり。林野管理局にても之れ等の爲め八月の頃には賣購を中止する事がある。（了）

△鱸の膾▽

上島鬼貫

廿四日　桑名に出づ。風烈しくて船こはさに宿ごる。座數は海を請たる所なり。磯よりちひさき釣舟の行方覺束なく見やりて蛤など燒かせて心のびけり。

風の間に鱸の膾させにけり

午のさがりに風なほりて船だす。うち晴てをこ〳〵おもしろがりし物を、甲のかしらより雨になりてうい目す。漸日のをはる比熱田にあかりて今宵宿かる。

熱田にて鱸の膾吐きにけり

（禁足之旅記）



都市と建築

都市研究生

三十年後の大阪（五）

七　衛生設備と市民の健康狀態（中）

下水處理　を完全に實施することは今や文明都市として當然の義務となつて來たのである、三四十年前までは衛生生理學者の理論に過ぎなかつた都市下水の組織的處理が、事實に於て其市民の健康狀態を餘り明了に支配することが示されてから、都市行政に當るものが何事を捨て置ても其都市全般に亘る組織的下水處理の計畫を樹てんとしたのは、之れ當然の趨勢であると言はねばならぬ。歐米都市に於て公衆保健法や建築法に於て制限しつゝある家屋衛生の條項は原則として其都市が完全なる下水處理の設備を有するものと考へられて居る。故に都市として若しも下水系統の設備なきものなりとすれば、其建築法や保健法や、亦汚物取締法等の實施は或る意味に於て不徹底極まるものとなるのである。之を言ひ返ふれば建築法、保健法及汚物取締法等の法律を實施するに先だちて、都市は其全般に亘る組織的下水處理の實施をなさねばならぬのである。歐米の都市が僅かに數千の人口を有するものに至るまで、其都市行政の根本と

して下水計畫を數ふるのは即ちその爲めである

我國の都市にありては其都市全般に亘る下水處理の系統的設備を有するもの未だ一も之を見出さぬのである。帝都に於てさへも大正元年より十六年計畫として工費四千萬圓を投じ、現在の市部全般に亘る下水道を起工せんとしたけれども、財政上色々の困難を生じたのと、計畫そのものを十分に理解せざる當事者の爲めに今は其部分的計畫に變更されたような始末である。吾人の見る處では其當初の計畫たる四千萬圓案と雖も、大東京市の改良計畫を考ふる時は甚だ不徹底なる姑息案としか考へられぬのに、其案を過大なりとして部分的に修正を加へし人士の理解力の餘りに貧弱なるには驚かざるを得ない併しながら我帝都も早晩其街路系統等の大改造を畫策さるゝのであるから、むしろ下水道の姑息案が唯現時の間に合せに役立つを方針として行はるゝを喜ばねばならぬ。何となれば右原案を實施するとしても大東京市の街路計畫の出來上つた曉には殆んど其大部分は改築を必要とするに立至るからである。

大阪市は去今二十四五年前に其中樞地域に半暗渠式構造の區分的の下水道を開鑿し、其汚水を西横堀川に放流することゝした。現にその下水道は盛んに利用せられて居るのであるが、市内の運河に汚水を放流することの不合理非衛生的なるは言ふまでもない。然るにかゝる不徹底の下水方法も我大阪市の中樞地區のみに實施されたに過ぎず、尨大なる外廓方面は何等適當なる下水方法なかりし其危險を救ふ爲めに、明治四十四年所謂十年計畫を以て工費四百五十萬圓の下水改良案を決定し、船場島之内を包圍する外廓地域全部に亘る區分的下水道の開鑿を始めたのである。起工以來昨年までに竣工したる線路は

曾根崎線	延長	一、三六六・七六〇間	大正二年度完成
上福島線	全	五、八四二・六四四	全　四年度完成
難波線	全	二、五三二・八八〇	全　六年度完成
九條線	全	八、九八〇・二六〇	全　上
木津線	全	五、二四四・六五〇	全　上

にして尚施工中に寓するものは

北野線　延長　六、四二九・六五……大正七年度ニ繼續
玉造線　仝　四、六五三・四五〇……仝　上
西九條線　仝　二五八・〇〇〇……仝　上
天王寺線　仝　三一・〇〇〇……仝　上
西野田線　仝　一、〇三三・五〇〇……仝　上

は着手中のものに屬する、尙低地區域にして自然流下により其汚水を處理し難きものは別に抽水所を設け、喞筒を用ひて汲揚げ之を排水するのである。其主なるもの五ケ所は已に竣工し現に施工中のものは西野田抽水所及今宮抽水所の二ケ所である。

難波抽水所　明治四十四年度竣工
上福島抽水所　大正元年度竣工
九條抽水所　同　二年度竣工
西濱抽水所　同　四年度竣工
北野抽水所　同　上

下水管は馬蹄形鐵筋コンクリート暗溝にして小なるものは膠泥管及陶器管を伏設する構造である。而して現在已に豫定計畫の七割強を實施せるが故に今後四五年を出すして所謂十年計畫は完成する筈である。此計畫の爲めに國庫より受くる補助額は百四十九萬四千圓であるが、其下付年度割徒らに長きに亘るは如何にも滑稽の感を起さしめる。

大正三年度　壹萬圓
同　四年度　壹萬圓
同　五年度　壹萬圓
同　六年度　壹萬圓
同　七年度　貳萬圓
同　八年度　參萬圓
同　九年度　五萬圓
同　十年度　五萬圓
同　十一年度　拾萬四千圓
同　十二年度　貳拾萬圓
同　十三年度　參拾貳萬圓
同　十四年度　參拾四萬圓
同　十五年度　參拾四萬圓

合計百四十九萬四千圓

以上は我大阪市が現に其方針を樹てつゝある下水處理の應急法である。吾人は斯かる姑息なる區分的下水處理の方法を以て我大阪市の將來

を迎へんとするものに賛同する譯にゆかない。現時の下水處理は單に雨水と使用水を疏通するに過ぎずして、少しも排便裝置の處理をなさぬのみならず、汚水の眞實の處分をなして居ないのである。今日の文明都市は其生活法の改善、建築の發達及防疫や保健の見地からして、都市民の排泄する一切の汚物を徹底的に一系統の下水管に流し込み、丁度汚れたる血液が靜脈を通じて心臟に集中するが如く、一滴の汚水と雖も殘らず之を其系統に吸收せしめ一箇又は數箇の中央抽水所に引き取り、相當の消毒を加ふるを原則とするようになつたのである。今茲には斯かる徹底的下水處理法が我大阪市の現時の如き區分的半面的疏水法に勝る所以を說明するを避ける、其所以は問題の甲乙を比較するには其優劣餘りに炳然として明かであるからである。又文明都市の住民としての當然の要求を實現する爲めには、半面的疏水法に過ぎざる現時の我大阪市の下水道築造の方針は到底過渡時代の臨時應急策たるを免かれぬのである。

大阪市も今後三十年の間には其廣袤を十平方里にまで擴大し、人口參百萬を越ゆるのであるとして見れば、上述の如き應急策は一刻も早く之を免れて永久的計畫に移らねばならぬのである。而して其計畫は大阪市の街路系統大改造と共に之を立案するを順序とする。今や市區改正の立案も輿論の迎ふるところとなり、政府當局者も熱心なる期望を發表する時機に達したのであるから、吾人は唯表面的の市區の改良案にのみ沒頭せずして、其內容的緊要々素たる下水計畫を同時に考慮せねばならぬのである。

將來の我大阪市の下水計畫は巴里及伯林のそれよりも一段進歩したる、又一層規模を大きくしたるものであらねばならぬ。然し其處理法は之を田畑地へ灌漑する伯林式のものとするには郊外地の地價餘りに高きが故に矢張り沈澱法によりて、水分を分離せしめて沈澱物を乾燥し以て肥料となすを良策とする。其中央沈澱地の規模の大なる、又幹線下水管の巨大なるは驚くべきものあらん、工費も其完成までに貳億萬圓に

近きものを要するであろふ。其數量及數字の大なることは到底現在の下水應急法と同日に語る譯にゆかないから、我大阪市の將來を理解せざるものに取つては、徒らに過大なる要求であるように思はれるかも知れぬ、けれども之を靜かに考究すれば吾人の推算は決して過當ではないことを首肯するであろふ。

給水工事は其給水料金にて事業費を償却し得るけれども、下水工事の事業費は全く市民の負擔となるべきもので、現時の如き幼稚なる市財政力にては二億圓に近き巨費を負ふことは到底出來ないようにも思はれる。乍併之を將來の十平方里の廣袤に亘る經濟力橫溢の都市が負擔し得ないと見るのは何等根據のない直覺感に過ぎないのである。試に思へ十平方里の約二割を街路其他の免租地として殘餘の八平方里即ち約三千七百萬坪の地積は其二億圓の工事費によりて始めて文明都市の價値を發揮するのである。即ち一坪の地積が五圓に足らぬ負擔を受くることによりて此目的は達せられるのである。若し國庫は其幾分を負擔するものとすれば市民の負擔は一坪貳圓乃至參圓の割當となるに過ぎない。國庫も現時の如き貧弱なる保護を加ふるようなことは何時までも續くものではあるまい。大阪市は將來の其發展計畫の爲めに現狀に拘泥せざる積極策を採らねばならぬことは、此下水事業に於て最も明らかに感得せられるのである（未完）

家屋問題の勃興

近來中央政府を始め各地の都市に於て、救貧又は勞働者救濟の意味を以て頻りに家屋問題を討議することゝなつて來たのは、一は時運の然らしむるところであるが、本會が卒先して之を唱へたことが其機運を高めたのではあるまいか由來我國の行政廳に於ては、斯かる積極的社會

政策に少しも手を着けなかつたのであるが、昨年保健衛生調査會の設けられ、今春救濟事業調査會の設置さるゝあり、何れも其調査は社會改良問題に觸るゝところより、自然社會政策の研究は到着せざるを得なかつたのである。而して社會政策の具体化したる部門の隨一として、家屋政策又は住居問題が出現するのは當然であつて、現代に救濟事業及保健術の積極的經營の基礎は、凡て住居の好適を理想とするのである。吾人は本誌に於て（第一輯第四、第五、第六號）我邦の住宅改良第一策として住居問題の社會政策上緊急なるを說いたのも、全く我國の現時の無自覺狀態を回起せんが爲めであつた。

保健衛生の立脚地より家屋問題が生るゝのは、最も望ましき又最も底力ある叫びであるけれども、救貧とか救濟とか言ふ意味から出發するのは何となく其力の弱きを覺ゆる。之を實質的に合理的に研究すれば全く同一轍の途に就くのであるが、保健衛生の見地より根本的に都市民全般に亘る健康狀態向上を畫策するのでなくては、家屋問題も社會改良の根本に觸れないのである。然るに何ぞや近時內務省內に於ける調査や、各都市に於ける家屋問題は凡て其出發點を誤り、主として細民救濟の方面より出發しつゝあるの狀態である。斯の如き態度は當面の細民救濟の目的を達するには差支なき徑路なれども、所詮應急策たるを免がれぬのである。況してや其研究日尙淺く專門的智識を加味せざるやの嫌あるに於ては其成績知るべきのみと言ふを憚らぬのである。吾人は嘗て本誌に於て保健衛生調査會の部門別に就き多大の疑義を挾みて之を敷衍したのは、其部門が主として病理衛生の研究に沒頭するやの嫌あるを指摘したのであつた。保健衛生調査會は九箇の部門の其一に於て衣、食、住を取扱はんとして居るのである、のみならず、其委員の中に一人の斯道專門家を交へざるは益其疑義を深からしめざるを得ない。果然此回の家屋問題は保健衛生調査會より生れずして、救濟事業調査會の方面より提唱さるゝに至り、甚だ不徹底なる應急策となつて現はれ

て來たのである。而して吾人は恐る此回の應急策なるものが果して救貧の目的を達するや否や唯其聲のみ徒らに大にして、場當りの施設に終らざるなきを切に希望する。

抑も家屋政策は廿世紀の大問題にして勞働保險と相對立して歐米の天地に光輝を放ちつゝある最良の社會改良策なのである。英國にて最も其成果を顯はした社會政策の隨一は其住居政策であることは世の夙に知るところであつて、近時戰亂の擴大に伴ひ各交戰國は殊に家屋政策の强制を勵行せざるを得ざる狀態にあることも隱れなき事實である。將來都市生活の最大難關は其住居であつて、市民一般の住居が經濟的に衛生的に合理適法なるや否やに因つて、其都市の幸福なる發展が期待さるゝ順序となるを知らねばならぬ。唯家屋問題を以て細民の貧苦を救ふ位に考ふるならば、之れ都市生活の積極的改良計畫の意味を理解せざるものである。保健衛生に志あるもの宜しく思を國民の前途に考へ、我不健康なる大都市をして一刻も早く倫敦市以上の健康都市たらしむるの手段政策を講究すべきである。倫敦市の不健康狀態を一變して世界有數の健康都市たらしめたのは其病理衛生の講究に俟つたのではなく、全く彼の住居政策を徹底せしめたのと、公衆保健法の勵行に起因せるを見て、家屋問題の如何に重大なるかを覺らねばならぬ。

◉京都名物◉

竹羅山人

染物婦人簾屋鍼　伽藍舊跡好應レ尋

豆腐香煎祇園美　松茸水薺味共深



名流の住宅觀

□建てるまでと建てゝから

歌舞伎座演藝部長 中村歌右衛門氏 談

私は長い間築地の方に宅を構へて居ましたがあそこは私の專屬である歌舞伎座へも近いし、まことに便利のよい點では申分ありませぬものゝ、どうも水が心配で、毎年一度や二度はびく〳〵しなくてはならなかつたのです。そこで先年―大正三年の初めから、宮內省の某大官の所有であつた郡部千駄ヶ谷の土地を買ひ取つて普請に取りかゝりました。地均しや材木入れなどに相當な月日を費しまして。いよ〳〵工事に着手しましたのが九月、約十ヶ月間にざつと建前を終りまして大正四年の七月に引越したのですしかしそれからも造作にかなり時を費しましてやつと近頃、一軒前の住宅となつたやうなわけです。

さつきも申すやうに、築地の宅では水も心配な上に、私は此の數年來非常に健康を害して居ますから、湘南あたりの成る可く住心地のよい別莊地で暮したいと思ひますけれど稼業柄そんなわけにも行きませんので、色々苦心した結果丁度この理想に適した土地に當つた次第です。殊に今では目と鼻との間へ明治神宮が出來まして、一層結構な土地となりました。

尤も此の地の選定には、私に取つて特別な理由があります。根が病身ですから、マッサージ

をして貰ふために、これまで始終代々木の停車場の傍の、大仁堂へ出かけて居ました。私は餘り不便だから築地の方へ越して呉れてはどうかと申しましたが、先方はこゝを離れない事情がありますので、遂に私の方からその近くへ越して行く事情となりました。その大仁堂といふのは、マッサージでは聞えた人で、女官方の治療のために宮内省あたりへも出入してゐましたので、色々と奔走して此の地面を探して呉れました。

面積は約二千坪ありまして、東から北へかけて高く、西と西南とは斜面になつて、凹地を越して向ひの方は同じやうに高くなつてゐます。何でも此の邊は東京で一番高い所ださうでして海抜百餘尺とか聞きました。

私の家の建て方にも苦心をしまして、入口を東へつけて、東北寄りに家を建て、西南の一帯を、斜面にかけて庭にしました。此の方が家相から見ても、衛生上から云つても一番よろしいさうだし、殊に景色の點はどうしてもそうしなくてはならなかつたのです。そしてその斜面の裾の方には植込みに交つて草花を植ゑたり、野菜を造つたりして、一には趣を添へ、又實用にも供するといふことにしてあります。

要するに、土地が高燥なのと、日光がよく當るのと。それに風通しがよいのと、斯う三拍子揃つてゐますから、住宅地としてはまづ〳〵申分はございません。それは周圍に樹木が立ち込んで、西南には谷を隔てゝ代々木の御料林が鬱蒼としてゐるし、市街や大道の黄塵も飛んで來ない上に、附近に工場もないのですから、煤煙の心配も入りません。空氣のよいことゝ云つたら築地邊の比ではありません。風も主に南西の御料林の方面から吹いて來るので、夏はまことに涼しく、冬は餘り寒くないといふお誂へ向きに出來てゐます。無論郡部とは申すものゝ、市の地續きですから、電燈もあり、瓦斯もあり、道路も四通八達といふ至極の便利さでありますが併し最初私の一番心配しましたのは此の交通の便といふことで、私自身は自働車があるにし

ても、外の者が困るであらうと思つてゐましたのに、代々木停車場へは僅に五分許り、新宿驛へも十分足らず、その上、内外一丁にして甲州街道には京王電車も通つてゐますし、自働車や俥なら青山へ抜けて赤坂見付へ出で、木挽町の芝居まで行くには半時間位なもの、急ぐ時には私は十四五分で自働車で飛ばします。たゞ水だけは、水道鐵管が門前を通つてゐるにも拘はらず、郡部であるために引くことが出來ません、止むを得ず堀抜きで我慢をしてゐますが、水質至極よろしい方で、且つ深い底から冷たいのが湧いて出ます。

こゝへ新築するについて。私の注文としては細かい注意よりも、大体に於いて衛生的で心持のよいことを希望しました。よく日が當つて、風が通り、そして各室の配置が不便でないやうにといふことゝ、構造が自分と不相應なものにならないやうに、それかとて意氣になり過ぎてお茶屋式でも困るが、と言つて餘り殿様の御殿のやうでもいけない、又成金風の華美宏大なのでも目觸りでありますから、その邊をうまく折衷して調和の取れた、平凡の中に趣味のある家といふ考を以て建てたのです。

殊に住宅に最も大切なのは茶の湯趣味でありまして、これが缺けてゐると固くなつて、面白みのないものですから、餘り凝りない程度でお茶を土臺としたいと思ひました。その外には、宅には老人もないことだし、別段方位や家相はやかましく易者などに依りませんでした。殊に私は日頃備前の金光教を信じてゐまして、あれによれば金の神が祀つてあつて、その神は龍の神で、天地萬物一切を包んで居られますから、方位の善惡などは此の神を信ずるところには一切ないことになつてゐます。それ故殆ど頓着なしでやりました。然し、建築學上の家相は設計者の任意にしていたゞきましたが、鬼門だけは避けてあるやうです。

斯ういふ次第で、設計上のことは一切日本橋藥研堀に大又といふ料理店を出して居られる奥村の若主人の健之助君にお願ひしました。此の

人は名古屋生れで、和風の建築、殊に京都式の建築を道樂に研究して、今では本物の建築家になり濟ましてゐるといふ變り者です。先年來澤村宗十郎の宅、千駄木林町の久米良作氏の控家番町の波多野承五郎氏の日本建、永田町の河合武雄君の宅などは此人の手で引かれたのです

此の人元來名古屋風の茶人でありましてなか〳〵その方の凝り方のひどい上に、相談役といふ格で、茶界の大將、露庵高橋義雄さんが控へて居られましたから、茶氣滿々といふ建築にならうとしました。けれどもそこは何れも融通のきく方々のことゝて、私の意見を汲んで下さつて、閑雅な趣を中心として、それで茶に偏しないやうに建てゝいたゞきました。

建物の總坪數は二百坪で、豫算額は一坪當り約二百圓、建具を入れるまでに四萬圓といふ見當でございましたが、なか〳〵それでは上つてゐません。それでも幸に今日ほど物價の騰貴してゐない時代でしたから、その位で出來ましたものゝ、今日ならば先づ六七萬圓を降ることは出來ますまい。

大工の棟梁は高橋さんの常にお頼みになる聞ゑた人の息子—親父さんは先年歿しましたのでーにやつて貰ひました。建築は半請負にしまして、引つ括めて請負はせた上で特に手を入れる場所や細かい部分やは工賃で、手間にかまはずやらせました。隨つてまづ〳〵手は抜けてゐない筈です。尤も建て方を三段にしまして、客室の方は檜造りの研き上げ、居間の方は面皮造り臺所その他は雜としたものに致しました。材木にはこれといふほどの名木や珍木は使ひませんでしたが、檜材の上等を木曾から取り寄せたり杉の柾を特に吉野へ注文したりする位な凝り方は致しました。

先づ表門を入つて右手は自働車の置場になりつゞいて三尺の武者窓を取りつけた茶塀が母屋まで續くといふ建て方は、餘程京都式にやつて見たつもりです。母屋の取つきには横入りの內玄關があつて、その奥にこれも同じく横入りに出張つた表玄關が、稍仄暗く設けてあります。

玄關の間口は二間で、二つに折り疊める白木の扉が取りつけてあります。土間はすつかりコンクリートで固めまして、天井は格天井、釣燈籠風の電燈が下つてゐます。壁の側面には花菱を半分に割つたやうな形の明り窓も抉つてあります。要するに何もかも淡泊といふことを主眼としたつもりであります。それから上り口を敷臺にするのも仰山なので、普通の六疊にしまして左へ曲ると一間の疊み廊下から應接間になるといふ趣向です。

この應接間にも可なり工夫を凝らしまして、扉代りに杉の引戸を建てまして、これに日本畫を墨であつさりと描いてあります。しかし内部は和洋折衷で、絨壇を敷いて、天井を高く取つてありますが、瓦斯ストーヴは不要の節には地袋風にして仕舞ひ込まれる裝置にしてあります又マントルピースもその儘に床傍の飾りつけとし、その横へ日本風の床を取りつけて、下を可なり高い地袋にして、軸物を掛けることにしてあります。そこの窓は高窓で、障子のやうに仕立てた半透明の硝子を建てゝあります。勿論そこへは椅子やテーブルを置いてありますが、これも餘り華美でない、色の落ちついた物にして置きます。

尙此の外に私の凝つた室を一々申しますと手前味噌になりますから、内部の精しいことは申しません。たゞ、仰山な神壇の間と客間とが一棟になつて建つてゐるのは、餘り類がないかも知れません。客間は十五疊ありまして、一間半の床と一間半の違ひ棚がつけてあります。違ひ棚は醐醍の三寶院の模倣であります。客間の次が十疊になつてゐて、大勢のお客樣の折には取つ拂つて使はれます。その十疊につゞいて北側へ、つまり應接室の隣になつて、六疊の神壇の間があります。こゝに内法四尺、間口三尺の神壇をしつらへまして、金光敎の神樣をお祀りして居ます。居室の方は此の建物とは、中庭を隔てゝ相對した二階建になつてゐます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

夫婦で住宅の新工夫

日本銀行秘書役夫人　櫻田節彌子　談

私共では、夫も私も住宅については色々考へます方で、これまでもあれやこれやと種々の工夫を凝らした點が少なくはありません。私は衣食住の始末と、子供の養成とが、私の生命と思つてゐますので、一日もこのことを忘れる隙はないのでありますが、私共の良人も、所謂凝り性の方でございまして、住宅についても、自分で何か缺點とか、或は不便とかを發見しました時には、早速大工なり左官なりを傭ひ入れまして、大へん細かい點にまで注文をして造作をさせますのです。そして日曜日などには監督をしまして、氣に向いた通りに直させるのでありますが、それが又工夫家だけあつて、うまく直させます大工なども良人の趣向には感心してゐるのであります。例へば、戸の「くるゝ」などでも自分で考へ出しまして、他にない一種獨得のものを用ひるやうにしてゐます。勝手の便利だの押入れの取り方だのにも、一々工夫をしまして所謂無駄のないやり方をしてゐます。

これは直接住宅には關係はございませんが、面白いことですからお話致します、それは私共で、玉川の附近に別莊を持つてゐるのでありますが、先年そこへ良人の意匠で一つの風車を以て水を汲む裝置を設けたことでございます。それは例の和蘭の風車から思ひついたのでありまして、歐洲に留學してゐる頃に、和蘭へ行つてあの車の幾つも幾つも立つてゐるのを實見したのであります。それがどうも如何にも雅味があつて、しかも重寶なものであるのに著目しまして、何でも歸朝したらば、田舍で斯ういふことをしようと、深く心に刻み込まれてゐたさうです。

それについて私は少しも存じませんでしたが四五年前のことです。銀行から歸つて參りますと、毎晩毎晩何かしら色々の道具を集めまして頻りに案を凝らしてゐます。その中何であらうと思つて良人の室へ行つて見ますと、風車や水車の玩具をどつさり買つて來て、頻りにそれをいぢくつてゐるのであります。何でも自分でも二つ三つ拵へてゐる風でございました。最初は子供に玩具を造つてやるのでせうと思つてゐました。元來器用な方であります爲めに、よく自分で考案して、新意匠の玩具を造つて子供に持たせたりしますから、きつと又それだらうと思ひました。しかしそれにしては餘りにお金入りで、色々な形の物を造れば、工夫の凝しやうも一段熱心のやうでありましたから、變だと思つてゐました。

すると中に、益々その方へ熱中しまして、毎晩十二時過ぎまで一室に籠つたきり、一心に風車の製造ばかり考へてゐました。それから何うする氣かしらと外ながら見てゐますと、夏休み中玉川の別莊の方へ皆で出かけることになりました。するとその色んな風車の雛形をそつくり持つて別莊へまゐりました。大きい方の子供などは、お父さんの玩具がこんなりどつさりなどゝ手眞似をして笑つてゐましたが、無口な夫は私にも語らずに玉川へそれを持つてまゐりました

それから大工を呼び寄せまして、二人でこつ〳〵と何だかやつて居ます中に、出來上りましたのが、大きい風車でございます。大きいと申しましても、和蘭にあるやうなのではありませんが、主な部分は樫の木で丈夫に造つて、それへ板金で羽のやうに取りつけてございます。それを高く取りつけまして、風の力によつて井戸の水を汲み上げるやうにしたのであります。

出來上つた時には、實に私も餘りの手際に驚いてしまひました。大工はほんの手助けに傭つたいけで、組立ては勿論、大部分を良人が自身の手でやつたのであります。しかもそれがうまく出來まして、普通の風の日でも一日に二石や三石は汲み上げます。そして風の方向は、どち

らでもかまひません、自由自在に受けるやうになつてゐます。その上、暴風がやつて來ました時には、羽が自然に平になりまして、風を流してしまひますから、破壞するやうなことはございません。尤もそれでも軸を折つたりなどしてはいけませんから、別莊番に、強い風の日は取り外させるやうに命じてあります。兎に角これが出來ましてからは、水が絶えずタンクの中に溜まつてゐまして、管で室内の各所に引くことが出來るやうになりました。お臺所は勿論、洗面所へも泉水へも、皆この水が行き渡つて大へん重寶でございます。住宅に直接關係はありませんけれど、良人の工夫では一番大きい仕事でございませう。日本にはまだ風車の利用が少いやうですが、田舍などでは甚だ結構なことゝ思ひます。昨年も東北の方の人で、田の灌漑に利用したいからと、良人の話を聞きにおいでになりましたが、東京附近のやうに井戸の深いところなどには是非必要と思ひます。中には日本のやうに、風の荒い所には不適當であらうとお考へ方もありませうが、自働的に大風の害を避ける方法が工夫してあるさうでございます。

これは良人の工夫についてのお話ですが、私の考案したものでは泥棒除けのお話がありますこれについては、塀の上へ針を植ゑたり硝子を植ゑたり、或は逆茂木を立てたりすることが普通でありまして、外部の用心としては實際それが一番よろしいのでせうが、それよりも内部の警戒が第一でございます。そのために私は、塀の内側へ外から窺はれないやうに、枳殻（からたち）などを植ゑまして、飛んで降りることが出來ないやうにした場所もあります。又外の塀の節孔や割れ目のやうな所に注意しまして、絶對に内部が覗けないやうにして置きます。

それから、世間では土藏などを最も用心をよくして置きますが、土藏は完全な錠をして置きますれば大抵は安全であります。それよりも一番大切なのは、吾々の生命です。「命あつての物種」といふことを忘れてはなりません。そこで私では、居室の外椽の雨戸は一枚一枚に樞（くるる）が嵌

まるやうにしてあり、その内側に硝子戸を閉めまして、それの最後の戸に人の氣のつかない締りがしてあります。そしてその中の障子にも同じやうな締りをしてあるのです。つまり外部に對して三重の用心がしてある譯です。尚ほ他に人の氣のつかない不用心の場所は欄間(らんま)でありますす。それ故あれへも嚴重な締りを施して置く必要がございます。

所が外部はこんな風に防いでも、内部から這入られてはいけません。そのために、第一お臺所口の締りに注意してあります。少し古い家ではお臺所口の敷居が腐り勝ちなもので、容易にこの戸を外して侵入されますから、私共では女中に注意して勝手口の敷居に水を滴さないやうに、腐らせないやうにしてあります。勿論、勝手のくぐりの締りも嚴重にすることを忘れてはなりません。又便所から泥棒の入り込む話も屢々聞きますから、そこへは廊下へつゞく戸に締りをして置きます。しかし最も肝要な個所は廊下から吾々家族の寢室へつゞく所でありますから、廊下の扉にも一々私の宅の獨特な締り法を致してあります。そして、貴重品のやうなものはなるべく自宅には置かないで、日本銀行へ貴重品預けにしてあるし、金錢も當座の入り用の外は皆銀行へ預けてございます。

以上は泥棒に對する私の用心でございますが萬一火事とか地震とかのあつた際はどうするかと申しますに、これも他へは洩されない秘密ですが裏門の塀の所をすはといふ時には一二ケ所を切り開いて、忽ち脫け道が造れるやうにしてあります。これ等も各家庭で適當な設備をされまして、避難の道になる場所を豫め造つて置かれるがよろしいと思ひます。又何處かへ空地(あきち)を取つて置いて、家財を大風呂敷にでも括(くく)つて放り出すやうに用意することも必要と思ひます。



事務所と私宅とを同じ家にして

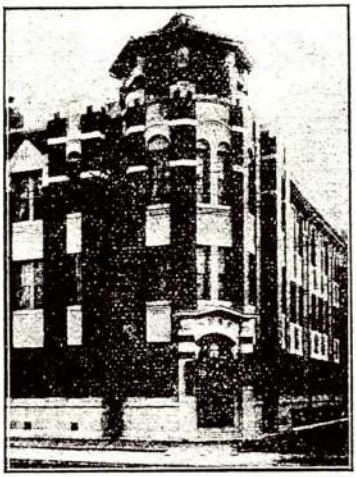
有澤病院長
有澤潤氏夫人
有澤さく子談

これからは、事務所と私宅とを同じ家にするといふことは、いろ〳〵な點から不便だと存じます。殊に私共のやうな商賣のものは、全然離れて居るに越した事はないのですが、此病院を建てます時には、北濱のやうな便利な場處に住み度いと云ふ考へから病院と私宅とを同じにいたしました。其爲めに、大變得るところが有ると思ひます。其うちで最も感じたことは、狹い場所でも、使ひやうに依つては、案外廣く使へるといふ事でございます。

私共が、自分の家として使つて居る部室は、家族全体で七間使つて居ります。其内譯を申しますと、西洋室を一室應接室に、主人の書齋に可成廣い部室を一つ、子供部室に一つ、主婦の居間に一つ、食堂と茶の間とを兼ねな部室を一室、女中部室を一つとこれだけの部室で私共夫婦に子供二人、女中四人が左したる不便もなく暮して居ります、應接間が一つな爲めに、お客樣が幾組もある時には、主人の書齋を應接間にいたします。子供部室だけは廣くとりましたが茶の間は四疊半、主婦の部室は三疊で大變狹いのですが、それでも兎に角間に合つて參ります私は大抵四疊半の茶の間に居て、親しい方がいらした時には、茶の間でお話いたします。婦人の方はどうしても西洋間より日本間を御希望なさいますので、とり散して居ても、つい茶の間

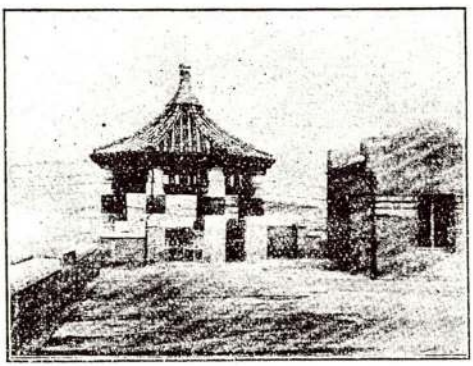
にお通しする場合が多うございます。長年の習慣上、腰かけてお話するよりは、火鉢の前に坐つてお話をする方が、何となく樂しみがあるやうな氣がいたします。

此内、疊を敷いてあるのは、子供部室と茶の間と私の部室と女中部室とでございます病院の中にある部室ですから、外觀は洋風ですが、疊を敷いてある部室には、椽側と廊下とをかねた巾半間の長い板間を作つて其廊下に向いた側には、凡て障子をはめ、部室の中は純日本風にしました。私共は、やはり西洋風の窓ばかりの部室に住んで居りますと、自分の家と云ふ感じがしません、一寸病院にでも來たやうな感じがして、氣が落つかないものでございます。



家は三階建てゝ、一番上には運動場を作りました。三階と下は病院にして、二階を私共の家といたしましたので、炊事も風呂も便所も二階に付けてありますから、まるで滊車か船にでも乘つて居るやうでございます。風呂場は、湯船は鐵筋に人造石を塗つたもので、丈夫なことは隨分丈夫でもありますし、洗うにも石鹸をつけてタワシでこすれば直ぐ綺麗になりますが、お湯が冷め易いので、冬場は一寸困ります。風呂場は洗ふ場所を少しとつて、化粧室はなしに、風呂場を出た直ぐの處に、壁に鏡をはめ込み、其下に化粧品を置く棚を拵らへました。其次ぎの廊下の隅には、洗面所を作つて、こゝの壁にも鏡をはめ、朝、顏を洗ふ時には此洗面所で洗ひます。流しの中に唾をするのは汚いものですから、直徑三寸位の穴を明けて、口を注いだ水はそこに出すやうにしました。日本風の風呂場

の次ぎに化粧室、其次ぎに洗面所とすれば、可成廣い場所を要しますが、こんな風に工夫をしますと、少しの場所で体裁よく出來ます。便所を二階にするに就いては、臭氣を妨ぐのにいろ〳〵苦心をした結果、西洋風にいち〳〵水を流すことにしました。其流したものをいれる爲めに、土の下を深く掘り下げて大きな穴を拵らへ四方をコンクリートでかためて上には鐵の厚いにを二枚して、臭氣抜けの穴を一つ拵らへ、其穴には細長い煙突をつけました。ですから、便所は一寸も臭はない爲めに、子供等など他へ行つた時に、臭いのでいつも閉口いたします。こ



んな事は未ださう行き渡つて居りませんから、自分の家にだけこんな設備をするのは考へものだと思つて居ります。

お勝手は、四坪足らずの狭い場所に、南と東に窓をつけ、窓の下に人造石の流しを据ゑてあります。流しの直ぐ傍に小さい棚や大きい棚を澤山つけて、とり外しの出來るやうにしてあります。右手にヘッツイを置いて、それとならべて瓦斯を置きました。流しの後には、一間の戸棚を拵らへ、其戸棚の眞ん中に、厚さ二寸、巾一間長さ三尺足らずの板をつけて、お膳立ての時には、其板を引き出して其上にならべ、用が濟めば引き出しのやうに引つ込ませて置く仕掛けでございます。床は、最初は、コンクリートの上に簀を置くつもりで其通りにしましたが、お掃除の時に手數がかゝりますし、それを干す場所もないので、今でもシックイの上を下駄で歩いて居ります。風呂の水も流しの水も、凡て管で下へ流れるやうになつて居ります。何しろ庭さへも屋上にした位の場處ですから、物置や土

藏などを作る餘地がありませんので、さういふ事には地下室を利用して居ります。醫師は、處方箋は十年間は保存しなければなりませんのでそんなものや何かをいれる爲めに、五六坪程の嚴重な金庫を拵らへました。こゝには鐵筋コンクリートで、どこが燒けても此金庫だけはやけないつもりです。着物や夜具、道具なども凡て地下室に仕舞つて置きます。着物や夜具をいれる處は、濕氣を妨ぐ爲めに、壁から少し離して四方に板をめぐらしました。こゝは普通の土藏のやうにしてあります。お風呂のお湯を沸す處も此地下室で、石炭や薪炭、藥局用の藥や瓶などをいれて置くのも此地下室でございます。病院の方の、醫院や看護婦達は、地下室の食堂で御飯をたべます。地下室と申しますと、何となく薄暗いやうな嫌な感じがしますが、馴れるとそんなに嫌なものでもありません。何しろ大阪の北濱邊は、目抜の場處ですから、場處を充分にとるなどといふ贅澤なことは出來ません。それで地下室をこんな風に利用して見ました處が第一用心のよいことは申分なしでございます。入口の錠さへ嚴重にして置けば、どこからもはいる處はありません。火事といふ時なども、地下室だけは安全だと申します。家も練瓦作りで丈夫に出來て居りますから、家の中に居りますと、餘程強い風雨でも、知らずに居ることがよくあります。壁が厚い爲めに夏は照り返しが少なく冬は暖かで、木造よりは此點だけはずつと樂でございます。

□落　葉□　（賀茂翁家集）

山風のふく夜の月におとはして曇るともなくちる木の葉かな

佐保過ぎてたがとるぬさとみだるらん奈良の手向の風の紅葉



明治神宮外苑記念建築物懸賞當選圖案に就いて

蓋世の傑作なる所以を論ず

會員　大蘆生

一　序論
二　近代獨逸風
三　蓋世の傑作
四　計畫平面圖
五　設計立面圖
六　獨特の境地
七　工費の問題
八　結論

一　序論

明治神宮外苑に建設せらるべき聖德記念繪畫館並びに葬場殿址記念建造物懸賞設計競技は約二ヶ月間の日程に於て執行せられ大正七年九月十六日を以て〆切られ、應募圖案百五十六通の多數に上り前例なき好成績を以て終了し、殊に當選者諸氏は九名の新進作家より成り、賞金亦前例なき多額を贏ち得たるのみならず、當選圖案の成績は從來の記錄を破り、其第一等案の如きは審査員諸氏一同の推賞措く能はざる處にて獨創の形式を樹立し得たるが如き吾れ人共に滿腔の感謝を表するに吝ならざるものなり。

予輩は建築界の末席を穢するものなりと雖、今回の懸賞競技が從來の慣例を破り一新紀元を我建築界に劃するが如き事實を

觀て感慨無量ならざるを得ざるものなり。蓋し我國現代の風潮は思想界の混亂期に掉さしつゝ明治時代興隆の精神稍もすれば曲解せられ、復古王政維新の皇模は炳として日月の如きに係らず、歐洲文明爛熟の餘弊を蒙り來り、惟是れ彼の後塵を拜するに汲々として皇國の基幹に漲り渡る國民思想は措いて問はざるの風潮漸く甚しく、殊に最近歐洲大戰亂の餘波を受けて商工業界の急激なる勃興は、黃金の崇拜熱を惹起し、成金の發生は時代精神に一變調を帶びしめつゝあるの時。

先帝陛下の御宏業を追懷すべき明治神宮外苑記念建造物の設計競技圖案に現代國民興隆の大精神を俱象すべき傑作出現し來りしは、我建築界の誇りとする處なるのみならず、延いて藝術界に好響を與へ、更らに國民思想に好果を齎らすべき眞個偉大なる意義の存在するを觀察して予望が胸奥は無限の感喜に躍らざるを得ざることを告白す。

由來建築は男性的藝術にして國民の意的方面の精神活動を主として含蓄せしめざるべからず。次いでは巧妙なる智的精神を加味すべきものならざるべからず、されど時代精神の夷稜久しきに及んでは情的方面の精神活動溢出し來ること數多の歷史の證明する處なりと雖、國民精神の勃興時代に在りては簡潔素撲なる作品の建設せらるべきこと亦史上の確乎たる事實なるなり蓋し國民精神の興隆時代は人心の活躍は主として意的方面に傾き雄偉莊漠たる精神活動の趣く處、あらゆる藝術的作品が等しく其風韻を帶ぶるは自然の法則に據るものなり。從つて時代精神勃興の初期に在つては精神的傑作の出現する時代にして技巧的形式的作品は到底求めんとして得べからざる也。次いで人心の趨勢は智的情緒を帶び來り精神的作品はやゝて智的色彩を明かにし來る。蓋し其構造的技能は漸く赤熱の域に進み、其作品は壯快雄健の風致を表現し、重厚質實なる格式を樹立する事概れ然り、進んで國民精神は遂に高潮期に入り來り時代の風潮は漸く初期の精神を失ひ智的活動も漸く萎微し茲に時代精神は一轉しての其極盛期の歡樂に耽り來る、多感多情の天才の出現は蓋し此の時代に在り。盛唐の詩人杜甫李白の如き、復興期時代のラハエル・ミケロアンヂロの如き然らざるなし、而して此期の作品は其形式美に於て其情的色彩に於て全く前代と隔絕し來る。されど遂に其精神美や其智的美は漸く其長所を失ひて時代は衰しくも末期に入る前程を表現す、想ふに數多人文歷史の證差は予望が言を待つて知らざる也。

偖々想んみるに明治時代の勃興し來れる國民思想は明治時代末期に入りて頗る混亂し、大正初頭に在りては殊に甚しく國民精神の萎縮は識者の憂慮措く能はざるに到れり、されど明治大正の御代は 畏くも 先帝陛下の御宏業の樹立時代にして國民精神の勃興活躍の時代なり、思想界混亂の變調は一時的現象にして泰西文明の輸入に是れ汲々たるの餘、遂に昏迷したるに過ぎずして、時代精神の大道は炳乎として維新改革の際より顯れて日月の如し。

此の時期に際して 先帝陛下追懷の國民記念建造物の建設を策す、國民は擧つて此計畫を讃し、衷心の赤誠を表徵して永久の作品を殘さんとす、斯界に在るもの豈深く愼みて考慮を盡さ

いるべけんや。彼の徒らに泰西文明の餘弊に醉ひ、國民時代精神の何邊に在るを没脚せる如きあらば笑を後世に殘し、恥を現代に曝らすの愚を演するやも保すべからず。蓋し國民興隆の時代精神は彼の多感多情の作品に求むべからずして斯の壯絶なる精神的作品に望まざるべからず。華麗纖弱の女性的作品にあらずして簡素雄大なる男性的藝術を建設せざるべからず。此の意義に於て今回の懸賞競技の結果が審査員諸氏の意圖の何邊に存するかを示せりとせば、國民の多數は大なる滿足を持つて讃同の意を表すに躊躇せざるべきを深く信ず。

予輩は審査員諸氏がよく時代精神の眞諦を摑み、斷乎として其信念を樹立し、あらゆる世評の紛議を排して其任務を盡されたるを衷心感謝せずんばあらざる也、聞くならく斯界多數の作家は此回の審査の結果に就いて夫々の疑問を感得し審査員諸氏の勞に酬ゆるに非議を以てせんとすと、果して然らば作者は宜敷堂々たる論議の上に眞摯なる態度を持して信ずる處を發表するに躊躇する處なかるべき也。

予輩非才自ら計らずと雖、此機に際して自家の所感を發表して世上識者の一考を煩はさんと欲す。幸に本誌の紙上を借用して微意を致さんとす。蓋し衷心の感慨は千萬無量なるが爲めに茲に胸中を吐露せざるを得ざる所以なりとす。

二、近代獨逸風

予輩は今回の懸賞競技が好成績を以て完了し、幾多優秀なる作品の擧げられたるを觀て感謝の辭に堪へざるものなり。審査員諸氏の勞を多とするのみならず、幾多の作家が眞摯熱烈なる意氣を持つて健闘二ヶ月の短期間に敬服すべき貴重の作品を提出し、國民として其爲すべき義務を直覺して之を遂行す、たとへ多數の作家が競技の上に敗れたりと雖赤誠の捧獻に於て決して甲乙あらざる也。

惟不幸にして其放ちたる多くの矢は時代の解譯に於て其色彩同じからず、其的を識別するの位置を異にしたるに過ぎずして騎手の精神は飽くまで堂々たる戰士の俤を偲ふに足る。嗚呼斯界の多士整々なる吾れ人共に滿腔の喜悦を表せずして可ならんや。

予輩幸にして今回の懸募圖案展覽の擧に際し親しく拜觀の榮に浴し、數多貴重の教訓を與へられ、數個得易からざる眞理を發見す。想ふに今回の如く斯界の前途に多大なる意義を抱藏せられたる競技を過去に於て求むべからざるを感ず。予輩は先以て應募作家に衷心の感謝を捧げずんばあらざる也。

予輩は最近に於て我建築界唯一の權威たる建築雜誌十月號を授受し、審査員諸氏の議論を拜見して、よく諸氏の意圖を知り雄大なる其抱負と高邁なる理想の下に斷乎たる所置の周到なるに敬服す。而して予輩が今日に於て保存する胸奥の述懷を茲に吐露することの必ずしも無益の業にあらざる事を覺り、進んで此愚擧を敢てす。幸に妄言駄想を寛恕あらんことを希望に堪へざる也。

今回の當選圖案を通覽するに際して予輩はよく審査員諸氏の

意圖の何邊に存せしかを識ることを得たり。されど不幸にして其審査の結果について方法に於て尠なからず自家の既待の誤れるを顧みて衷心の動搖を感ぜざらんとするも得べからざりき。蓋し審査員諸氏が素樸剛健にして獨創に近き案を得んがために故に從來の型に入り過ぎたる作品を排せられたる跡あるを觀て遺憾なき能はず。予輩は審査員諸氏が簡單雄健にして舊來の型に入らざる作を得んとするの意に贊すれど其選擇に於て自由奔放なる近代獨逸風に據りたる作品の多くを擧げられたるを觀て眉を寄するもの也。審査員諸氏が簡素剛健の作を得んがために努力せられたるやよし、其体度の主旨やよし、されど殊更らに多くの舊型を捨てられたる所以は所謂解するに苦しまざるを得ず。既に當選作品中復興式に則りし三作あり就中其一二は純然たる豪華壯麗なる後期復興式の作品なり。此等の作を執られながら、古典式に則りたる諸作の如きは遂に顧みられざりを遺憾とせざるを得ず。古典式に則りたる作に優良なるものなしとせられたるならば致方なけんも、近代獨逸風の作品を六葉迄も入選せしめられたる結果を綜合すれば此の點につきて世論紛々たるは必ずしも妄評ならずとせず、例へば入選せる同一作者の二作品が殆んど同一なる風韻を帶びたるが如きは其好める作に傾きたる結果と判斷するの至當なるを覺ずんばあらざる也。

されど近代獨逸風の作品は果して舊來の古型に優りたるものなるや否や、蓋し近代獨逸風の作品は多く簡單雄偉の風韻を帶びたるものなりと雖も、之を我國作家の模倣するの心理は古典式其他の樣式を阻礙するの意圖と何等の程徑なし、從つて近代獨逸風に依りたるものを以て直ちに獨創的作品と誇稱するの誤れるは火を視るよりも明かなり、暴を以て暴に換へ、新を以て新に代ゆるも唯夫れ時の問題にして手段の問題に非ざる也。

予輩は眞に審査員諸氏の意圖の何邊に存せしかを識る。されど其目的に馳せらるゝの餘り、却つて千慮の一失に陷られしに非ざるなきかを憂ふるもの也。乍然纔つて應募作品の多數を通覽するときは審査員諸氏の眼底に他の舊型に據りたる作に眞個目的を說明するの作品映ぜられざりしに非ざるなきかと臆測せざるを得ざるもの也、果して然らばそは審査員諸氏の鑑識眼の自由にして何等の異議を挾むの餘地なかるべき也、予輩は衷心此の見解に自らを救濟せんとす、乍然近代勃興の精神濛濛たる近代獨逸風に採りたる作品を以て眞個獨創の境域を開きたるものなりとの見解は到底贊同し得べからざるもの也。彼の長を學びて我短を知る、現在獨逸を敵としつゝある我國家が其獨創の藝術を創立するの道程に於て多量なる獨逸式色彩を帶ぶるの可否は自から判斷に迷ふべからざる也。

斯くて予輩は審査員諸氏の推賞措かざる第一等案及第二等第一席案に對し、滿腔の贊同を表する能はざると同時に予輩が妄評の如何なる理由によつて然るべき所以を明かにし以て自家の信ずる所を遺憾なく發表せんと欲す。

三、蓋世の傑作

予輩淺學の徒、殊更らに詭辯を弄して自家の快を欲するものに非ず、予輩は貴重なる當選作品並びに諸家の心血よりなる圖

案を拝覧して得たる感想を忌憚なく吐露せんと欲するに外ならず。近時斯界の風潮、稍もすれば動搖して堂々たる議論發表せられず、紛々たる非難流行すれども何等眞摯なる力ある論文提出せられず、從つて斯界の歸嚮更らに定まる處なくして予等若輩の徒其進むべき道に迷ふ。蓋し正論大義の稱導せられざるが爲めに非ざるなきか。予輩固より何等の見識なし。されど自家の觀を所る發表して世上識者の一考を煩はす所以のものは他なし、斯界の前途に對し一片の赤誠を捧ぜんと欲するの外他意あるに非ざる也。

予豈が青山原頭を過ぎり短少なる時間を利して拜觀の榮を得たるの際に於て予が滿腔の熱血を沸かしめ手の舞ひ足の踏み場を定め兼ねたるの大作は實に第二等第二席案是也。予は此の大作の前に自家の畫き來りし數多の想像を忽ちにして烟の如く消散せしめられ、却つて深刻なる印象を植ゑ付けられたるが爲めに、裕天上人が不動の利劍を嚥下せしめられたるが如くに、呆然自失の止むなかりしことを告白す。

嗚呼偉大なる作家の藝術よ、天神は斯くの如き蓋世の傑作を吾建築界に到來せしめたり。其規模の雄大豪壯なる、其意匠の高邁剛健なる、其着想の倫若無人なる、眞個簡素質撲の傑作空前絶後の大作に非すや、其漢々茫洋の風韻は百五十餘通の作品を壓するのみならず、審査員を驚倒せしめ觀客をして無限なる畏敬の念を喚起せしめたり。

想ふに今回競技の應募作品中彼の茫漠たる青山原頭に建設して畏くも　明治大帝の御一生を追憶し、眞個御宏業の廣大無邊なる一大記念館として斯の作の右に出づべき作品なし。他の入選圖案は眞に優眞なる作品なるべし。去りながら去りながら、多くは之を青山原頭に建設せざるも其處を得るの作ならずや。此の第三位の大作に在りては是を青山原頭に建設せざれば亦他所を尋ぬるに處なかるべしと信ず。當選圖案の多くは之を歐米に建設するも可なり。殊に獨逸國内に建設すれば妙なるべき作最も多し。乍然此の蓋世の傑作は到底日本を離れて其意義を致す能はざるものに非ざるなきか。否東京をも離るゝこと能はず、東京を離るべからずとせば青山原頭を措いて他處を求むべからざる也。

實に此の大作の作家は現代に傑出せる一大作家なり。眞個明治時代興隆の精神を理解せるの作家なり、殊に　明治天皇御一代の事業を追憶するに到れり周せるの作家也。聞くならく聖德記念館には御一代の記錄として御一生の御事歷を選擇し、知名高邁なる現代の大家をして、不朽の繪畫を物せしむるなりと、想ふに此作家の建立せる此一大建築は現代繪畫の標威者をして後に堂若たらしむる程の一大藝術也。一大計畫圖也、一大設計圖也。

多くの應募作家が設計の當初に際し如何に審査員の意圖を測度するに苦しみしや、多くは審査員の期待に逆き甚しきは背負拋を喰はされたりき、然るに此の作家は審査員諸氏に猛烈なる不意打を喰はしたりと信ず。多くの作家が審査員の前に叩頭せるとき、此作家は審査員諸氏の醉眠を醒ましめたるや必せり、漢々たる其風格の如何に偉大なるよ。

予輩は此の作家の短軀白面にして重厚高潔なる一好青年なるを知る。元來蒲柳の質默々として其任務を遂行する人にして何等軽挾の風なし、而して内に溢るゝ熱血は凝つて鐵をも鎔さんする程の霸氣ありて存す。想ふに此作家は何等審査員の意圖を意に介せず自家の信ずる處、國家の得度せる處を傾注して急かす動せず、悠々其滿腔の熱血を吐露せるものなること明かなり實に氏の高傑なる人格にあらずんば斯の如き蓋世の傑作は大成し得られざるなり、作者は其設計の當初に於て「一つの獨創をやろうかい」と獨語せりとか一言千金の重みなくして可ならんや。

想ふに鐵槌を博浪沙に振りて秦に一撃を加へんとしたる一青年は此作者の如き人なりしなるべし。聞くならく幕末時代に出現せる外貌女子の如かりし越前の熱血男子や、痩顔短軀の若輩にて萬里踏海の擧に破れ、武藏原頭の露となりたる憂國の志士は亦此型の性格なりしを想はずんばあらず。

實に予輩は此の作家の築き得たる設計圖が現代を超越して、世界に誇るべき一大傑作なりと滿腔の讃辭を呈するの外なきを感ず。然るに所謂第三位に据ゑられて僅かに參考案として保存せられ行くに過ぎざるを觀てうたゝ慨歎の念の押へんとして押ゆべからざるを思ふ。予輩は進んで此作品の蓋世の傑作なる所以を論ぜざるべからず。

四、計畫平面圖

第二等第二席案は審査員諸氏は擧つて其漠々たる風格に驚嘆の聲を放ち、等しく作者の偉大なる手腕に敬服せるが如し、蓋し此種精神的傑作は從來多くの審査官の眼を逸したりしなり。而して多くの有爲ある作家亦情的作品に汲々として及ばざらんことは是れ力めたるが如し、實に今回の競技に於て初めて此種一大傑作が審査員諸氏の頭腦を痛切に刺戟したりとせば誠に以て斯界の前途に對して祝福を捧げざらんとするも得べからず。此回の審査が遂に斯界に一新紀を劃したりと稱するも贅言にあらず。吾國刻下の建築界及び今回懸賞競技の眞目的は前述せる如し、此の好機に際して斷乎として情的作品を排し、大いに意的作品を擧げたる審査員諸氏の努力に對しては予輩は多大なる同情を表せざるを得ざるもの也。

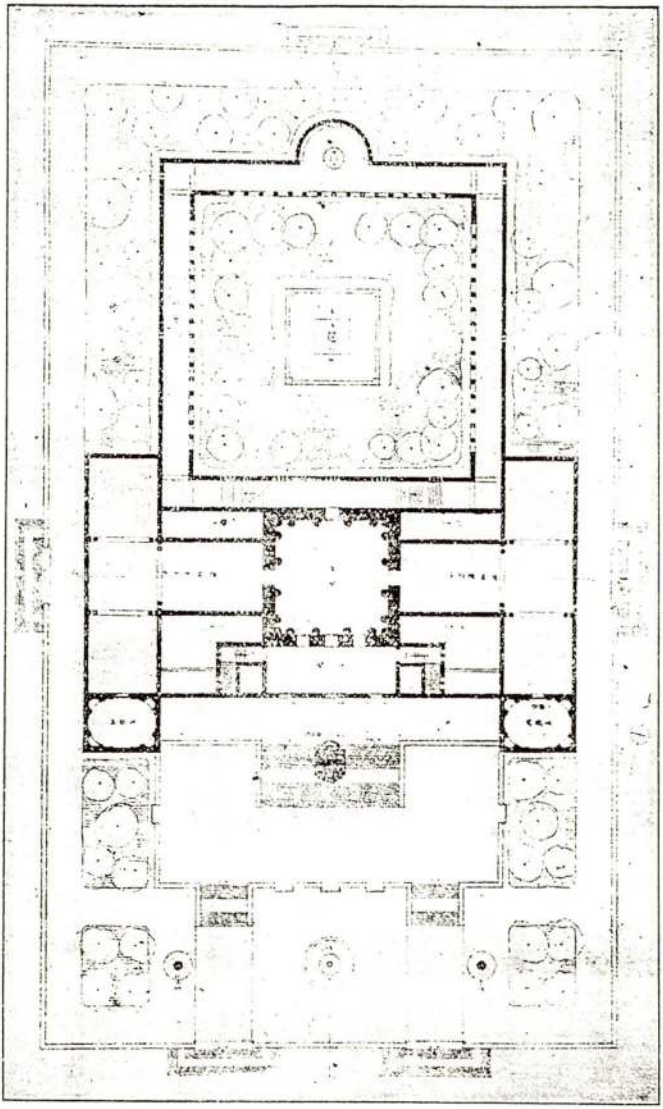
されど此の一大傑作がしかく審査員諸氏の胸臆を震駭せしめたるに係はらず、多くの缺點あるものと認められて第三位に据ゑられたる所以を測度するに及んでは予輩は大なる遺憾を感せざるを得ざるもの也、此の蓋世の傑作が何邊に其缺點を有するものなりや。

按ずるに第三位案の風貌が既に一頭地を抜き數多の作品を威壓じつゝあるは觀賞者の等しく認むる處なるべし、而も遂に缺點多きものとなす、予の觀る所を以て論ずれば其缺點とせらるゝ處は則ち此の大作の長所にして、他の作品の長所とする處と其軌を一にせざる所以たらずんばあらざる也。

按ずるに此第三位案を非難するの觀者は、其あまりに莊大なるに共鳴を感ぜざるものあるべし其あまりに不驅奔放の作なるに同情せざるものあるべし、其あまりに雄大なる基礎に贊意を

表せざるなるべし、其あまりに簡素なるに一驚を喫したるなるべし、其あまりに雄渾無比なるがために自家の趣味と一致せざるものある爲めなるべし、其あまりに偉大なるが爲めに工費上の打算を無視したるが如き感あるに非難するものなるべし。

されど予輩より觀れば此等數多の非難とする處、此等多くの缺點とする處は則ち此の作の長所とする處にして眞に盖世の傑作たる所以たらずんばあざる也、蓋し多くの非難は遂に懸賞規定に添はざる點頗る多きを感じたるものに非ざるなきか、乍然



第二等第二席案平面圖

そは全く杞憂なり、審査員諸氏が缺點ありと認めつゝ入選せしめたるは、競技規定に抵觸する處なきが爲めに非ずして何ぞや其工費上の杞憂の如きも後述する如く全く杞憂に屬す。而して予輩は審査員諸氏が尙此の大作の蓋世の傑作たる所以を了解せざる嫌なきかについて多大なる遺憾を感ぜずんばあらざる也。

先つ以て其平面圖を觀られよ

多くの作家は規定に外れざらん事に力め戰々恐々として與へられたる線圖に依りて第一歩を動かしたる間に此の作家は堂々として自家の所信を披瀝し來り、其重要なる基本計畫をして眞個日本的見地より出立せるが如し。蓋し平面圖は設計の骨子をなす。平面圖の計畫に於て自家の所信を斷乎として建立す、作家の意氣既に審査員の意表に出でたる所以ならずんばあらず、想へ懸賞當事者の提出したる平面線圖が如何に貧弱なる月並的計畫なりしかを、彼の復興期歐米建築の多くが左右均等を主眼とし左右翼と中央部との均衡を保たしむるに墮し千篇一律なる平面圖を有するに學び山字形コンポヂションを得んとしたる審査員の意圖を測量するに些の躊躇を要せざる也、予輩私かに想へらく彼の如き小心翼々の計畫圖を基礎として如何に明治時代興隆の精神を發揚すべき一大設計案を求め得べきやと、予輩想へらく審査員諸氏が既に計畫の當初に於て月並的復興式設計案を得んとしたるに非ざるなきかを打消し能はざるべしと。

果然入選作品の多くは審査員諸氏の意圖通りの計畫に傾きたる也、觀よ素樸剛健の作品と見做されたる近代獨逸風のものにせよ、復興式のものにせよ、其コンポヂションには全く千篇一律なる近世復興式手法に據らざるものなきに非ずや。審査諸氏の推賞を博したる一二等案が其末節の技巧に獨創の手法を發揮せるものなりとするも何等計畫の骨子、設計の主意に於て創造の天地を開き得たる處なきに非ずや。

第三位案を觀よ　其平面の基礎は飽くまでも東洋式雄大の矩形的規模を劃し、豪健なる日本的趣味に據りたるを。

神聖なるべき葬場殿址は我國上代の遺風に則り、何等人工的技巧を加へざる址跡を安置し廻らすに簡素なる廻廊を以てし、七千萬國民の悲しむべき追憶を敬表すべきに便し、記念繪畫館の規模は更らに雄大なる工夫を凝らし、巡路拜觀の道行に於ても絶えず敬謙なる赤子の參拜に謹愼畏敬の念を起さしむる如き按配を劃し民主的思想の溢逸せる歐米諸國の諸作例に倣はず、君主的橫暴の豪華なる宮殿に則らず、飽くまでも君臣一体にして皇國の大本たる父子の情緒漲り渡る我國情に據りたるが如きは決して凡腦の着想し得ざる處に非ずや。

繪畫館前面の配置結構亦頗る獨創的手腕を示せり、廣濶なる段級の起伏せるは往古王道の隆盛時代なりし平城宮、平安宮の大極殿前庭に據りたらん趣なきに非ず。正面中央の正座に一大高臺を建立して　聖像を安置し左右兩庭に日月を像りたる二大靈旗を建立して、御在世の當時を回想せしめ得べき用意整はれるを觀る、實にや作家が滿腔の赤誠を捧げて、古今獨歩の境域に其藝術を大成したる所以は實に懇りて其平面圖上に在り。審査員諸氏が作者の眞意の何邊に存するを洞察せざりし點あらば予輩は作者の爲めに同情の涙を禁ずる能はざる也。

五、設計立面圖

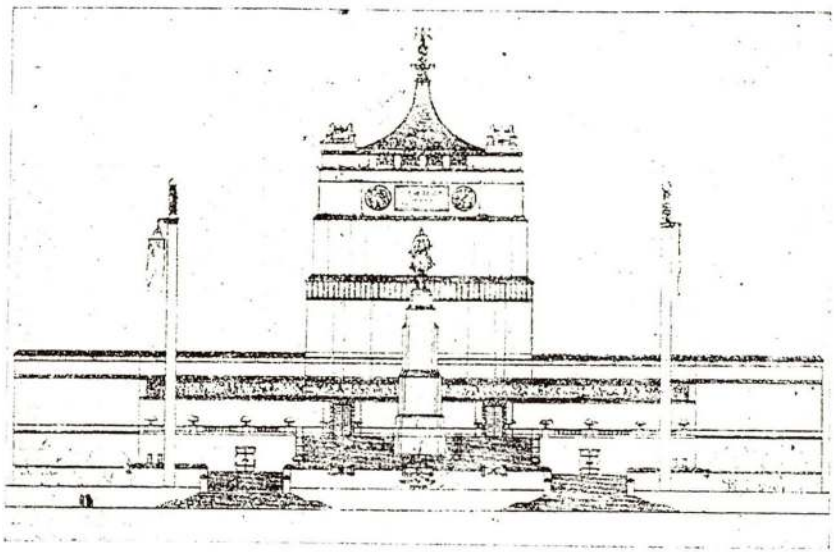
第三位の作者が其計畫平面圖に雄大なる基摸を建立して不羈奔放、豪氣活達なる意圖を披瀝したると同時に、其立面圖の結構に亦他の及ばざる大手腕を遺憾なく發露せるを觀る。予輩が聞く所によれば其立面圖が百分之一の如き觀あるに驚き到底吾國の自然に容れられざるべきを非難するの批評家あり。果然現代國民の思想は近時頗る萎縮し來り、開國進取の氣象は島國的根情に還元し來る如き傾向なきに非ず。東京の市民は駿河臺上のニコライ會堂に威壓せられて如何なる感想をか溢出し來る。吾國民は世界に誇るべき木骨一大建築として奈良の大佛殿を想ふとき、吾等が祖先が彼の如き幼稚なる時代によく三國一の大寺院を建立し得たるを追懐して如何なる所感がある。日本趣味の真髓を平安朝に求め、或は室町時代に探り、又轉じて元祿時代に尋ぬるの士は、到底國民思想の活達雄偉なる時代の作品に共鳴を感ずる事を得られざるべし。平安朝や室町時代や元祿期は國民思想の最も萎縮したる時也。

明治大正の時代を誰か平安朝に比する。誰が足利期に對する誰か德川時代に較ぶるものぞ維新當初の復古思潮は遠く、神武の時代に連關し現代國民の思潮は世界的新日本の舞臺を自誇しつゝあるべき秋也。現に歐洲大戰の餘波を蒙りつゝ橫暴無道なる中歐同盟を膺懲しつゝあるの時也、日本現代の藝術界は此の帝國的位置を自認してよく其時代精神を發揚すべき作品を擧ぐるに努力すべき時機なる也。實に第三位案が此の見地より觀て当の非難を加ふべき所以を知らざる也。

案ずるに、小にして技巧を弄せる作品の價値と大にして何等の邪氣なき作品とは何れが勝れる。曩近我建築界の趨勢は歐米の建築の輸入に努力し其後塵を拜するに汲々たり、されど工費伴はず技倆至らざる我建築界が只管圖上に彼の長所を學ぶに過ぎずして眞個堂々たる男性的建築を實施するの機會甚だ少なき爲め、あらゆる技巧を小なる建築に應用して得々たるが爲めに總てに於て小なる貧弱の規模の建築に滿足せざるべからざるの餘弊は引いて、如何なる小規模の作品にも復雜なるコンポヂシヨンを應用し、其結果模型の如き作品をのみ建設しつゝあるが如し。殊に復興期建築の壯麗は其規模手法材料の大まかなる点に長所を有するに係らず好んで貧弱なる我國各種建築に適用す。從つて圖上の豪壯なる風格は實施されたるものに於て消滅し去るも、遂に意に介せざるに至る。斯くて我有爲なる建築家は遂に小日本的建築觀に墮し會々大日本的風格の作を觀るも、途に其妙所を悟らずして此我國土に適せざるものとなす。誤れるの甚だしき所以ならずや。

想ふに第三位案の作者は時代の風潮を慨し、眞個徹底せる建築觀より出立して、他の企て及ばざる大作を成就したるものに近し、其漠々たる風韻を觀よ。

作者は大局の結構を定むるに簡潔なる左右均等の日本的コンポヂシヨンを基礎とし、あらゆる技巧の遂に大局に何等の價値なきを觀破し中央廣間に豪壯なる高塔を聳立せしめて以て其壯圖を完結す。而して斯の根本的結構に加ふるに剛健なる古代英



第二等第二席案立面圖

國流ゴーシック式の手法と活達雄偉なる日本的輕快趣味の塔屋を按配して一糸乱れざる表現を大成す。而して正面中央の聖像と左右に屹立する兩大幡とは亦各其處を得て配置され非凡なる作者の手腕を遺憾なく發揚する處、到底他の作家の企て及ばざる着想に非ずや。

按ずるに作者は現代吾國の帝國的位置を理解し時代の眞諦を摑み此の大作を成就したるものに非ざるなきか。明治大帝が御宏模は開國進取の大國是に始まり日英兩帝國の大同盟に大成し帝國の國基を富嶽の安きに確立せらる。而して斯の大偉業の事歴を奉安すべき記念繪畫館の表現に作者は此の一大意義を樹立す。予輩が讃するに辭なく、謝するに道ながらんとするもの實に茲に在り。眞個建築の合著すべき精神的意義は其漠々たる風格の間に無限の餘韻を包藏するに在り。「藝術の母」たる建築が文學的並びに音樂的要素を俱有する所以も茲に在り。第三位案の合著が如何に偉大なるかを察せずんばあらざる也、此の偉大なる記念繪畫館は其内部に包藏すべき　先帝陛下御一代の御事歴を具体的に説明する以前

に於てよく無言の間に遺憾なき雄辯を吐露しつゝあるに非すや。

世上紛々たる妄評に聞かすや。彼等は此の第三位案が繪畫館としての表現に欠くる處多きを指摘しつゝあり。されど彼等が畫きつゝある繪畫館の表現とは果して如何なるものなりや。要するに歐米諸國に雨後の筍の如くに乱立しつゝある繪畫館を築め來りて得らるべき平凡なる印象にあらすや。

案するに聖德記念繪畫館に在りては彼の歐米各國の平凡なる表現は何等顧みる要なし。此の一大記念館は　畏くも先帝陛下を追憶し奉るべき重大なる意義より出立すべきものに非すや。果然此の偉大なる作家は歐米の諸建築を眼中に措かすして崇高なる信念を傾注し來りしものに非すして何ぞや。

六、獨特の境地

予輩は曾て　先帝陛下御登遐の砌　御尊像を奉鑄すべき意見が我國上下の識者の間に稱導せられつゝあるの時、謹んで按するに吾七千萬の國民が赤誠を以て仕へまつる神人一体に御座します　天皇の尊像を彼の歐米諸國にて行はるゝ如き意義に於て決して建立すべきものに非ざることを想ひ、殊に雨中に尊像を拜し、又群鴉の來集に任すが如き愚擧は決して日本國民の執るべからざる方法なりと信じたりき。

然るに此の偉大なる作者の案を觀られよ。世界に類なき高臺を建立し軍服馬上の大尊像を奉安するに非すや、謹んで按するに、現代國民の追憶的表現として此以上の妙案なし暴雨も尊像を避くべく、鳥群亦敢ねて尊嚴を犯すことなかるべきの感あり實にや忠誠なるべき天下の赤子は龍顏を雲上に仰ぐべく、塔上に登るの民衆は背後より尊体を遙拜するに非すや、何ぞ夫れ其意圖の用意周到なるや。唯うむらくは、現代斯くの如き大作の中心に奉安すべき　尊像　を大成するの大彫刻家皆無なるべきを。

嗚呼偉大なる作家の手腕よ、予輩は衷心の赤誠を吐露して感謝の辭を捧ぐるの外亦他意あらす、想ふに作家が斯くの如き蓋世の傑作を現代に到來せしめたるは決して彼の些々たる技巧的手腕に據るにあらすして全人格の藴蓄を傾注し來りたるに據らすんば非ざる也。

實にや其雄揮剛健の風格は拜觀者をして無限の畏敬を捧げしめすんば止まさんとす。

按するに審査員諸氏の印象も蓋し甚大なるものありしなるべく、畏敬の念の極致遂に却つて淋□□しみを感ぜしめたる所以なるべきか、否乎、若し夫れ簡素雄健なるが爲めの寂寥を覺じて此の大作に活達壯絶の氣品に缺ぐる所ありとせばそは自ら誤れるの甚しきものに非すして何ぞや。興國隆祥の機運に偉大なる共鳴を感じて成りし蓋世の傑作の果して何處に哀情を宿する餘裕ありや。由來觀照者の所感は自家の獨特なる感情に據る處多し評者の感想は評者の觀想にして悲喜哀悦各人其觀る所を異にするは亦止むを得ざるべし、乍然、眞個偉大なる精神的作品は偉大なる精神活動の結晶せるものなるが爲めに、作家の意氣を洞察するの精神活動到らざれば遂に何等の感動も得べからざる也

而して偉大なる蓋世の傑作は遂に偉大なる蓋世の傑作たらずんばあらざる也。

予輩は第三位設計圖案を悉細に點檢して、作家が何等の技巧を敢てせざりし用意に敬服せざらんとするも得べからざりき觀られよ、圖上の線條に於て肉筆に於て些の巧妙なる技巧なく些の輕浮なる色彩なし、作者は衷心の赤誠を披瀝するの外他意なかりしを察せずんばあらざる也。

按ずるに此種偉大なる精神的作品は意的的活動の活躍奔逸するが爲めに何等翼々たる智的考慮の加入しあらざることを認めざるべからず、從つて、此種の作家は大局の精神に重きを措き細末の技巧に些の邪氣を交へず、餘悠綽々として漠々たる雲の如し、されば作者は其主要なる大局の結構に却つて細心の注意を拂ひてあらゆる苦慮を設やし、遂に内部裝飾の如きは意に解せざる程の豪懐を示せり。想ふに此の一大記念館内部の裝飾の如きは決して重大なる要件にあらず聖德を傳へまつるべき御一代の御事歴を掲ぐるを主眼とす。從つて此種の建築に在りては個々の室内裝飾は畫家或は裝飾家の手腕に任し去りて何等の痛痒を感せず、綜合藝術の主裁たるべき建築家は此の餘裕ありて然るべき也。道途説く處によれば劇場建築の如き内部裝飾に凝りたるが爲めに却つて劇の上場に非常なる支障を惹起するの結果を齎したりと聽けり。亦以て悟るべき也。

予輩は作者が其絶大なる意匠を大成し日本的手法を加味するに甚大の注意を拂ひたるべき所以を説けり。想ふに日本的趣味の加入按配は近時斯界の趨勢にして多くの作家の苦心する處なりと雖多くは些末の器具裝飾に技巧を凝らし、遂に大局を逸し去るの愚を敢てしつゝある非ずや。然るに此の作家の大量なる大局の利を執ふるに努力して些末の技巧を弄するの弊に陷らずよく現代精神の發揚に獨特の境地を開托せり。後塵のよろしく學ふべき所謂に非ずして何ぞや。

七、工費の問題

予輩は進んで第三位案の工費上の問題を考究せざるべからず予輩不幸にして作家の説明書を覩るを得ざりき。されば如何に作家が其大作を成就すべき經濟的所理の詳細を知るを得ずと雖も作家が此の大作を打出するの道に於て、よく工費上の問題をも徹底的に考慮し、且つ雄偉素樸の風格を大成するに努力せしかを其設計圖上に觀取し得たるを覺えずんばあらず。

想ふに限られたる工費を以てして自家の所信を斷行し以て偉大なる藝術を建立するは建築設計者の唯一の任務なり。斯くて作家は其自信を敢行し、遂に其眞個目的を成就するに亦他の企て得ざる領域を開托し得たるが如し。

觀られよ第三位案の大作の何處に無用の工費を投すべき技巧りや。此作家は他の作家の常習とする虚僞的手法をなさゞりしに非ずや。然も雄揮無比の高邁なる大局の風格を成就す其凡腕ならざる所以を知らざるべからず。而して作者は素樸なる彫刻を其正面壁体の一部に施さんとする也、されど此種大作の彫刻は尋常平凡なる手法の巧くする處にあらずしてしかも工費の上に於ては決して多額の費目に屬するものに非ざる也、世上多く

の彫刻は其あまりに細微なるが爲めに多大なる勞力を費やしつゝ遂に建築的大局の効果に何等の貢献なし。然るに此の大作の重要なる彫刻に至つては偉大なる彫刻家の手腕に據らずんば得べからざる程の素樸なるものなり。想ふに實際上の個々の石材に於て其作工費は決して高價を要するものに非ざる也。

按するに作家は此の大作を剛堅なる石材建築にするの意あるなるべし、去りながら其漠々たる風格は個々の材料について嚴密なる檢査を要せざる程の餘裕を俱有す。即ち此の大作は其個々の材料の如何を超越せずんばあらざる也。されば此の大作を實施するに當りては個々石材の選擇並びに作工の如き其接合目地の如き其据ゑ付作業の如きも大局を逸ぜざらん程度に止めて建設し行くも、決して其品位を低下するなき偉大なる男性的建築を成就し得べきを信ぜんとするものなり。

されば今日多くの建築家が常習とする神經過敏なる構造的監督や小心翼々たる作工的指導の如きは斷じて許すべからず、況んや個々の石材の色合の適否等は問題に非らず、石材の如きも決して北木島産花崗石に限るが如き愚擧に據るの要なし、況んや石材の本質を失ふ如き水磨き等の枝巧を弄せずして、あらゆる從來の徒勞的方法を改良打破して工費の節約を謀り、眞個大局の打算を忘却することなくして實施せんか、如何に勇壯剛健の男性的建築として其藝術的價値を發揮するの大作を實施し得べからずや。

按するに斯界斯くの如き蓋世の大傑作を打出するの作家寥々たると同時に斯くの如き眞個雄健なる藝術的大作を實施すべき實際的手腕ある建築家あらざるべし。

嗚呼蓋世の傑作、眞個明治時代唯一の大作にして古今に獨歩し、世界に誇るべき此大藝術品を第三位案なるの榮譽と一時的賞金とによりて單なる圖上設計案として葬り去ることの如何に無念なるよ。

想ふに今回の應募作品中、眞個審査員諸氏の要求に合致し現代興隆の精神を發揚し、現代藝術の眞諦に觸れたるものにして、しかも 聖德記念繪畫館としての品位に於て規模に於て意匠に於て此の大作の右に出づるものなきを觀ぜずんばあらざる也。

八、結　論

予輩は自個の所感を最も無遠慮に告白せり。或は予が所論を以て感情に馳せ爲めにする處あるが如く解譯さるゝ事もあらんされど予輩は斷じて些の邪心を包藏するものに非ず、或は予が觀察が第三位案を崇敬するの餘り却つてあらゆる點を善惡に解譯して說論をなすものなりとの所感を抱かるゝ向もあらん、されど予輩は斷じて好言令色を以て作者の手腕を推賞するの意なし、自個衷心の所感を最も露骨に最も大膽に告白するに努めたるの外、むしろ作者の意氣に添はざらんことを恐るゝもの也。

想ふに現代社會の思想は非常なる混亂期に踏み入りつゝありて從つて建築界に於ける藝術的解譯も數多の思想上の混亂に累せられて、頗る波瀾萬丈の觀なき能はず、蓋し我國建築界の趨勢は明治中期に於て初年以來の折衷主義より一轉して直寫主義に

傾き、洋風建築の輸入方針は日清日露兩役を經て益々其勢を增し居たりき。然るに明治後期にありては樣式問題の惹起より曳いて日本的進化主義の稱導となり、轉じて構造論の勃興となり次いで非藝術論の稱へらるゝに至れり。されど大勢は歐洲復興期建築の輸入より、近代獨逸流の型式を學ぶに至るまで、要するに歐洲文明の餘波を汲々として研究しつゝあるに外ならず。

今回の審査發表の結果は今猶ほ近代獨逸流の型式を輸入しつゝあるの時なるを明示しつゝあり。蓋し我國現代の文明が重要なる過度時代に掉さしつゝあるの眞想は建築界に於ても其一端を露出せるものと解譯するの至當なるを感せずんばあらず。而して近代獨逸風の長所は必ずしも之を排するの要なし、彼の長を汲み短を捨つるは明治時代の一大國是なり。其長を執るの道にあやまるなくんば斯界の將來に貢獻する處多大なればなり。されど近代獨逸風の藝術觀は獨逸に於てこそ其眞意義を樹立することを得べきものにして移して以て吾國の藝術觀とすべからざるは火を觀るよりも明かなり。況んや近來獨逸流の作風に日本趣味的風韻を有するが爲めに、學んで以てこれ日本趣味の眞髓なりとする如きは、吾建築界の將來のために執る能はざる處に非ずや。

想ふに折衷に初まりて模倣に終らんとするの斯界の現狀に於て斷乎として自家の蓄藏を傾注して吾建築界のために將來の方向を示せる第三位案の作者の如きは現時に於て最も傑出せる一人に進すして何ぞや。

按ずるに第三位案の漠々たる風貌は到底行き詰らんとしつゝある明治末期の變潮思想より觀察しては何等の感興なかるべし想ふに明治時代を代表する人格に數種あるべしと雖、維新興業の元勳大西郷の如き、日露の風雲を叱咤せし、陸海兩長官の如きは一世の推載措かざる處なるべく、其茫漠たる人格は明治時代の特產なるべし。此等明治時代の代表的人格を更らに超越せられたる　先帝陛下の記念繪畫館が雄偉剛健簡樸豪快なる一大風貌を顯出し來らんと七千萬赤子の期待ならずんばあらざる也

嗚呼現代に超越する一大批評家なきか。彼の蓋世の傑作を紹介して眞個明治大正時代を代表するの風格を備へたる所以を闡明して混亂せる藝術界に一大光明を投下するの一大鑑賞家なきか。明治時代を代表する人格を表現する彼の力ある精神的傑作を認め、現代國民かあらゆる工夫を凝らして此種の大作を實施せしむべき指導を斷行するの一大藝術家なきか。

若し夫れ彼の大作の保有する眞個偉大なる含蓄を認めながら遂に實施すべからざる架空案なりとするあらば斯界の將來を如何せんとはするものぞ。若し夫れ現在奉收しある資金を以て今日時價の暴騰の時機に於て到底實現し得られざるものとするならば、謹んで時機の到來を待つも可なり。急ぐが爲めに大局の失敗を招き後代の笑を買はんより悠々熟慮を盡して眞個國民的記念建築の大成を企劃するは當局者の爲すべき一大任務なり。

予輩計らず菲才の身を以て無遠慮なる愚論を開陳して貴重なる紙白を穢す、畢竟衷心止むべからざる一念の鞭打日夜堪ふべからず、夜半暗雲低く垂れ寒風破窓を叩き遠犬暗に吠ゆるの時謹んで自家の所感を吐露す。

忘言多謝。



内譯明細書の添削に就いて

會員　瀬戸文吾

（一）

本協會第十六回例會に於て議題に上りました「建築工事入札見積書に内譯明細書を附せざるの可否」について私は私の所感を茲で述べさせて戴きたいと思ひます。私は元來皆さんの前で喋ることも下手でありますし又書く事も兎角性に合ひませぬ。しかし自分の意見といふと誠に嗚呼がましいですが何とか自分の思ふことを皆さんに申述べたいと思ひまして波江さんと相談の上座談として紙上の一隅を拜借することゝ致しました。その積りで讀んで頂きたいと思ひます。

先日の會合の議題は座長からも御話がありました通り、元來建築業者の團体である所の建築業協會で相談された決議を東京に在ります建築士會の方々へ通告したのでありまして、本協會には何等今日迄照會もなく直接關係のある事柄ではないのでありますが、本協會と致しましても相當に研究を致して置くべき問題であるに相違ないので當日の樣に議題に掲げられた譯であると思ひます。

當夜は議論が餘程具体的に入り過ぎたのか皆さんの熱心な御說の御發表があつたに係らず議論倒れとなつて何等纏まつた結果を得なかつたのは如何にも殘念な事と思ひます、必ずしも當夜中に議論の決末を付ける必要は元よりありま

せんし、研究をすればする程夫々御議論のある譯でありますが、折角議題に掲げられました以上は何とか可否についての決だけは執られ得ることであると考へます。又本會としても議論倒れに放置しておくのは什ういふものかと思ひます。尤も單なる話題としてならば夫れでも差支はない事と思ひますが、既に討論題の形式で提出されましたならば討論終決はありさうなものと思ひます。要するに議論が屢々脱線した樣にも考へられますので御互ひに此の點は今後注意して次回には何とか纏まりを付けたいものと思ひます。

葛野さんの御意見にありました樣に議題其物は本協會に何等關係のある事柄でない以上は、此可否について議論を上下するの必要はない譯であります。殊に建築業協會から建築士會への通告文も頗る粗雜であり、議案其物が建築業協會で既に決議されておつて單に一片の通告に過ぎぬのであつて、何も餘計な世話を燒く必要もない次第でありますが、現在建築業方面に從事して居る方々から見ますと實際問題として生きた研究事項に屬するものであるに相違なく相當の考究は爲して置くべきであると思ひます。私は曾て建築業方面の仕事にも從事した事もあり旁々公平の立場から觀察して本問題を調査して見たいと思ふのであります。

現在一般に行はれて居ります一般入札は先夜も段々御話がありました樣に近來民間に於ても官署の公入札に於ても、漸次に指名競爭入札の形式になつて來て居ります。これは誠に喜ばしい現象で大に進歩して來たものと見ることが出來ますが、從來の一般競爭入札に兎角弊害の多い爲めに自然と注文者の方々に於て特に注意を加へられ今日の傾向を見る樣な次第かと考へますと信用のある建築業者に於ては寔に難有い譯であつて則ち注文者の方々が信用して指名に加名するのであつて曾て木子さんの御話にあつた樣に請負者側に與へられる特權であるからして指名された　請負者は既に此の特權のために進んで多少の犧牲を拂つても忠實なる見積書を提

出し且つ内譯明細書を添付するが至當であるとの御意見は誠に御尤もでありますけれども、本問題は注文者側に在つては畢竟輕く見られる傾きがあり請負者側に於て頗る切實な問題である所以が充分に徹底して居らぬ樣にも考へられますから私は此の點について自分の考へてゐることを申述べたいと思ふのであります。

建築業協會より建築士會宛の書面は片岡さんの御説明に依りまして私も承知致しましたが、あの文意に依りますと頗る輕率な体度が見にますがあれは建築業協會の本意ではなくて多分書記等の失策に依つたものかと思ひます。基より建築業者側から決議として宣言すべき性質の事柄ではない樣に私も考へます。むしろ設計者側注文者側の意見に對して一應の相談を致すのが順序である樣に思ひます。

(二)

私は先以て建築工事入札見積書に内譯明細書を附するの必要は如何なる理由に依るものか能く解りませんので先夜の例會に於ても質問致した樣な次第でありますが、座長の御説明では充分呑み込めませんので實際は大いに迷ふて居ります。併し私の伺ひました處を綜合いたしまして見ますると大体次の樣になるかと思ひます。

第一、見積明細書は調べられたる建築設計書を如何なる程度に理解し居るやを知るの便あり。

第二、見積明細書を添付せざれば、兎角詳細なる調査の勞を省き、大摑に(坪當り)見積をなす患あり。

第三、見積入札書に大なる錯誤なきや否やを檢するの利あり。

の三箇條に歸するかと思ひます。

第一條の御心配も今日の樣に建築設計書が大いに完備される樣になりまして圖面仕樣書及數量書(參考といふ事になつて居りますが)等に錯誤のない樣になり、仕樣書の程度も見本を以て詳細に指示せられる樣になりましたらば、決して請負者に於て大間違ひをする憂は大に除かれて來た譯でありまして、從來の御心配は全く無

用になつて來たものと見て差支ない樣に思はれます。殊に明細書を添付してありましても、結局は總金額に於て請負契約は決定されるのでありますから、殆んど明細書は重要なる要件ではなくなつて居ります、從つて入札の場合に於いては請負者の選定について充分信用あるものを指名されたならば、全く此の點の御心配は皆無となつて來たものと判斷して差支へない事と思ひます。尤も人間の爲す仕事でありますから神ならぬ間違はなきにしもあらずでありませうがそれは設計者側に在つても請負者側に在つて同樣であつて結局の處は總金額の如何による事になります。

第二の事項も今日の樣に建築界の仕事が復雜になり、請負者側に在つても夫々組織を完備して參りました以上は、昔の樣に大摑みの坪當りから打算して總金額を計上する樣な事は行はれなくなりましたと思ひます。是れ一つには建築が餘程地味な仕事であるが爲でありまして圖面仕樣書並びに數量書の完備されるに從つて詳細な計算が出來る樣になりました、第二十世紀の今日では此の點の御心配は亦全く御無用であると思ひます。尤も今日に在つても低級の請負人か差もなくば世上有り觸れた貸し長屋拵の見積では隨分大摑みの打算をやらんとも限りませんが、これも請負者の選定を御注意になれば差支へない事と信じます。

第三の御心配も今日の樣に請負者の營業組織が進歩しまして自家の地歩を確立して來ました以上は或程度迄の信用を與へられて差支へない事と思ひます。從つて指名入札の場合は其選定に充分注意を加へらるゝならば決して杞憂にならぬ事であります。況んや前にも申述ました通り明細書は單に參考迄の必要であるかの如く請負契約は總金額で決定せられつゝあるのでありますから、些々たる誤謬は問題となりますまいと思ひます。尙又落札確定の際に於て相互の間に交換條件を附したならば簡單に解決せられますし、信用ある請負者に在つては些々たる誤謬は措いて問はぬ位いの責任を負擔すると思ひま

す。

以上三つの事項も詮じ詰めれば今日信用ある請負者間に指名入札を決行する場合には見積明細書の添付は全く不必要かと思ふのであります最も今日の時勢に猶ほ相當の資格ある請負者を信用なさらぬのならば問題は根本的に考へねばならぬ次第でありますが現在の請負者が内譯明細書の添付によつて信用を博して居るのではないと思ひますから要するに見積明細書添付の可否は設計者並びに注文者側の寛容なる態度によつて簡單に決定される事と思ひます。

(三)

次に私は明細書の添付を省かんことを希望する側の事由を申述べたいと思ひます。

第一、落札決定は明細書の當否に據らず最低價に決定せらるゝため

第二、請負者側に在つては見積總金額は主として幹部の見込に據りて決定せらるゝため

第三、見積期間頗る短小なるため

以上三つの事由が存在してゐると思ひます、

第一の事由は前述の様に今日の請負入札の場合に於ては公入札でも民間に在つても最低價格に落札することになつて居ります。從つて入札者の多ければ多い程、最低入札者以外の者は其明細書の添付に重要なる意味を感じて居りません、何となれば總金額が最後の契約に重要な眼目であつて明細書は全く參考に過ぎないのでありますから、落札者が契約の際に提出すれば少しも差支へない次第であると思ひます。元より場合によつては最低價格者の總金額が他のものと非常に開きがあり其内容に誤があると判斷される場合は更らに第二位の請負者からも明細書を提出せしめて調査せらるゝことは少しも差支へない事と思います、既に申述べた様に請負者は明細書の添付を必要とせぬ迄も決して明細書を作らぬのではないの様ですから、下命によつて提出は少しも苦痛とする處ではないので唯多くの場合に明細書添付が全く無意味に終ることを知るがためであると思ひます。

第二の事由は請負者側の内幕を説明する様な

ものでありますが、實際請負者の業務からいへば入札の際に於ける苦心は想像以上であつて業務上の死活問題が附き纏つて居るのであります從つて愈入札の決定する迄の當事者の仕事は一寸言葉で說明し得ない樣であります。只多くの場合に於て入札の總金額は建築業者最高幹部或は請負者の主人公が決定するのであります。それは部下のものゝ詳細なる調査書類を基礎といたして、請負者自身の有する在庫品の多寡既契約の諸材料の如何、請負工事の繁閑、期間中の相場の高低並びに資金の關係を考慮案配して夫々酌酌するのでありますから、全く幹部の意圖によつて業務上の作戰方針が決行されます、從つて部下のものが其方針に從つて明細書を整理するのは非常の勞力を費やす事であります。此點については先晩松本さんが可なり詳細に述べられた樣でありますが、今日の請負業者は其業務上の分擔組織を進步せしめたと共に稍複雜になつて來ました故、此業務上の死活問題たる入札の際の苦心に同情してやるべきであります。

第三の事由は現在の事實を說明するより外はないのであります。如何なる習慣によりましたものか、今日建築業者が入札見積當時に與へられたる見積期間は誠に短時日であります、此の短時日の間に行はるゝ競爭入札が其內譯明細書をも完備せしむることが既に無理の樣な氣がいたします。尤も曾て野村さんの御話にありました樣に、限られた見積期間に精細な見積を打算するのは其業務の主要な任務の一であるとせられますと誠に御尤もでありますが、此の點については尙充分建築界將來のために研究するの必要がありはせぬかと思ふのであります。若し今日の樣に短期間の見積期限を遂行して少しも無理がないものとせらるゝなれば、內譯明細書の添付を削除するの雅量を示されてよかろうかと思ひます。要するにそれは相對的の問題であつて、設計書類の完備するに從つて見積入札をする側に於ても敏速な調査を遂行することが出來るのであつて設計書類中に往々數量書を添付せられざる場合もありまして其際に於ては請負業

者も精細な内譯明細書を提出するの必要を感じない樣であります。兎も角今日の狀態では尙相互關係の上から見まして充分の研究を盡すの必要がある樣に思います。

(四)

以上三つの事由から見まするど請負者側にては内譯明細書の作成に甚だ多大な勞力を消費して居る樣であります。最も其多大な勞力を自家の營業上の死活問題に觸れる上は甘んじて犧牲としなければなるまいとの議論及び見積書の清書に多大な勞力を費やす理由を認めないとの觀察については尙充分研究を盡すべきである樣に思ひます。

内譯明細書の清書に付いては先晩大分に議論がありましたが「内譯明細書の清書」と申すと如何にも簡單に聞えますが、私の見る處では「清書」でなくて「整理」である樣です。清書なれば書記の二三人にて僅少の時間に出來ますが、實際は調査書類を基礎とし幹部の意向命令によつて添削し更らに入札後の種々の關係をも考慮に加へた後でなければ整理をする譯には行かない樣であります。從つて業務上重要な人物が之れを擔當して居り場合によつては其整理を成就しても機密の漏れることを恐れて清書をすることすら躊躇する場合もあります。競爭入札の前後に於ける請負業者は外務省と參謀本部を兼ねた樣な難務を遂行して居る樣です。從つて内譯明細書を添付するの可否については、請負業者間では餘程以前からの問題であつた樣です。從つて此の問題についてあまりに輕く取扱はるゝのも如何かと思ふのでありまして聊か私見を述べた次第であります。

入札見積書添付の可否に就いての問題は今迄申上げた樣に實際上の見地から建築業者間に從來絶えず話題に上つて居つた樣でありますが是れが建築業者の死活問題では元よりないのであります。然るに盛んに此の種の問題を提出して建築設計者側の御意見を伺ふといふ事其事柄は簡單に考へますと恰も建築業者は自家の權利のみ主張して恰も足元を忘れて人に苦情を訴へる

様にも見ゐますけれども、例へば關西に於ける一般公休日を一日と十五日とに決定しまして東京方面と相應じ、復雜亂雜なる從來の習慣を破り些少なりとも建築界の將來に便宜を得んとするの微心から湧いたものと考へますと、此度建築業協會よりの通告も精神は此の種の深い意味を含んを居る積りであるのであろうとの同情は下されることゝ思ひます。從つて此際進んで遠慮なく彼等の至らざる點を指示し御指導を垂れられることは斯界のために祈るのであります。

思はぬ長話をいたしまして貴重な誌白を穢しましたことを御詫いたします、いづれ次回の例會には拜顏の上御高說を伺ふことに致したいと思ひます。（了）

△見せぬ所は女大工▽

道具箱には維鮑墨壺曲尺、顏も三寸の見直し、凹なる女房手足逞しき、大工の上手にて世を渡り、一條小反橋に住みけるとなり。都は廣く男の細工人もあるに、何とて女を雇ひけるぞ。されば御所方の奥局忍返の損れまたは窓の竹打ち替へるなど、少しの事に男は吟味を煩はしくこれに仰せ付けられにけるとなり。

折節は秋も末の、女藤達案内して、彼の大工を紅葉の庭に召され、御寢間の袋棚、悳比須大黑殿まで急いで打ち放せと申渡せば、未だ新しき御座敷を毀ち申す御事はと尋ね來れば、不思議を立つるも道理なり。過ぎにし名月の夜更けゆくまで、奥にも御機好くおはしまし、御轉寢の枕近く、右丸左丸といふ二人の腰元どもに琴の連彈、この面白さ座中睡に覺まして四邊を見れば、天井より四手の女、顏は乙御前の黑きが如し、腰うすびらたく龍舌にして、奥樣のあたりへ寄ると見ゐしが、悲しき御聲を揚げさせられ、守刀を持ちて參れと仰せけるに、御傍にありし藏之助取りに立つ間に、その面影消ゐて御夢物語の恐ろし。我が背後骨と思ふ所に、大釘を打込むと思召すより、魂消ゆる如くならせられしが、されとも御身には何の仔細も無く、疊には血を流してありしを祇園に安部の左近といふト占召してみせたまふに、この家内に業なす驗のあるべしと申すによって、殘らず檢むるなり、用捨無く其處等も打ちはづせと、三方の壁ばかりになして、なほ明障子まではづしても何の事も無し、心に懸るものはこれならではと、叡山より御祈念札板おろせば暫時動くを見て何れも驚き、一枚づゝ離して見るに、上より七枚下に長さ九寸ばかりの守宮、胴骨を金釘に閉ぢられ、紙ほど薄くなりても活きて働きしをそのまゝ煙になしてその後は何の告も無し。

（西鶴——近年諸國咄）



京都古建築觀 (三)

特別賛助員 伊藤清造

各論

二、宇治上神社

概說＝山城國宇治郡宇治朝日山麓宇治神社の北一丁にある、山州名跡志には藤原忠文を祭り奴の宮と言ふと記してある、社傳には昌泰年中（醍醐天皇の御代、その元年は西紀八百九十八年に當る）に創建されたことが知られてゐるが、再建年代は明でない。

此地は後に近く朝日山の翠を負ひ、前には直ぐ宇治川の碧に望み幽邃閑雅な形勝の地を占めてゐる、而し還境は決して美くしい自然ではない、寧ろ俗化されんとしてゐる。

建築＝此處には藤代中葉と鎌倉期との建築がある、旭山峨々として聳ね、宇治川滾々として流れ、悠久と沈默とを以つて、深く深く吾人の胸底に迫る時、此邊に殘された宇治千古の文化史の象徴にどんなにか吾人の共鳴を誘ふであろう春風柔かく面をかすむる時、あの松籟親しき川岸を辿つて、宇治上神社に詣でる人は、何か強い印象を止めずにはすまないであろう。

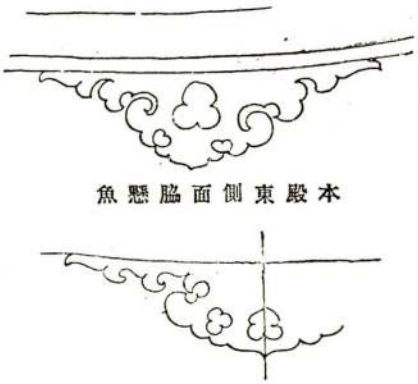
本殿

樣式手法上藤原中葉の遺物とせられ、我邦最古の神社建築の遺物として、夙に貴重せられ、明治三十五年特別保護建造物の指定を受け、同四十四年八月修繕の工を竣つてゐる。

三間社流れ造りで檜皮葺である、構造も簡單で舟肘木と圓柱を用ひてある、前柱は面のとつた角柱である、蓋し角柱の用ひられたのはこの時代からであらう。

棰は反轉があり、下端は面取り、鼻に透し彫りの金具を張つてゐる、正面に用ひられてゐる三つの本墓股は非常に有名なもので、醍醐寺藥師堂、中尊寺金色堂のそれと共に日本三墓股に數へられてゐる、力のある美くしい曲線は正に藤代純粹の曲線美である股間には彫物を狹んでゐるが中央のものが最も立派である。

第一圖

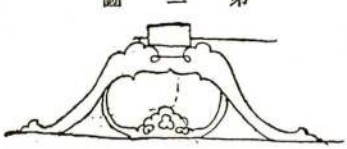


本殿東側面脇懸魚

側面破風に使はれた脇懸魚は極めて美くしい曲線で出來てゐるが、拜殿のものと共に修繕の際に新らしく作られたものである。

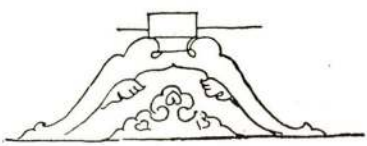
又此の三間社流れ造りの社殿は、當初は三社別々にあつたのが鎌倉時代に三社を連絡して上に共通の屋蓋を作つたものである

第二圖



本殿正面本墓股

第三圖



本殿墓股

春日神社

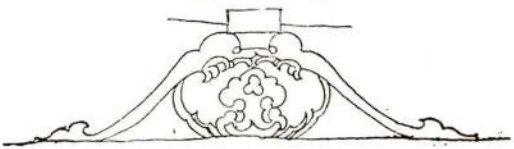
本社のすぐ東方にある小さい流れ造りの攝社である、木割が頗る大きい鎌倉期のもので、明治四十五年に特別保護建造物に指定されて居る

正面虹梁上の本墓股は、股間の強く張つた、美くしい曲線のものであり、股間に挾んだ彫刻の圖案も優秀なものであるが、勿論修繕の際社

寺保存會の手に補はれたものである。

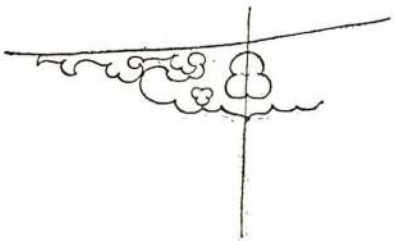
拜殿═檜皮葺の入母屋造りである、屋根の勾配は美くしく流れてゐるが、其他の箇所は多く修繕され後世のものである、前の向拜は永祿三年に作られ、廻椽の勾欄擬寶珠や側面の脇懸魚等も勿論四十五年六月に竣工した、修繕の際に補はれたものである、而し全体は鎌倉時代のもので、明治三十五年に特別保護建造物中に編入されてある。

第四圖



境內春日神社本墓殿

第五圖



拜殿脇懸魚

三、法界寺

概說═山城國宇治郡醍醐寺字日野の中心地にある眞言宗の古刹であつて、俗に日野の藥師といつてゐる。

傳に依ると後冷泉天皇の永承六年に日野三位資業卿が法界寺を建立したといふ、又再興したとも云つてゐるが詳細な事實は知られてゐない

此近邊醍町といふ一部落の中には、哀れな古塔婆一基が廿尺の地を守つて、寂然として立つてゐる、これは平家物語に哀愁の話を殘した、平重衡中將の墓である、關東に捕へられ、更に南都に送られた中將重衡が、この日野を過ぎる時、大納言佐局との對面は平語の末章を最も悲慘に飾つてゐる、吾人は日野の法界寺へ遊んだ時、何時もこの墓を展しないことはない、そうしてこの地一帶を常に、悲壯な眼を以つて觀ないことはない。

建築═絢爛に絢爛を重ねた藤代初期の文明も

漸く下火となつて、諸國には武士が蜂起して來た、中原の權威漸く地に落ちようとして、風前の燈火にも例へたいようであつた、こうした世の中に次第々々に勢力を扶殖したのは平家であつた、平家は清盛で全盛に達したけれ共、これに反して藤原氏は全く勢力のないものであつたこの時代の京都の上下は、どんな思想に支配されてをつたらう、ひとやかな、大人しい氣風を最上のものと考へてをつたことは勿論である、そしてその底には、やがて來るべき革命に對する何物かゞ潜んでをつたらう、吾人は法界寺に遊んで、この間の消息を幾分なりとも味ふことの出來るのを幸福と思つてゐる。

阿彌陀堂

建築年代に關しては、寺傳は永承六年と云ふけれ共、諸説紛々として定まつた斷定はないが藤代中葉の遺物として傳へられてゐる、明治三十年特建の指定を受け、同三十五年に大修繕が行はれたのである。

建築の大略を記すと、方五間に一間の廂を周圍に附けてゐる、そして屋蓋は檜皮葺寶形で、露盤と寶珠とを載せてゐる、又裳層を附けて正面三間を一段高く切り上げてあるのは、平等院鳳凰堂と同一である、軒は二軒で椄には反轉を附けてゐる、三斗でこの軒を支承し、圓柱に接してゐる裳層は一軒であつて三斗で支へ、大面を取つた角柱の廂の柱に接してゐる、内陣は方一間で、小組折上組入天井である、そして須彌檀を設けてゐる上に、定朝作の阿彌陀安坐像を安置してゐる、外陣は化粧屋根裏を現してゐる天井下の小壁には、天女樂器等を畫いてゐる我邦有名な畫壁である。

さてこの堂の外部は正面五間を蔀戸とし、右左後方は蔀戸と妻戸とを隨所に用ひてある。

内部の柱、貫等には文様を描出してゐるが、今は殆んど剝落してゐる。

秋風颯々と梢を渡る時、亂れて散る落葉の點々として舞ふ邊、已に言はれぬ詩趣を横溢してゐる、さへあるのに柔かい檜皮葺の屋蓋は、輕く美くしく流れて、無限の靜けさを思はしめる

廂の並んだ角柱の爲めに、何んとなし落ち付いた偉大な感じのある中に、物優しい氣分の漲つてゐる處はさすが藤代中葉の具象美觀たるを爭はれない。

宇治から日野へ日野から醍醐へ、あの黄色く榮へた山と野と、快く吹く秋の風の野路とは吾人はどんなに好きであろう、吾人は崇大な建築美の種々に魅せられて、自我の存在をも忘れてこの長い道を山科へ向ふのが常である。

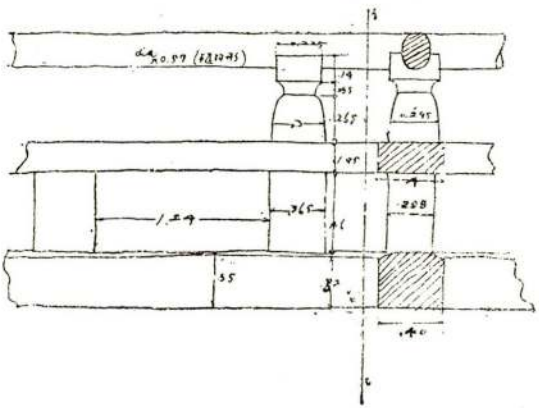
こうした吾人の心に平中將重衡卿の墓を展することはどんなに悲愁を思はしめよう、法界寺阿彌陀堂が沈々たる藤氏衰亡の兆を思はすのも決して無理なことではない。

次ぎに細部に就いて詳說しよう、先づ斗栱に就いて觀ると、鳳凰堂のそれの釣合と非常によく似た所があるが、簡單な三斗組を用ひてゐる爲めに、鳳凰堂の如く仰々しい感じがなく、しつくりとした淋し味を與へてゐる、極は地極飛擔極共に斷面は方形であつて、美くしい輕快な反轉を以つてゐる、恰度醍醐寺の藥師寺のそれのようである、けれ共この極の反轉は天平期には全く見ることが出來ないばかりでなく鳳凰堂にも見ることが出來ない。

次ぎに裳層正面三間を一段高く切り上げてゐるこれは、これに依つて非常に軒に、變化を與へて優艶な表現を增してゐるが、平等院鳳凰堂に倣つた意匠をするならば、決して創造の尊き光のあるものではない、この建築年代が寺傳の如くに、永承六年とするならば、明かに鳳凰堂建築年代に先つこと一年であつて、決してこれを倣つたのではなく、反つて鳳凰堂をして倣はしめたのであろうが、他の種々なる細部の手法が如何にしても、鳳凰堂以前の作とは認めしめないとすれば、寺傳の永承六年も疑はしく、從つて法界寺阿彌陀堂に創造の光を認めることは出來ない、この手法は近時所々に用ひられるようであるが、それ等を見る毎に鳳凰堂の設計者の偉大な天才に驚かざるを得ない。

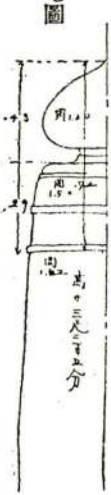
內部の細部に就いて觀ると、最も價値あるものは須彌檀の高欄である、その袖勾欄の親柱の

第六圖



阿彌陀堂內陣勾欄見取圖

第七圖



阿彌陀堂內陣
須彌壇勾欄親柱

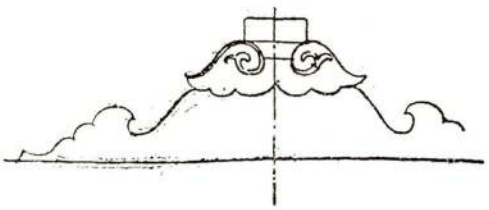
擬寶珠は我邦最古のものとして重大な價値を存してゐる、擬寶珠の形の最も美くしいものを出したのは鎌倉時代であらうが、その奈良藥師寺東院堂のものと非常によく似た釣合を持つてゐる、親柱は擬寶珠の美くしい曲線を直ぐに受けて、氣持ちのよいエンタシスを有つてゐる、大体の釣合は吾人の實測した前圖の如きものである、勾欄の釣合も圖に記したようであつて平桁のセイと笠木の徑とは殆んど同じである、これは藥師寺東院堂、六波羅蜜寺、廣隆寺講堂等のそれとよく似た點である、そして全体の木割は後世德川期等のものに比べると、大きくて何處となくしまりがついてゐる。

次ぎに柱の裝飾をみるに、これは全く鳳凰堂と同じ手法を用ひてゐる、即ち所々に横線を用ひ、その間に草花佛像等を描いたものである、又貫には簡單な文樣が描いてあるが、鳳凰堂のものよりも雄秀な點がある、特に小壁に畫いた天女の壁畫等は確かに雄健な點が窺はれる、而し一般に裝飾は少なく鳳凰堂內部の如く絢爛した點はなく、何處となく淋しい藤代漸衰の悲運を思はしめてゐる。

藥師堂

この藥師堂は明治三十四年に奈良から今の所へ移建されたもので同四十一年に大修繕を行はれたのであるが、堂は鎌倉時代のものに屬し現に特建の指定を受けてゐる。五間四面單層四注本瓦葺であるが殆んど全部新らしく修補されてゐる、周圍に廻椽を廻らしてゐるが、勾欄は勿論明治四十一年の修繕の際新らしく作られたものであるが鎌倉期の手法によつてある墓股もこの際に作られたものであるが、廻椽には古いのがおいてある、見取圖は茲に掲げたようなものでその曲線には鎌倉期の特色が表はれてゐる。

第八圖



藥師堂板墓股

內陣は組入格天井で美くしい彌須檀を設けてある、勾欄香狹間は鎌倉式に出來てゐるが、勿論新らしく作られたもので龜岡府技師の設計であると聞いてゐる。

檜皮葺の輕快な阿彌陀堂を觀た眼で、直ちにこの本瓦葺寄棟造りの藥師堂を觀ると非常に重苦しい感じに打たれるが、熟つと見入つて居ればそんな重々しい惡いものではなく、緩い屋根勾配はむしろ一種の快感を與へてゐる。

楓の紅黠々として、古池に移る夕、落暉靜かに老杉を照らす時、この千年の阿彌陀堂とこの七百年の藥師堂とは、沈々として兩者の間に聲を交してゐる。

春は曙（あけぼの）、千里鶯啼て、梅かうばしき
朧月に嘯き、青楓風すゞしく、杜鵑
あやめにかをり、水鷄（くひな）若竹に敲く、
萩、女郎花、露細うして、菊は黃に
柞（ばくそ）さびしげなり……、汝村



演劇と建築（下）

會員　波江悌夫

私は前號誌上に現在に於ける演劇と建築の社會的組織に就いて私の觀察を亂雜ながら述べて見ました。そして尙詳細な研究を盡さなければならぬ事と感じます、殊に演劇に於ける役者の地位と建築に於ける工人並びに請負業者の立場とに就いては尙立入つた觀察を過去並びに現在に拂ひ充分なる調査を基礎として更らに將來の建築界に對する關係的地位の確立を謀らねばならぬかと思ひます、又建築家の爲すべき任務並びに將來の地歩に就いても今日に於て遺憾なき迄に研究を盡すの要を認めます。乍然此等の調査研究は決して小なる問題でなく建築界の最も重大なる問題であつて、多くの先輩や多くの研究家が擧つて考慮すべき事と信じます。從つて青二才が不完全な頭から大膽なる斷案を無謀に下すべきでないのみならず、小なる個々の努力でよく盡すべき問題ではないと思ひます。從つて私は更らに改めて後日を期することゝ致したいのであります。

又前號誌上に掲げました社界的組織の一覽表を說明申し上ぐるの順序からして演劇並びに建築界の爲しつゝある仕事の內容及び其關係や特に建築の豫算數量契約に關する事項や各種材料の調査並びに構造、實施、施工上の研究すべき問題に就いては少なくとも茲に私の小さな觀察を下さねばなるまいかと思ひます。乍然之等も

決して個人の研究に任すべきものでないのみならず其主要なる事項は既に本會の各部委員會に於て着々研究しつゝあるのでありますから、茲には蛇足を加へないことゝ致します。

飜つて演劇に於ける觀劇者並びに劇評家と建築界の觀照者及批評家との對比に就いては聊かながら私の觀察を一言申述べて置きたいと思ひます。

演劇界に於ては觀劇者則ち觀客の範圍は誠に廣大であつて殆んど社會の全般に亙り上下の區別がない位であります。從つて劇評家の數も羨やましき程多數でありまして觀客の大部分は亦夫々の批評家であるかの樣であります。これや演劇が如何に其社會的地歩の確實なるかを思はせる反證でありまして劇界の爲めに大いに慶賀すべき現象であります。

然るに建築界に在つては建築を藝術としての理解を有する人々が曉天の星の如く甚だ寥々たる有樣であつて建築を單に實用的有機体と觀るの範圍より向上して居らぬ樣であります、從つて建築界の批評家は殆んど絶無と申しても差支はない現狀は悲しむべきか喜ぶべきか誠に言葉に窮する次第であります。僅かに作者同士が囚はれた個人の見解から忘評を御互に投げ合つて滿足して居る有樣でありますから以て萬事を知るべしであります。

想ふに建築が實用的有機体と觀らるゝ現狀の最も痛切なる適證は彼の過去の遺風なる家相の如きが現在に於て絶大なる其魔風を傳へて社會の上下に偉大なる地盤を据ゑて居るのを觀ても解ります現在多くの鑑相家は建築を單なる有機体と觀じ一枚の平面圖上から無謀なる批評を逞しくして社會人心の弱點を衝いて萬事を解決しつゝあります。果然貧弱なる建築界の社會的地位は彼等鑑相家の社會的地位にも及ばないのである。現代建築家は其數ケ月の努力を彼等が些々たる一語一句の上下にて根本的に破壞される程に威力を加へられては仕方がないとして居ります。進んで彼等の自稱する天理を闡明して根本的に彼等の薄弱なる理論を覆へす研究をもな

さずして手を束ねて敬遠しつゝあるのであります、敬遠するもよし只建築界の地歩は果して彼等を敬遠する程に強固のものでありませうか。

家相に關する調査は本會の常置委員會に於て着々研究を進めて居ります、委員會の研究事項は頗る廣汎に亙つて何處迄も徹底的の究理を斷行することになつて居ります、從つて私は茲に此の問題を打切りますが建築界の現狀の觀察には決して敬遠して措くことは出來ないと確く信じて居ります。

我國演劇界の觀客が頗る多方面の人々を網羅して居ると申上げましたが、冷靜に觀察して見ますると必ずしも然らずであつて、劇界の現狀を知るものは吾國觀劇家の範圍の貧弱なるを慨するのみならず、觀客の趣味の幼稚なるを憤慨して居ります、乍然建築界に比較すれば餘程上の部であります、畢竟今日の劇界が舊劇全盛時代である丈けに遺習尙久しく舊劇に對する一般の趣味が社會の上下に行渡つて居るのであつて明治中期から勃興した新派劇や、明治後期に頭を擧げ來りし喜劇や、最近の運動になる新劇團の如きは其觀客の吸收策に如何に苦心しつゝあるかを知るとき我國人の劇に對する理解が如何なる程度なるやを觀察することが出來ます。

劇界の低級經營者が社界的に花柳界との連絡を必要と認め今日如何に藝者の總見を重要視して居るかは昨今其筋の注意によつて恐慌を來して居るのを見て解ります。實に我國多くの演劇興行者が花柳界の總見を大切がる程に頗る幼稚なるが爲めに大正初頭に旗色を飜へしたる新劇團が其社會的地歩の確得に如何に苦闘を續けたるかを觀るとき同情の涙を禁ずることが出來ません。そして數年の苦闘亂戰の後に於て彼等が頭初の主義主張を放擲せざるを得ぬ結果に陷り退ひて再擧遠大なる劃策を講ずることなく、相續いて沒落の道行に蕭々なる末路を辿りつゝあるは決して我國劇界のために喜ぶべき現象ではありません。

想ふに新劇團の失敗の徑路は數多研究すべき材料を抱容して居ります。彼等が其征戰の當初

に於て一時的勝利を得たるに乘じ充分なる準備羽翼ならざるに天下取るべきを速斷し輕卒なる攻撃を開始したるが爲めに却つて惡戰苦鬪に陷つたものとも觀察する事が出來ます、去ながら彼等は其斥候戰に於て僅に勝利を得たるとき大敵前に在るを想はゝ更らに大局の勝利を獲得するに遠大の計畫を立つべきでありました。今や彼等は大敵の方圍に陷つて血路を開くの勇氣さへ消散せんとして居ります、既に或者は敵に降參して居ります、而して多くの後援者は彼等を見限つて敵と好を通ずるの形勢を觀るとき彼等の意氣咀喪は當然の事と思ひますが此の重大なる時機に於て彼等が爲すべき事は甚だ多いのであります、蓋し大局より打算すれば、什うしても早く血路を開いて敵との接觸を避けるに在ります、殘兵を收容して、臥薪嘗膽の時機であります。十年會稽山の山砦に立籠り越王の志を遂ぐべきに氣が就かねばなるまいかと思ひます。

聞くならく文藝協會の再興は遂に失敗となつてしまつた樣であります。私は衷心同情の念に堪へません、遂に大計を樹立すべき志士なきか否乎。要するに彼等が其遠大の目的を樹立するに今日執るべき道は明瞭であります。則ち飽くまで私心を捨て私情を抛ち天狗の鼻を折り飽くまで當初の目的を理解して協同策戰の上に各員相應の努力を爲すの覺悟を定め、進んで失敗の跡に鑑み數多の苦き經驗の上に照し、悠々着實なる道程を牛歩するの外はない樣であります。急いては事を仕損じ、一敗地に墮れたるが儘に分散閉息し或は逃れて個々別途の城砦に據るが如きは決して天下を征するの道ではないと信じます。

私は新劇團に就いて斯くの如き觀察を下して居ります。そして此の貴重の紙上に斯くの如き問題を云々するの所以は決して徒耳でない事と確く信じて居ります、一葉落ちて天下の秋を知り般鑑遠からず人事ではありません。建築界の將來を想ふとき卒然として眼を開かなければなるまいかと思ひます。

嗚呼事業の樹立の困難なる事よ、綜合藝術の

眞諦の如何に深奥なるよ、船頭のみ多くて船山に登るの愚はよく人の知る處であります。建築界の健全なる發展には實に廣く深く其眼界を開き各般の事項を究めて全体の融合統一に依るにあらずんば駄目であります、或は建築の形式に囚はれ、或は建築を構造と觀し、學に遍し、術に傾き、机上の戰術家は實驗家を輕んじ、多くの經驗家は陋固なる學徒を罵り、理論家は實際家の兵を知らざるを笑ひ、野戰の猛士は迂儒何ぞ斯界の眞理を知り得んやと要するに今の建築界は殆も戰國の遺風を其儘に辿つて居ります。

知らず多士整々たる我建築界が、脚下に横はる大問題を措いて問はず、學會は其學を究むるの道を捨てゝ社會的問題を抱き込まんとし、協會は其急要なる社會問題を顧みずして徒らに日を暮らすを樂しむが如き觀なきや否やと、知らず前途頗る遠きに係らず一時的問題のみを追ふて流行性感冒の如くに警戒するが果して斯界の執るべき道なるや否やと。建築業協會の如き其多くの問題を忘れてあまりに細葉の事項に輕卒なる宣言をなせる嫌なきや否やと、私は憂ふるものであります。

想ふに私の様な青二才に斯くの如き觀察を下さしむる如く斯界の現狀は頗る混亂を極め、歩調一ならず、前途の目的は雲の如く當面の問題は山の如く横はるを觀る様であります。去りながら此混亂を救ひ此の當面の問題を解決するは到底個々の小なる力では出來るものではありませう又混亂だ問題だと申して眺めて居ては何時迄も其量と大さとを增加して行つて結局全く手が付けられぬ事であります。實行は總てを解決します。議論は開扉の鍵を作る爲めに役立つに過ぎません。要するに扉を開く人が實行を働いて將來の道を明かにします。

演劇と建築との通性に於て茲に見逃すべからざる事項があります、それは様式の問題であります、様式の二字は建築界に在つては中々多くの事項を抱容してしかも強烈なる薫を放つて居ります、從つて様式の語は殆も建築界の獨專に歸して居るかの様であります、其の癖建築界で

は樣式の意義の研究について未だに何等の解決を付けずに放擲して居ります。

もう故人となられました富尾木文學士の如きは建築界にしかく樣式の二字を尊重し珍重して居りながら「樣式とは何ぞや」の好問題を顧みるものなきを憤慨して居られました、そした明治四十二年の頃まだ何んにも知らぬ私等に此の問題を提出せられまして半年の間考へさせられました。當時より今日迄約十年の星霜を經て未だに此問題は問題として殘つて居ります。

演劇界に在つては樣式といふことをあまり問題として居りません、否な建築界で騷ぐ程に神經過敏でない爲もありますが、劇の樣式が如何に建築の樣式と同一の轍を辿つて居るかは少しく研究したものは理解が出來ることであります先年藝術座が其公演を帝劇に登場せしめた頃と記憶して居りますが、先頃同情すべき最後を遂げられた島村抱月氏が一外人を案内して我新劇團の實演を觀せ其批評を請ふた事があります。其の時の外人は『日本の舊劇には立派なスタイルがあるが新劇にはまだスタイルがありませんな』と一語頗る簡單なる言葉で評し去りました

島村氏は此の時初めて「スタイル」なる語を知つた譯でもありますまいが、一寸不意打を喰らつたと見ゐまして其後演藝雜誌に此の評語につき島村氏の觀察を發表して居られました。しかし氏の解譯は頗る具体的に取扱はれた丈に、丁度建築界で「スタイル」を簡單に說明しつゝある解譯より大して深く吟味をせられなかつた樣に覺へて居ります。從つて私は劇界に於て「スタイル」を問題にして居らん理由をよく識ることが出來ました、多くの新劇團が其藝術を實行するに當り「スタイル」の存在を無視してかかつた所以はこゝにあります、從つて將來に於ては新劇界が少なくとも彼の一外人の短かい評語の中に含有する意味を充分に了解することは最も必要なことである樣です。乍然建築界では重要視して居りながら其内容を閑却して平然たるのですから結果は同じ程度に迷ふて居るのだと見る事も出來ます。譬にいふ過ぎたるが及ばざる如

しと在るのは立派な眞理でありませう。

私は茲に樣式問題について演劇と建築との比較を詳細に述べることを中止します、それは此の小稿の悉する處でないと思ふからであります私は後日を期して改めて樣式問題の研究を發表したいと思つて居ります。

私は計らず演劇と建築の比較を思ひ立つて亂雜なる序述を續けました、そして只今研究し得た事柄の大樣は申述べましたから此位にして置きまして諸先輩の御叱正を乞ふ次第でありますいづれ本稿の目的に連關する事項に關しては改めて後日を期することゝいたし茲に貴重の紙上に駄言を並べたことを御詫いたします。（了）

△ 五畿內國風 ▽

（山家鳥虫歌）

■山　城
めでた〳〵の若松さまよ、枝も葉もる葉もしげる。

■大　和
よしの川には住むかよ鮎が、わしが胸には戀がすむ。

■河　內
鐘が鳴るかや撞木が鳴るか、鐘と撞木のあひが鳴る。

■和　泉
こなた百までわしや九十九まで、髮に白髮のはゆるまで。

■攝　津
人をつかはゞ川の瀨を見やれ、淺い瀨にこそ藻がとまる。



健堂閑話（續）

會員　望蜀生

五、中老輩

俺は若い者に對して色々の注文を持つてゐる。それ丈若い者に對する同情は人一倍に抱いてゐる積りぢや。そこで俺は俺の考へて居ることを遠慮なく打開けて見たいのぢやが、今云ふ樣な狀態では到底云ふ丈が野暮臭くなつて來るで、時機の到來を待つてゐるのだ、今の若い奴等が元氣を回復して底力ある氣慨が現はれて來たら、俺は兩肌をぬいで若い者の尻押をやる積りでゐる。誤解しちやいかん俺は決して若い奴を煽動して俺の野心を遂げやうといふのぢやない。俺はそんな吝氣臭い考は持つて居らんよ。たとへ俺がそんな惡戲をする考になつた處で到底今の奴等ぢあ物にならんよ。畢竟無駄なことぢや、のみならず俺には俺の本領がある人の越禪で相撲はとりたくないからな。只俺は此年になつても昔の元氣は失はん積りぢやから、俺は俺で昔に返つてこれから新たな天地に活動するんだ。だが今の若い奴のうちでの元氣者が氣の毒だて、大いに着實な事を始めるならば、何時でも御力添をするといふ意味ぢや。

一体今の老人輩も惡いよ、時勢も考へんで昔流の一本調子で押通さうといふのだからな、そこに頗る無理があるさ、無理の有る處に面白くない結果の到來するのは當然ぢやないか、しかし老人連の攻撃は俺がやらんでも大分今迄聞かされてゐるから止めとしておいて俺は茲に今の中年輩の連中に言ひたい事柄を遠慮なく打開けやう。よろしいか。

中年輩といふても頗る漠然としてゐるが、要するに斯界の中堅を占めてゐる奴等ぢあ、中年輩のうちにも中老に近い連中も相等にあるし、若い奴等に同氣相求めて居る連中も中々多い、しかしどつちにした處が似たり依つたりぢや、これといふて線を引く譯には行かんて、老人の仲間にはなれずされば若いふて若輩と同一に考へられん御連中の事ぢあ、俺は此の御連中には亦頗る恐れ入つてゐるのだ

六、三つの要件

一体日本人は早熟といふのだろうかしらんがまだ働き盛りの連中が早く老込んでしまふ樣ぢやが、これは是からの時勢には一寸考へんといかんな、俺でさへもう老人の仲間入をしてゐるんだからな不惑の年で敬遠されたり自分から老ひ込んでしまう樣では全く心細くなるな、四十

の聲が掛つだ頃が本當の仕事が出來るのぢやないがと、俺は思ふ、實際さうあるべきぢや。處が何うぢや、建築界の中老に心當りを探して見い、これといふて斯界を背負つて立つて居る人間がゐるかい。亦立とうといふ元氣な奴がどれ丈あるかい。そりや居るだろう居なければならぬ譯ぢあ、しかし俺の見た處では其等の連中が本氣になつて居らんよ、自然に出來上つた地位に當らず觸らず、其日〳〵を暮らして居るに過ぎない樣に思ふな、もつと活氣を持つてもつと踏張つて力んでくれんでは斯界の前途が心細くなるよ

國家にしてもさうではないか、中堅を守つてゐる連中がしつかりしなかつたら國家の前途が危まれるよ、いつまでも老人輩の指圖を導奉し事勿れ主義で押通さうとしてゐるのは、畢竟自を欺き世を欺く樣なものぢや、いや決して老人連を押脫けてしまへといふのぢやない、老人連がいつ倒れても差支ない丈の力を養つて置けといふ事ぢや、つまりいつ迄も老人を賴らないで自立の志を堅實に抱持して居ろといふのぢや、これが中老輩の心掛けであつて亦斯界の強味になるのではないか。

中年輩が働くべき仕事に最も大切な要件が三つあると俺は思ふ。今の中年輩の御連中は唯自分の地位のみを造ることに齷齪してゐる樣だから到底俺の擧げる三ツの要件は解るまいと思ふ。そりや中には感心な人もあるで俺が茲に口を開かいでも默々として其任務の遂行に努力して居る仁人はあろうよ、だが多くの御連中は大抵は無意義に働いてゐるに過ぎないと俺は觀察してゐる、こんなことをいふと亦そろ餘計な御世話だと高飛車を打たれるかもしれんが、俺は決して驚かんよ兎も角參考のために三つの要件を喋つてしまおう。

七、老人の後押

第一は中老輩が自然に得た地位を眞く守つて何處迄も老人の事業を助けてやるのだ。これは老人に對する禮であると同時に自分等の腕と立場を築く結果になるのだ。若し老人輩が此等の應援を得て活動が出來ないのならば進んで老人連のなし得ない處をやつて見る迄さといふ覺悟を堅く抱いて居らなければ元より何にもならぬ。乍然老人の鼻碌を觀て之に代つて後を引受けるにしても急ぐ必要はないと思ふ。時期は自から來るものぢや、そしていざ働かれねばならぬ時にしつかり働く迄ぢや。いざ働く時が來たといふ場合に引込思案をする樣ぢや何にもならぬ、老人を助けて來た甲斐がない、老人の鬪の後を鑑みて懸命の戰をやるのだ、こんな時に腰を拔かして居る奴は元より話にならぬ。處が今の中老輩は老人を助けることも考へずに、又自分の當然働くべき舞臺の到來をも考へずに居る奴が多いではないか、中には元氣な奴が居るが其連中は鼻張り計り強くつて、急いでばかり居つて丈に焦つて居る丈に本當の力量はあるかないか一寸俺には解らない、何故つて元氣がある丈に老人の舞臺を取つて代ろうと思ふ野心が燃えてゐるから、後から老人を進ませることに努力せんで押し倒してしまふからな。

働くことの出來ぬ老人は老人で廣い世の中ぢや、亦老人相當の働く方面がある

輩だ、なに無いことがあるものか、老人の働く方面の考へ付かぬといふのが中老答の考への足らん證據ぢや、老人の働く場所をなぜ造つてやらぬ、老人の働く方面さへ開托してやれば、老人を殺さないで自分等も思ふ存分働くことが出來やうがな、そして無理な喧嘩もせんで御互に大局の利を占め得られる道理だらうが、勿論言ふに易く行ふに難いのは俺も知つて居る、だが此處をよく考へて見い、行ひ難い所を成し得て始めて進歩も活動も出來るのだ、若し出來んと事が極れば思切りよく引込んで後繼者に働かせる迄である、舞臺を讓る迄である、何うぢあ、いざ舞臺の開け渡しとなると二の足を踏むだらうが、それで居て老人の跋扈だなんとよく言へた義理ぢや。

八、天狗の寄合

第二の要件といふのは中老輩同士の協應努力ぢや、五指の交るが〳〵彈かんより一拳に如かずといふ事がある、いくら手腕のある奴でも、一人で事を仕様とするのが間違ひである、況んや共同策應を喜ぶ答の近代思想から押しても同樣ぢや。

處が由來藝術家は小天狗の出來損こないが多い、鼻ばかり高くして其能は伴はない連中だから、三人寄れば文珠の智慧處ぢやない、忽ち鼻が打合つて手を握ることさへ出來ないだらうが、それて居て面白い事には己れが〳〵といふ野心を抱いて居るかられ、畢竟何事も大きな事が出來ないよ、そこへ行くと昔の劍客はよく言ふたものだ「天狗は藝の行留り」とある、味ふべき一句ではないか、禪僧の一喝に「放下着」といふ事がある同じ事ぢあ吳越同舟に在るときの眞情が流露して始めて進路の開托が出來るのだらうがな、此處の悟りが開けんから今の中老輩は各々熱を吹きながら孤掌鳴らし難いのだらうて。

俺はつく〳〵思ふよ、今の中老輩が眞に斯界の前途を謀る考へがあるならば先づ以て各自の舊骸から脫け出て來なければ駄目だと確く信じて居る。

先づ試みに中老の一人一人を執へて建築界の前途は什うなるですかと聞いて見い、滿足な答を與へ得るものが果して何人あろうか俺は蓋し疑問だろうと思ふ。それからな幸に一言二言の答案があつたとしたら、それを總括して研究して見い上の部が現狀の憤慨に始まつて下の部に至つては必ず冷笑に終つて居るからよ。これから先の舞臺は斯うしなければならぬといふ立派な確答を授くる志士は皆無といふもよいと俺は洞察して居る。

これから働かなければならぬ御連中が此の仕末だから若い者が竹林の賢者になつて行くのは決して驚くべき結果でないよ、俺が前に「斯界は忙しさうに盲動して居る」なと言ふたのは此處ぢあよ。

九、羅針盤

第三の要件に移ろうか、中老輩が上に老人の世話女房として働く丈の覺悟があり、横に同志の糾合を策するの決心があるならは當然下の若い奴等についても大に考慮を加へればならぬ答である。處が今云ふ通り中老輩が井底の痴蛙を學んで居る間は到底若い奴等に適當の指導を授くる事は出來る譯がない。最も中には石田三成の故智を學んで若い奴等を糾合し

て事をやる丈の手腕のある奴もないではないが、大局から打算して爲すべき手段に據らないで當面の問題に若い奴等を利用しやうとする樣な狹い量見で居る樣だから、到底將來がないよ、自分等の當然爲なければならぬ任務を遂行しないで居て若い奴等を指導するんだから片腹痛い樣に思ふな。

若い奴等は決して中年輩とは同じ道行をやるに適しないよ、若し中老輩が當面の問題を解決するに苦しむにせよ、例によつて例の如く小さき城壁に據つて事を擧げ同輩の協應を策するの大道に出づるの快擧に想ひ到らないで、意氣地なく若い連中を使ふといふのは後輩に對する先輩の爲すべき道でないよ、若い奴等は畢竟若い衆だから前後の考慮を盡すものでない與へられた道を躍進する丈より藝がないからな線香花火の樣に一時に燃え立づて忽ち消えてしまふ樣な手合の多いからな、餘程指導をうまくやらないと中老輩の後繼者として、訓練するのに骨が折れるものだ、しかし決して羅針盤を與へんで放擲し置くことは勿論出來ない、何を爲るか解らんからな、さればといふて頭から燕雀何ぞ鴻鵠を知らんと押へ付けても亦却つて困る結果を見るだらうぜ。運命だ々々と觀念せしむるのも亦考へものだ稍もすれば竹林の賢者になるからな。

今の中老輩が若い者を理解するの道に甚だ迂遠であるのは心外に堪へんな若い奴等に共鳴する連中は若い奴等を煽動する樣な結果を齎らし、若い奴等を押へ付けんとする奴は若い奴等を萎縮せしめてしまふ。要するに今の中老輩は此の第三の要件を飽くまで自覺して飽くまで大局の打算から悠々迫らず自分等の後輩を指導するの任務がある思ふ。なにそんな注文を付けたとて、中々思ふ通りに行くものでない。そりあそうだ、尤もだよ。だがまあいゝは其内に俺の云つた事が解る時が來るよ。其時改めて亦大に語ろうぢやないか。

十、段階的の努力

俺は俺の云ふことを自分では實行して見せる元氣丈は持つて居る。なにそんなら今迄何をして居たのか、元より今迄は妄動組の一人さ此頃漸く悟つたから老婆心を引出して俺の知巳を求めんとするのであるのだ、要するに俺の主張は建築界全体がよく融和協同して斯界の大目的を樹立し、進んで大方針を定めて堅實なる發展を遂ぐるが爲めに縱には上下の連絡を圓滑にし、横には感情意志の疎通を謀り、斯界の各個が夫々の分擔を自覺して急がず迫らず、悠々亦着々吾々の前途を開拓して行かうではないかといふのだ、そりあ建築界の大目的はあるだろうよ、あるに相違ない、しかしながら各個の建築家が其大目的に向つて効果のある努力を敢行してゐるか什うかは俺には疑問であるのぢや、現に若い奴等は方向に迷つて居るではないか、行詰つた樣に見える今の建築界は什うしたら、頽瀾を既倒に支へる事が出來るだろうかといふ問題は之を若い奴等に與へるべき性質のものでない、少なくとも今の中老輩が眞面目に切實に考究し盡すべき責任があると俺は信じてゐる。

今の老人連は苦闘に苦闘を重ねて今日

迄の吾々の地盤を造つてくれたのである元より後輩から見れば決して難有い地盤ではないかもしれんさ、先輩も亦自分等の功勞を誇つて傷ふべき地盤ではないかもしれんよ、乍然後輩が鼻歌唱ふて頂戴すべき程のものでない事丈は明かである多大なる感謝を捧げて難有く受領するのが至當である、夫れと同時に更らに自分等の後輩に讓り渡す時には元の儘で渡す譯には行くまいぜ、少なくとも老人連の仕上げた地盤の倍以上のものにして殘さなければ甚だ申譯のない次第であるに相違あるまい、若し今の中老輩が老年輩の成就した丈の仕事以上の活動が出來ずに御茶を濁すことがあつたら、今の若い奴等はよろしく彼等の成し得ない處を成就して鼻を開かさす丈の活動をやられはならないではないか。

畢竟斯界の前途を開托するといふのは大勢で段階を上る樣なものぢや、上の方に居る奴がぐず〳〵して居たら下の方の奴はいつ迄立つても登ることが出來まいがな、そこであんまり一つ所に迷つて居ると梯子段の途中で悶着が初まつてくるよ、氣の早い奴は無理をしても上に登ろうとする、うろ〳〵する奴は途中から蹴下ろされるに相違ない、しかし要するに大勢が一樣に目的の二階に登るには先錄の奴から飛び上らなければ仕末が悪いよ、後の奴等は後から尻押をして上の奴等を早く登らすか、さもなくば上の奴が氣をきかして下の奴等を早く引き上げるかより外はないではないか。

處でよろしいか先の見になるのは上の奴等だ、一番承知してゐる筈だ、中段に居る連中は稍見へる處に居るの便宜がある下の奴等は何にも見へんのだからな、中段に居る奴等が上と下との連絡を謀るに骨を折つてくれんでは、畢竟梯子登りの藝當は首尾よく御手拍子御喝采を博する譯には到底行くものでないよ、ハヽヽヽハツクシヨイ！〆つた！あんまり喋り過ぎて風を曳いたかも知れない。

◆二首の古歌◆

細川忠興諫事嚴正に過ぐると、第父の幽齋に告ぐる者ありければ、忠興の長臣を呼びて古歌二首書きて與へらる。

逢阪の關の嵐の寒けれど
　ゆくへ知られば
　　わびつゝぞ寢る

眞弦草つのくみわたる
　澤邊には繫がぬ駒も
　　放れざりけり

（常山紀談　卷の十八）



時報

▣議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答

議院建築局

問　建物ハ東方ニ面セシムト雖モ東方ハ勾配急ナルヲ以テ帝室用車寄ハ西方ニ設ケ兩院議員車寄ハ西方或ハ北方ニ設クルモ差支オキヤ

答　規程第六條ニ依リ建物ハ東方ヲ正面トシ帝室用車寄及貴衆兩院玄關ハ正面ニ設クルヲ要ス

問　議員脫帽室ハ一室ニ集合セシムルモ差支ナキヤ

答　建坪數ニ增加ヲ來サザレバ差支ナシ

問　議員用大談話室ヲ設クルモ宜敷候ヤ

答　建坪數ニ增加ヲ來タサザレバ差支ナシ

問　帝室用大階段ハ大廣間ニ設クルモ差支無之ヤ

答　帝室用大階段ハ帝室專用トシ一般ノ使用ニ充テズ且ツ其上部ニ通路ヲ設クルヲ許サザルヲ以テ之ニ適應スレバ差支ナシ

問　第六條第一項本館ハ三層ニシテ三千六百坪（主階）ニ設クルモ差支無之候ヤ

内外トスノ意味ハ三層以上ノ部分ノ坪數ノミヲ示スモノニシテ車寄其他一階ニ於ケル單層ノ部分等ヲ含マヌモノナリヤ

答　建坪三千六百坪内外トハ層數ニ關セズ本館全体ノ建坪ヲ謂フ

問　二百分ノ一斷面圖ニハ立面圖同樣陰影ヲ施シテ差支ヘナキヤ否ヤ

答　意匠ヲ明瞭ナラシムル爲メ淡墨ヲ以テ陰影ヲ施スハ差支ナシ

問　總理大臣其ノ他内閣員政府委員ノ出入ハ何レノ入口ヲ以テスルモノナリヤ

答　各自便宜ノ入口ヨリ出入スルヲ以テ特設スルノ必要ナシ

問　車馬置供待所及汽罐室ヲ本館外ニ設置スルトセバ何レモ平面及立面圖ヲ要スルモノナリヤ或ハ單ニ配置圖中ニ其ノ位置ヲ示セバ足レリヤ否ヤ

答　配置圖中ニ其位置ヲ示セバ足レリ

問　帝室玄關御車寄馬車出入口ノ内法ハ四間以上ト有之候ハ平面略圖（第五號ノ一内）帝室玄關ト記載致シ有ル所ニ御座候ヤ而シテ帝室御馬車ハ此處迄入レ給フ御見込ニ御座候ヤ又其高サト有ルハ帝室玄關ノ床上端ヨリ天井下端迄ノ事ニ御座候カ

答　所要室數及坪數表中貴衆兩院共通ノ部二階（主階）ノ帝室玄關前ニ設ケラルベキ御車寄出入口ノ内法寸法ナリ從テ其高サハ同出入口ノ内法高サトス且御馬車ハ玄關内ニ入ルコトナシ

問　勾配ハ二十分ノ一トアルハ何寸勾配ヲ標準トセルモノナルヤ

答　二十尺ニ對シ一尺ノ割合即チ五分勾配ヲ云フ

問　六頭儀裝馬車ノ巾約何尺程ニ候ヤ

答　六頭儀馬車ノ巾ハ約六尺三寸五分ナリ

問　間仕切壁ニテ今後取拂ヒ又ハ取廣ゲ見込ア ル壁ハ木摺漆喰ト致シテモ宜シキヤ

答　簡易ナル防火構造ノ間仕切壁トス

■建築業協會と建築材料及工手間調査

歐洲大戰亂も漸く終局に近きたれども、暴騰し盡したる諸物價は平和と共に直ちに暴落するとも思はれず、休戰條約締結の報ありて、却つて上昇するの傾向さへあり、建築界に於ける各種工手間の如き近時更らに一躍せるが如し。

建築業協會に於ては輓近の諸材料暴騰の經過について甚大の注意を拂ひつゝありしが、其關西支部は早く阪神間の建築材料及工手間の調査に着手し其報告書を本會へ寄贈されたり。次いで建築業協會よりも略同樣の調査種類を本會宛寄贈せられたるは本會の大いに感謝する處なり依つて本會誌上に之を發表するの許可を得、前者は之を圖表に改めたるものを附加し後者は次號に紹介す。

勞銀及主要建築材料價格指數表

（自大正三年九月至大正七年九月）

建築業協會關西支部調査

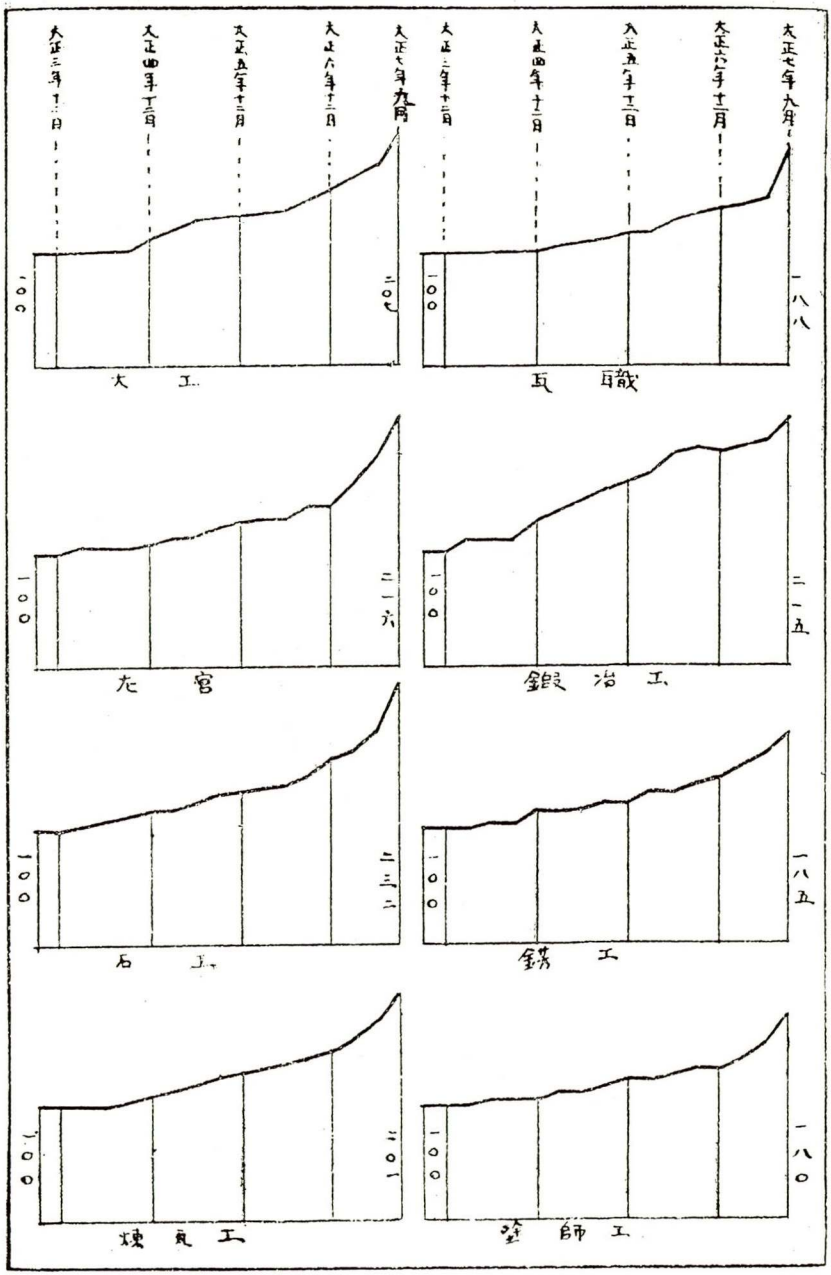
名稱	大正三年	大正四年			大正五年			大正六年			大正七年		
	九月十二月	三月	六月	九月十二月	三月	六月	九月十二月	三月	六月	九月十二月	三月	六月	九月
大工	一〇〇	一〇一	一〇三	一〇八 一一七	一一三	一一三	一一三 一一二	一一六	一一一	一一四 一一五	一一六	一一九	一二〇七
左官	一〇〇	一〇三	一〇五	一一一	一一四	一一六	一一三 一一八	一一三	一一八	一一四 一一五	一一三	一一六	一一八四
石工	一〇〇	一〇三	一〇七	一一〇 一一六	一一八	一一三	一一九 一一八	一一三	一一五	一一四 一一三	一一六	一一三	一一二一
煉瓦工	一〇〇	一〇一	一〇六	一一二 一一三	一一四	一一〇	一一六 一一八	一一〇	一一〇	一一〇 一一六	一一六	一一三	一一〇一
瓦職	一〇〇	一〇一	一〇一	一〇三 一一七	一〇五	一〇八	一一二 一一七	一一七	一一五	一一三 一一六	一一九	一一五	一一八八

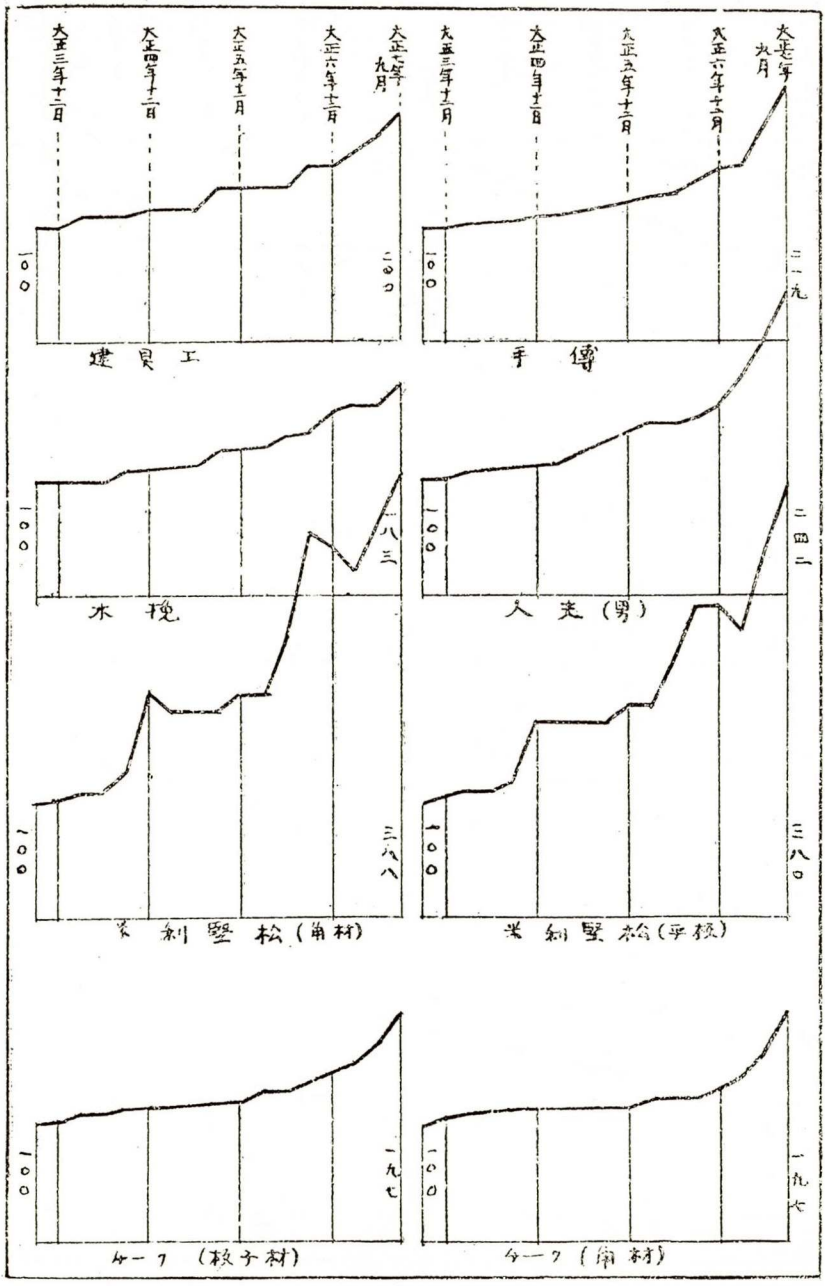
| | | |

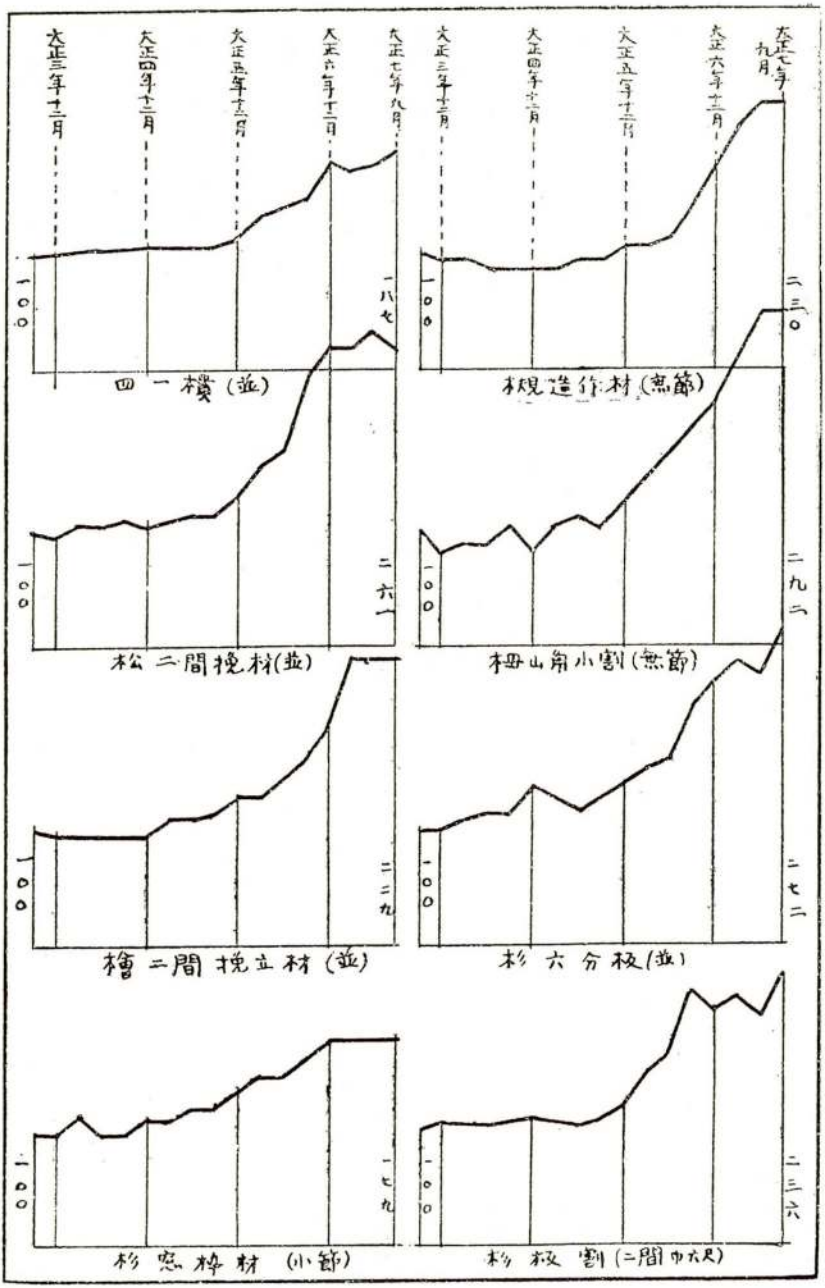
| | | |

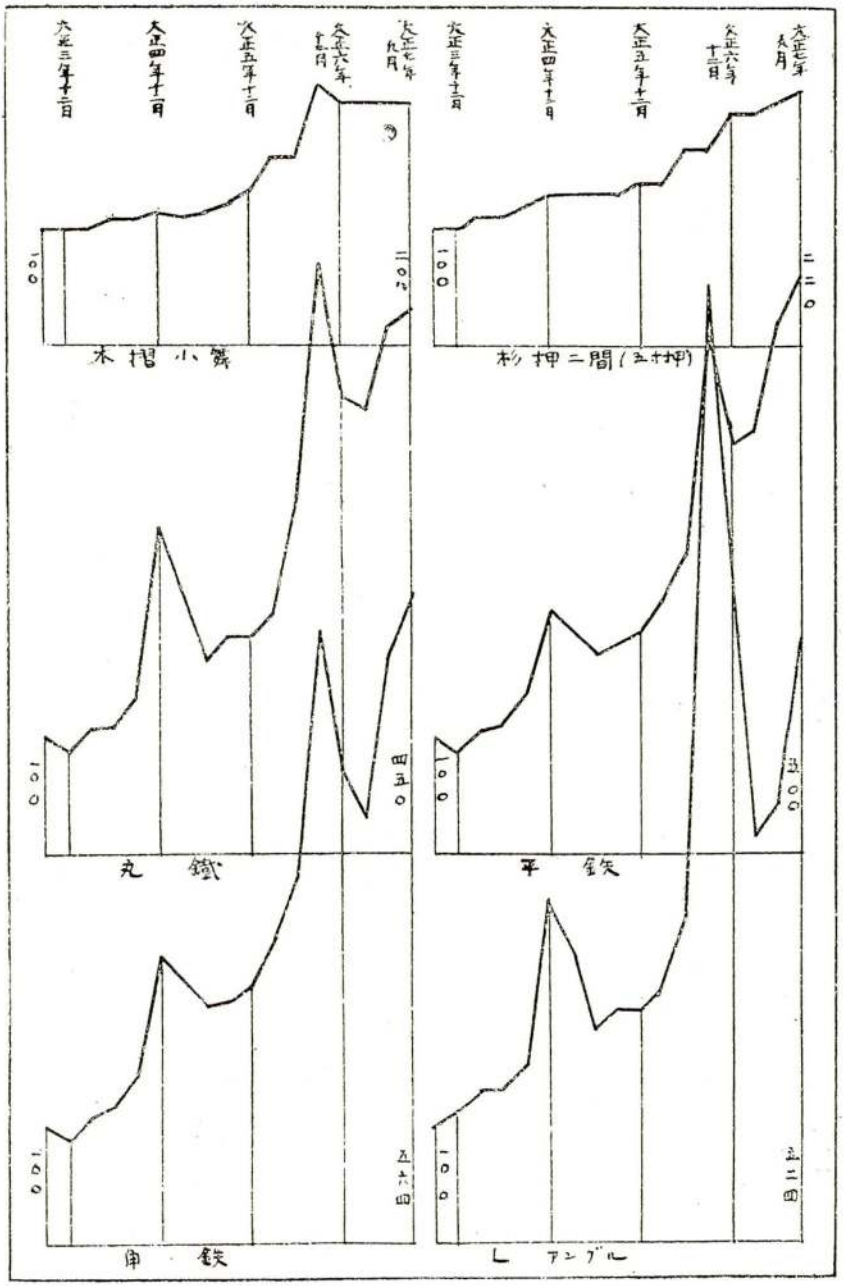
| | | |

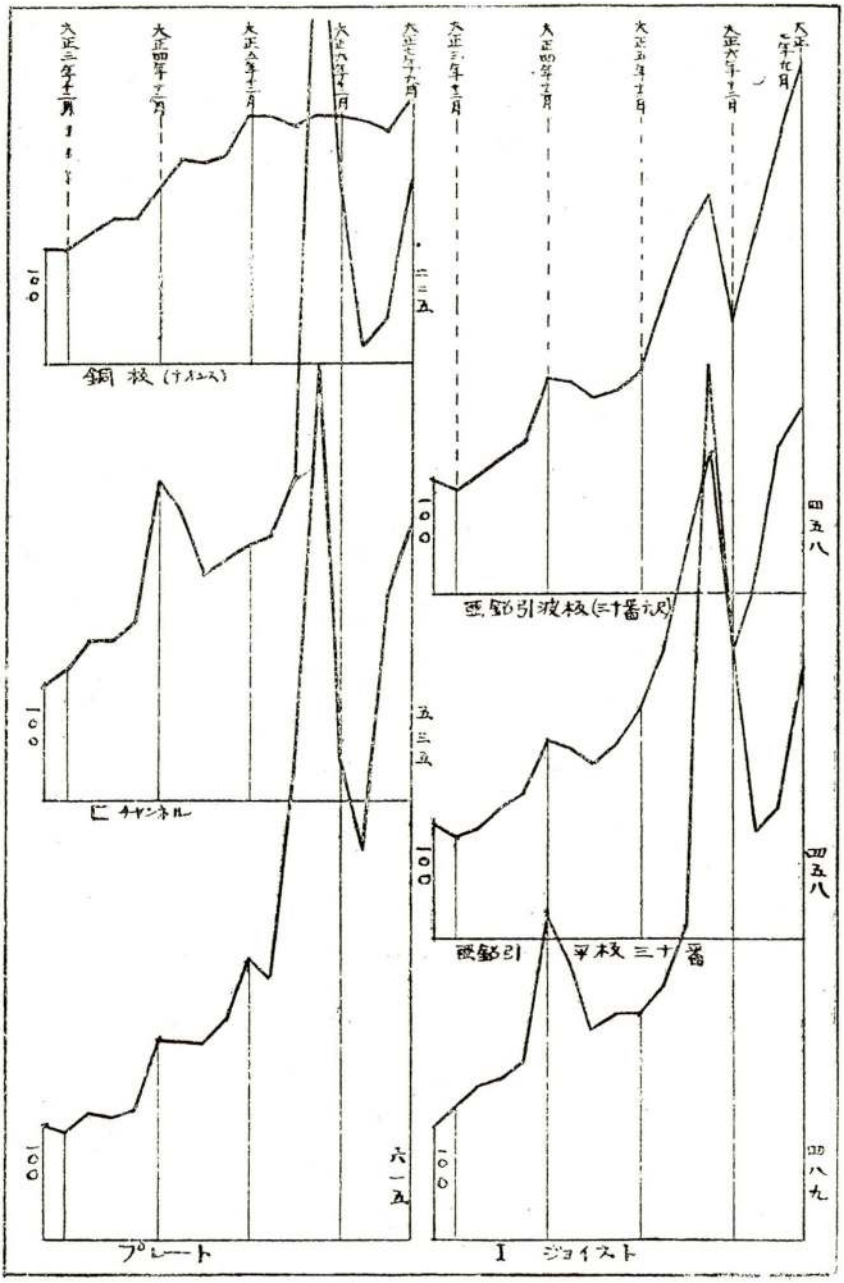
第一號表

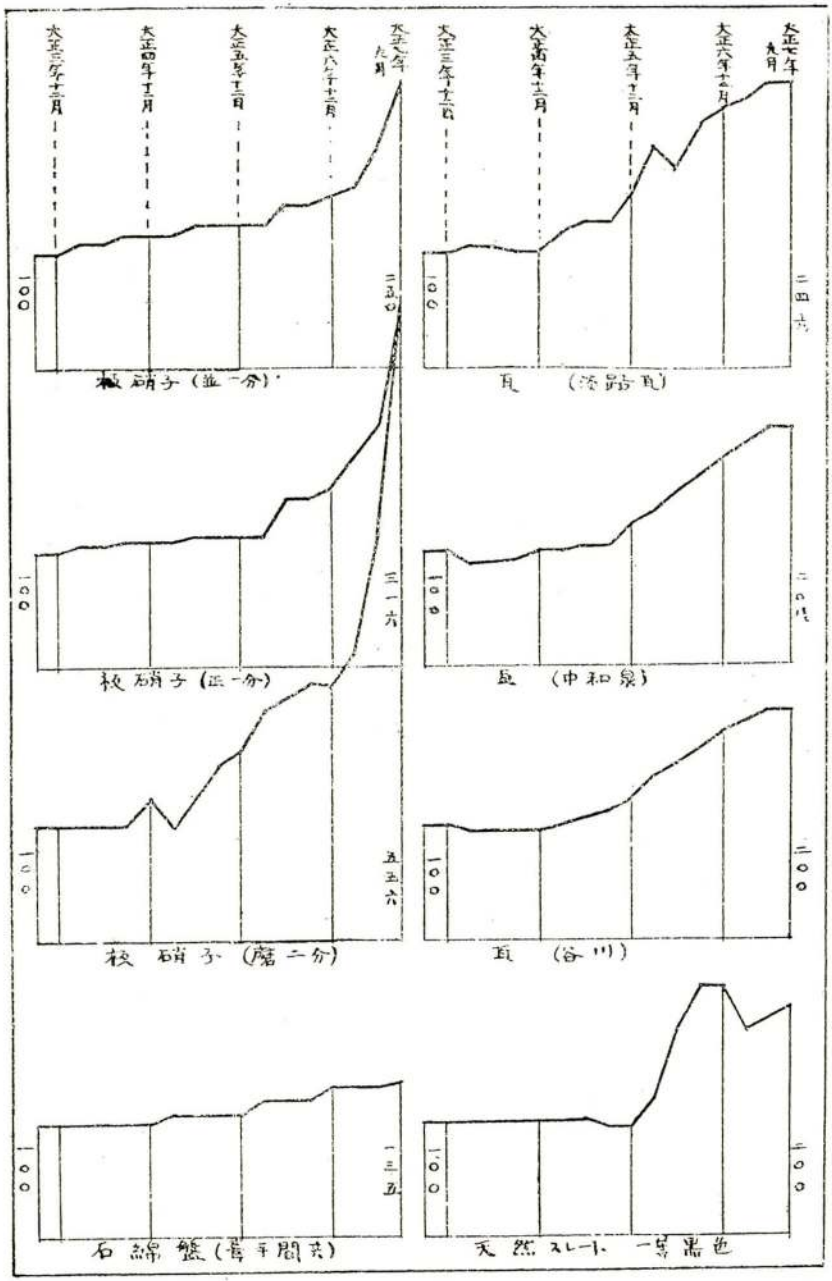

大正二年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
二〇七
大工
大正二年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
一八八
瓦職
一〇〇
二一六
左官
一〇〇
二一五
鍛冶工
一〇〇
二三二
石工
一〇〇
一八五
錺工
一〇〇
二〇一
煉瓦工
一〇〇
一八〇
塗師工

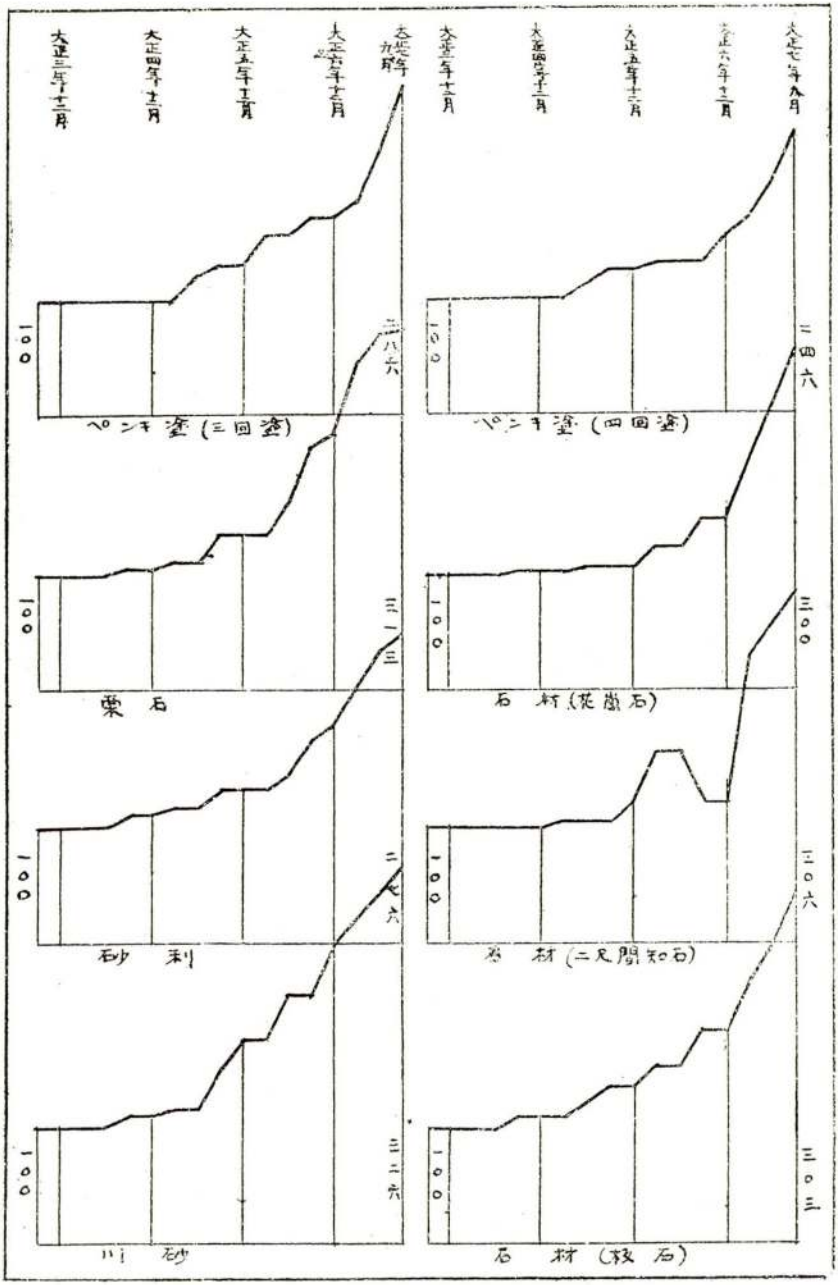

大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
一〇〇
一〇〇


大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
一八七
四一欅（並）
大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
二三〇
杣規造竹材（無節）
一〇〇
二六一
松二間挽材（並）
一〇〇
二九二
杣山角小割（無節）
一〇〇
二二九
檜二間挽立材（並）
一〇〇
二七二
杉六分板（並）
一〇〇
一七九
杉窓枠材（小節）
一〇〇
二三六
杉板割（二間巾六尺）

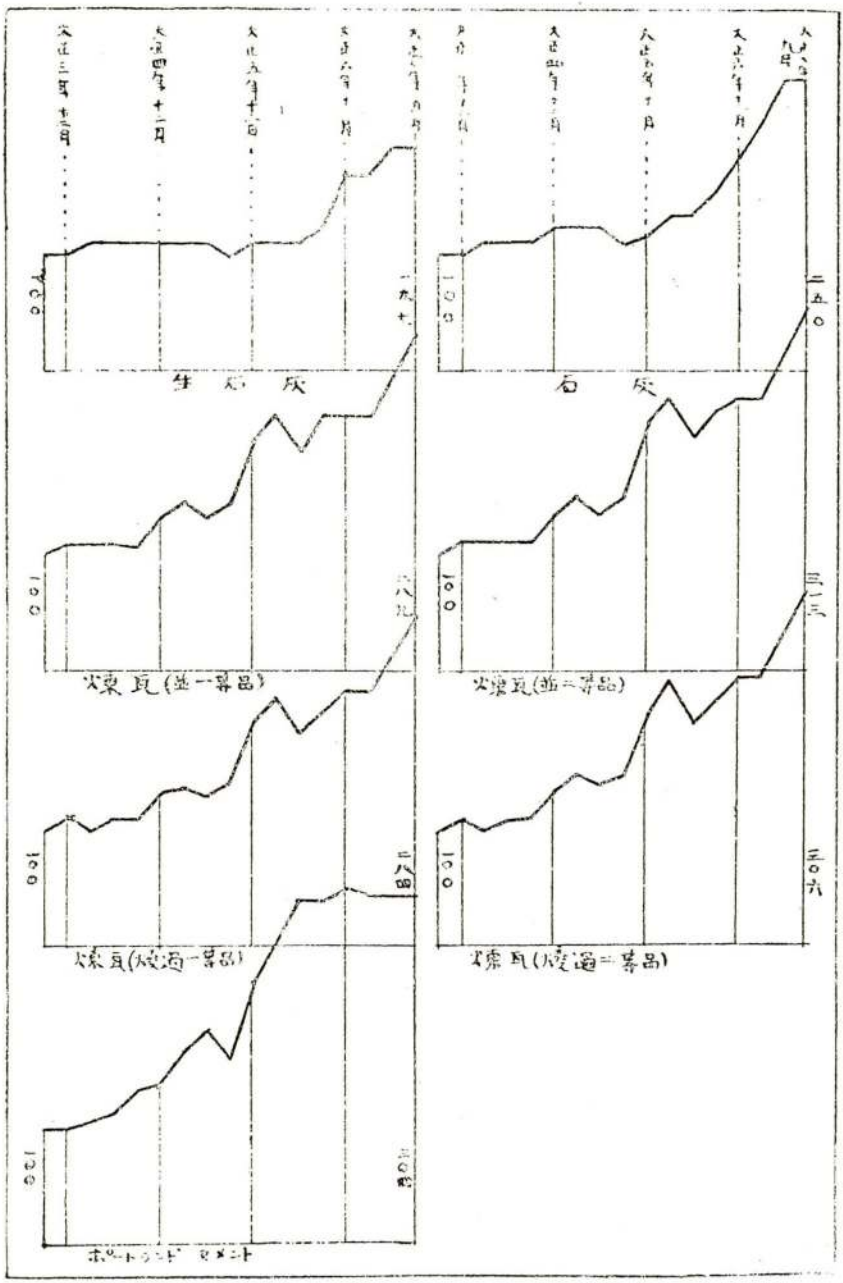

大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
100
二〇七
木摺小鏡
大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年六月
100
二一〇
杉押二間(五寸押)
100
四五〇
丸鐵
100
三〇〇
平鐵
100
五六四
甲鐵
100
五二四
L アングル


大正三年十二月
大正四年七月
大正五年十二月
大正六年十月
大正七年七月
大正八年七月
100
鋼板（スチール）
三三五
チャンネル
五三五
プレート
六一五
亜鉛引波板（三十番六尺）
四五八
亜鉛引平板三十番
四五八
I ジョイスト
四八九


大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
二五〇
角硝子（並一分）
大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
一〇〇
二四六
瓦（洋銅瓦）
一〇〇
三一六
板硝子（並一分）
一〇〇
二〇八
瓦（中和泉）
一〇〇
五五六
板硝子（厚二分）
一〇〇
二〇〇
瓦（谷川）
一〇〇
一三五
石綿盤（普通品）
一〇〇
二〇〇
天然スレート一号黒色


大正三年十二月
大正四年十二月
大正五年十二月
大正六年十二月
大正七年九月
100
二八六
ペンキ塗（三回塗）
100
二四六
ペンキ塗（四回塗）
100
三一三
栗石
100
三〇〇
石材（花崗石）
100
二七六
砂利
100
三〇六
石材（二尺間知石）
100
三二六
川砂
100
三〇三
石材（敷石）

第八號表





會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第十二號は十月下旬之を刊行し、直ちに各會員各賛助員宛發送したり。

一、尙各府縣知事有力者、各種學會協會及各新聞社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、本會雜誌第一輯は第十四號迄とし、來年正月號を第二輯第一號となすことに決定せり。依つて本誌表紙圖案懸賞募集を前號に於て發表し、其〳〵切期日を來る十二月廿五日とせり。

交換雜誌

建築雜誌　十月號（建築學會）
建築世界　十月號（建築世界社）
住宅　十月號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌第十號（鐵道協會）
工業之友　十月號（工手學校）
內外土木建築時報十月號（內外土木建築時報社）
工業之大日本第十一號（工業之日本社）

寄贈圖書雜誌及新聞紙

通俗衛生
木材新聞
ペイント商報
造船鐵工時報
工業評論
オートモビル（第三號）
早瀨塗料商報

細則一部變更

一、第十六回例會及通信決議により細則一部を變更すること左の如し。

イ、第十六條「例會ノ議決ハ會員數（地方ニ在ルモノヲ除ク）ノ五分ノ二以上」とあるを、「例會ノ議決ハ會員數ノ六分ノ一以上」に變更す。

ロ、第二十一條「會則變更ハ會員數（地方ニ在ルモノヲ除ク）」とあるを「會則變更ハ會員數」と變更す。

新入會員

一、左の諸氏は第十六回例會及通信決議により會員として入會の承諾を得たり

松本一太郎　河合貞一郎
金子巴　南省吾

一、左の諸氏は第十七回例會の決議により、會員として入會の承諾を得たり。

松井貴太郎　能村　知二
矢島　一雄　花田孝二郎

一、左の諸氏は今回普通賛助員たらんことを申込まれたるにより、理事會の決議に基き入會を承諾せり。

内浦　寅吉　伴　武夫
久樹　麻一　石坂平三郎
鎭西　善平

會員移動

一、會員葛野壯一郎君は大阪府技師を辭任せられ、大阪工務所長として在阪せらるゝことゝなれり。

一、會員矢島一雄君は今回秋田縣技師を辭任せられ、大阪府技師として來阪せられたり。

一、會員松井貴太郎君は今回横河工務所大阪出張所主任として來阪せられたり

一、會員能村知二君は今回東洋紡績株式會社技師長として來阪せられたり。

一、會員中村鎭君は社命により東京本店詰となり今回東上せられたり。

一、會員井尻長雄君は今回工業之日本社建築部主任に聘せられたり。

普通賛助員死亡

一、普通賛助員、濱田茂雄君は去る十一月廿三日死去せられたる由、愛悼の至りに堪へず本會より弔詞を發送したり

會合理事會

日時　大正七年十一月六日正午―三時
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、池田、松本、瀬戸、波江宗、葛野。

記事

一、來月上旬第一回大會を擧行するにつき意見を交換せり。

一、當日の講演者は左の如く豫定せり。

家相論　葛野壯一郎氏
大阪市區改正に就て　片岡　安氏
未定　（建築學會に依頼すること）
未定　直木倫太郎氏
未定　關　一氏

一、大會準備の諸件については第六部委員會の調査に一任すること。

一、豫算事項については理事會に於て研究すること。

一、第六部委員會の要求に應じて更らに理事會を招集すること。

第六部委員會

日時　大正七年十一月九日午後五時―八時。
會場　本會事務所。
出席　宗、松本、須川、吉井、中村、波江。

理事

一、大會準備事項を審議すること左の如し。

イ、期日は大阪市商工課に打合の結果十二月七日（土曜日）及十二月一日（日曜日）共先約あるを以て十二月五日（木曜日）とするの止むなきこと。

ロ、招待者に對する案内狀（二案）の件

ハ、會員章、花章及記念品の件。

ニ、廣告を市内七ケ所に配布し、各新聞紙へも掲載すること。

ホ、速記は來賓講演に對し附すること

ヘ、招待者の範圍、及聽講券の配布。

ト、經費豫算について。

特別理事會

日時　大正七年十一月十三日正午――四時。
會場　大阪倶樂部。

出席　野村、松本、瀬戸、宗、波江。

記事

一、大會準備事項を決定すること左の如し。

イ、期日は十二月五日（木曜日）とすること。

ロ、會場は大阪市中央公會堂とすること。

ハ、通俗講演會は午後一時半より開會

ニ、晩餐會を午後六時より開會。

ホ、招待者の範圍につき詮衡。

ヘ、會員の役割につき詮衡。

ト、經費豫算案の審議。

チ、寄附金に關するの件。

一、更らに第十七回例會に提出すべき議事につき意見を交換し、大會準備の報告及經費豫算の決議を謀ることに一決せり。

第十七回例會

日時　大正七年十一月十八日午後四時半ー七時。

會場　中央電氣倶樂部。

出席　計三十六名。

片岡、波江、池田實、瀬戸、今林小林悉、木子、土居原、宮飼、伊藤正、河合清、大倉、宗、葛野、小笠原、佐藤四、内藤太、矢島、須川、谷本、吉井、田中綱、宮本柳下、辰野、井上、糸崎、上野、山本、高橋、本多、清水、舟橋、菱田、濱野、鷲尾。

記事

一、今回は前回の決議に基き正四時半開會片岡理事長座長席につき出席者參集も早かりしを以て、新入會員詮衡會を先きにし新入會員四名の承諾を決議することを得たり。されば當夜出席せられたる矢島一雄氏は直ちに次の會議に列せられたり。

一、地方會員濱野三郎氏は用務を帶び滯阪中なりしを以て當夜出席せられたり

一、本會第一回大會準備に對する事項につき宗第六部委員長登壇（午後五時半）第六部委員會に於ける協議の大様を説明せられたり。

一、依つて豫算に關する件につき議事を開き、討議數刻の後左の如く決定せり

イ、會員（地方を除く）は出席の有無に係らず金貳圓を大會費として據出すること。

ロ、本協會員にして當日出席するものは晩餐會費として金參圓を提出すること。

ハ、大會費補助として寄附金を募集すること。

一、議事終了後　各自談話を交換し、隨時散會せり。

一、午後七時理事會を開き、尚二三の件につき意見を交換し、熟議する處ありたり。

◆編輯だより◆

▲世界平和の福音到來の砌、本誌もいつか一周年を迎つて茲に第十三號を發刊仕候、第一輯としては來月號を以て打止めと致すべく、改暦と共に第二輯を發刊する事に御座候。

▲本誌將來の任務は益重大と相成るべく、愈堅實なる地歩を領有して活躍仕度候。所詮順風に帆を擧げ、中流に舟を行る迄は、船夫梶取の努力に據るの外なき事に御座候。

▲本誌所載「紐育雜感」は早稻田大學教授内藤多仲氏の特に寄稿せられたるものに有之候、深く同氏の御厚情を奉鳴謝候。

▲本誌第二輯表紙圖案懸賞規定は成るべく作者の意匠を拘束せざる主旨の下に作成せられたるものに有之候へば本會の主義目的の有る處を御洞察の上奮つて應募あらんことを希望仕候。

▲本誌へ御投稿御希望の諸彦は御申越次第本誌原稿用紙發送仕るべく候間御承知相成度候。

▲本誌購讀御希望の諸彦は、本會事務所宛、御申越相成度又購讀料金御發送の節は振替口座大阪三九九七五番宛御拂込相成度此段申添候。

巴里市衛生規則



巴里市衛生規則

千九百〇二年二月十五日並ニ千九百三年四月七日法律實施ニ付キ巴里市ノ衛生規則ヲ定メタル千九百〇四年六月廿二日附「ラセーヌ」縣知事ノ達

「ラ、セーヌ」縣知事ハ公共ノ衛生ニ關スル千九百二〇年二月十五日並ニ千九百〇三年四月七日附法律及ビ千九百〇三年三月三十日ノ會議ニ於テ巴里市會ガ發表シタル意見並ニ「ラ、セーヌ」衛生會ノ意見ニ基キ左ノ通リ達スルモノナリ。

第壹節　衛生法

第壹章　住宅ノ衛生法ト相關聯セル公道ノ衛生法

第壹條　時ニ許可ヲ得タル場合ヲ除キ公道（町、廣場、埠頭、堤等）ノ如何ナル場所ニ於テモ時間及ビ其性質ノ如何ヲ問ハズ汚穢物ヲ溜置スルコトヲ禁ズ。又前記ノ場所ニ家屋ノ掃除ヨリ來ル塵芥ヲ放棄シ又ハ自四月一日至九月二十日期間ニアリテハ午前八時以後自十月一日至三月三十一日期間ニアリテハ午前九時以後ニ於テ左記ノ場所ニ於テ敷物、窓掛、布類ノ塵ヲ打拂フ事ヲ得ズ。

第貳條　下水渠ヲ備ヘタル公道ノ上ニ家庭用若クハ其他ニ使用シタル汚水ヲ棄ツベカラズ家屋ノ前面、門、玄關、店ノ前面等ヲ洗濯スル爲メニ使用シタル水ハ此ノ限リニアラズ、此等ノ洗濯ニ用ヒタル汚水ハ直チニ之ヲ道路ノ溝ニ掃キ入ルベキモノトス、此種ノ洗濯ヲ行フニ當リ一旦他ニ使用シタル汚水ヲ用ユル事ヲ得ザルモノトス、

公道若クハ其隣接地ニ於テ實行スル工事ノ請負人ハ公道ニ於ケル其仕事場ノ附近及ビ其工事ノ爲メニ汚レタル總テノ場所ヲ清潔ニ爲スベキモノトス又彼等ハ溝ノ流通ヲ阻害スベカラズ。

第參條　土地ノ採掘ヨリ生ズル土及ビ塵芥ハ必要ト認ムルトキハ之レニ消毒ヲ施シ必ラズ芥捨場ニ運搬スベキモノトス

運搬ハ總テ公道ヲ汚スコトナク又通行人ノ妨害トナラザル條件ノ下ニ之レヲ行フベキモノトス、又積込、積卸モ同一條件ノ下ニ之レヲ行フベキモノトス

第四條　住居ニ供スル家屋ノ持主ハ毎朝屋外ナラバ人道ノ上、屋内ナラバ入口ノ近傍ニ於ケル顯ル見易ク且外ヨリ達

スルヿヲ得ル場所ニ總テノ借家人若ク
ハ居住人ノ家庭ヨリ生ズル塵芥ヲ容ル
ヽニ足ル容積ヲ有スル一個又ハ數個ノ
共同芥箱ヲ備ヘ置クベキモノトス。

其家主ガ芥取捨方ノ契約ヲ爲シタル
私道内ニ存在スル家屋モ又芥取車ガ其
私道ニ入込ム事能ハザル場合ヲ除キ前
同樣ノ設備ヲ爲スベキモノトス若シ前
記ノ二條件ヲ欠キタル場合ニ於テハ私
道ト公道ノ交接點ニ芥箱ヲ置クモノト
ス。

芥箱ハ夏期（自四月二日至九月三十
日）ニ於テハ午前六時半ニ開始シ同八
時半ニ了リ冬期（自十月一日至三月三
十一日）ニ於テハ午前七時ニ開始シ同
九時ニ了ルベキ塵芥取捨ノ既定時刻ヨ
リ少クモ一時間前ニ之レヲ出シ置クベ
キモノトス。

芥箱ハ芥取車ノ通過後三十分以内ニ
屋内ニ取入ルベキモノトス。

第五條 共同芥箱ハ其形体及ビ構造ノ如
何ニ係ハラズ左ノ條件ヲ具備スル事ヲ
要ス。

各芥箱ノ容積ハ最大限百「リツトル」
其重量ハ空箱ニテ十五「キログラム」以
内トス其形圓形ナルモノハ直徑五十五
「センチメートル」以内トス直角形又ハ
楕圓形ナルトキハ幅五十「サンチメー
トル」長サ八十「サンチメートル」以
内トス高サハ其形体ノ如何ニ係ハラズ
長サ又ハ幅ノ寸法ノ最少ナルモノヲ超
ユル事ヲ得ザルモノトス。

芥箱ハ屋内ニ於テハ蓋ヲ備ヘ之ヲ密
閉シ置クモノトス又其上部ノ両側ニ手
ヲ置ク事ヲ要ス又芥箱ハ亞鉛引トナス
カ或ハ「ペンキ」塗リトナシ其外面ノ
一側ニ明瞭ナル文字ニテ町名及番地ヲ
明記スル事ヲ要ス芥箱ハ明箱トナリタ
ル時ハ臭氣ヲ發セザル樣其内部及ビ外
部ヲ常ニ能ク手入シ清潔ニ保存スベキ
モノトス。

共同芥箱ハ家主ノ注意ニ依リ午後九
時ヨリ芥取捨ノ時刻迄借家人ノ使用ニ
供ヘ置クベキモノトス。

第六條 居住者ハ其家屋ニ備ヘ附アル共
同芥箱以外ニ家庭ノ塵芥汚物ヲ棄ツベ
カラズ。

共同芥箱ナキ場合又ハ共同芥箱アル
モ一時不充分ナル時ハ共同芥箱ヲ置ク
ベキ場所又ハ共同芥箱ノ傍ラニ私用ノ
芥箱ヲ出シ置クベキモノトス。

第七條 屑捨又ハ公道上ニ塵芥汚物ヲ取
散ラスベカラズ然レドモ布ヲ敷キ其上
ニテ屑ヲ選取ル事ヲ得ベシ選取ヲ了リ
タル時ハ直チニ再ビ塵芥ヲ芥箱ニ入レ
置ク事ヲ要ス。

第八條 左ノ事項ハ之ヲ嚴禁ス、

一、公道上ニ設ケタル下水渠ノ口及ビ
検査口ニ依リテ下水内ニ液体又ハ固
形体ノ不淨物ヲ捨ツル事。

二、下水内ニ固形物、家庭ノ塵芥、液
体又ハ固形体ノ不用物及ビ或ル材料
ニシテ危險ナル水蒸氣若クハ燒燃ス
ベキ瓦斯ヲ發生スベキモノ等ヲ投入
スル事。

三、下水ニ達スル前三十度以上ノ温度
ヲ保テル温湯ヲ流ス事。

四、酸水ヲ流ス事此種ノ水ハ下水ニ流
シ込ムニ先ダチ中和セシムル事ヲ要ス

第貳章　私道ノ衞生法

第一項　總則　車道及ビ人道

第九條　私道ニシテ其極端ニ閉塞セルモノト然ラザルモノトヲ問ハズ數軒ノ住家ニ共通ノ入口トナルモノハ左ノ諸條ニ示シタル規定ニ準據スルニアラザレバ之ヲ設クル事ヲ得ザルモノトス。

第拾條　其車道及ビ人道ハ公道ノ車道及ビ人道ト同一若クハ同等ノ材料ヲ用ヒ公道ト同一ノ斷面圖ニ依リ之ヲ設ケ同一ノ條件ヲ充タスベキモノトス。

人道ト車道トノ幅ノ割合ハ千八百四十六年四月十五日附縣廳ノ達ニ挿入シアル表ニ依リ總道幅ニ準シ之ヲ定ムルモノトス。

第拾壹條　總テ不潔物ノ堆積ヲ防止スル爲メ私道ニ充分ナル點燈ヲ爲スベキモノトス。

第拾貳條　道路ノ表面ハ常ニ手入ヲナシ清潔ニ保存スベキモノトス、又毎日車道及ビ人道ヲ掃除シ且ツ濟ヲ洗滌スベシ。

家主ハ暑熱ノ期間毎日少クモ午後一回宛私道ニ撒水セシムベキモノトス、既ニ使用シタル汚水ハ之レヲ撒水ニ用ユベカラズ。

第拾參條　家主ハ私道ノ全部ニ生ズル結氷ヲ破壞セシムベキモノトス、取除キタル結氷ハ車道ノ側ニ於テ溝ニ沿ヒ之ヲ堆積スルモノトス又雪搖ヲ爲サシムベキモノトス。

私道ニ沿フテ設ケアル溝ノ流域ハ排水ヲ自由ナラシムル爲メ少クモ五十「センチメートル」ノ幅トナスベキモノトス。

下水ノ檢査口洗滌水管及ビ下水ノ口等ノ栓上ニ氷雪ヲ置キ又ハ氷結セル雪及ビ結水ヲ下水内ニ押シ込ム事ヲ禁ズ

公道ノ地面ニ私道及ビ私道ニ瀕セル家屋ヨリ出ズル氷又ハ雪ヲ置ク事ヲ得ズ。

一個人又ハ巴里市ノ所有ニ屬スル私道ニ沿フテ位置ヲ占ムル地所ハ總テ皆外部ヨリ其地所内ニ入リ込ミ汚物ヲ棄ツル事ヲ得ザル樣閉鎖スベキモノトス

私道ニ沿ヘル地所内ニ馬糞、塵物、糞尿又ハ汚物等ヲ溜置スル事ヲ嚴禁ス

第二項

水道、雨水、汚水、及ビ排泄物ノ排除

第拾六條　住家ヲ有セル私道ハ總テ其關係セル家主ノ負擔ニテ必要ナル長サヲ有スル飲用水道ト洗滌用並ニ工業用水道ヲ備フベキモノトス。

第拾七條　地下排水渠ヲ有スル道路ニ出口ヲ有スル私道ニアリテハ家屋ノ雨水及ビ汚水ノ上蓋ヲ備ヘザル溝ニ依リテ排除スル事ヲ得ザルモノトス絶對ニ不可能ナル場合ヲ除キ此等ノ水ヲ受クルニ適當ナル漏水ノ恐レナキ地下溝ヲ必要トスル長サニ敷設スベキモノトス此地下溝ハ充分ナル、迫水ヲ流シ洗滌スル事ヲ要ス。

第拾八條　私道ニ沿ヘル家屋ハ總テ皆第三章第八項ニ定メタル條件ニ依リ設ケタル支溝ニヨリテ此地下溝ニ連絡スベキモノトス。

第參章　公道若クハ私道ニ於ケル住家ノ衞生

第一項　建築ノ認可

第拾九條　豫メ知事ノ認可ヲ經ルニアラザレバ家屋ノ新築又ハ模樣替ヘヲ爲ス事ヲ得ズ。

第貳拾條　家屋ノ新築又ハ模様替ヲ爲サントスル時ハ所轄官廳ニ全工事ノ寸法ヲ示シタル圖面（平面、裁面、竪面）ニ署名調印シタルモノヲ添ヘ願出ツベキモノトス。

諸圖面ハ二通提供シ又衛生規則ニ依リテ規定セラレタル衛生ニ關スル一切ノ設備ヲ明示スベキモノトス所轄官廳ハ願書及ビ附屬書類ニ對シ家主ニ受領證ヲ交附スベシ。

受領證ニ依リ證明セラレタル受付ノ日附ヨリ廿日以内ニ願書ニ添ヘ差出シタル圖面ニ從ヒ工事認可狀ヲ家主ニ下付スルモノトス。

前記廿日間ノ猶豫期日ヲ經過スルモ認可狀ノ下付ヲ受ケザル家主ハ此衛生規則ニ違犯セザル範圍内ニテ工事ヲ開始スル事ヲ得。

第二項　住居ニ充ツル部屋　總則

第貳拾壹條　千九百〇二年八月十三日附告示ノ規定ハ本章、第貳、第參、第四項ニ挿入セル補則ニ抵觸セザル限リ其道端ノ閉塞セルモノト然ラザルモノトヲ問ハズ諸種ノ公道及ビ私道ニ之ヲ適用スルモノトス。

第貳拾貳條　私道ニ面スル晝間ノ住居又ハ夜間ノ住居若クハ料理場ニ充ツル室ニ於ケル「ヴユー、デイレクト」ノ最少限（「ヴユー、デイレクト」ノ最少限ハ住居スル事ヲ得ル室ノ壁ノ外面トハ其反對ノ側ニアル壁ノ表面トノ間ニ含マレタル距離ヲ意味ス此距離ハ窓ノ中軸ニ立ツル垂直線ニ付水平ニ量ルモノナリ）ハ私道ニ沿フテ建築スル家屋ニ於テハ六「メートル」トス。

第貳拾參條　晝間又ハ夜間ノ住居ニ用フル室ノ爲メニ利用セラルヽ中庭及ビ單ニ料理場ノ爲メニ利用セラルヽ中庭ニアリテモ其面積及ヒ「ヴユー、デイレクト」ノ兩規定ニ依ルベキモノトス。

「ヴユー、デイレクト」ハ料理場ニアリテハ少クトモ二「メートル」其他ノ室ニアリテハ四「メートル」ノ幅ニ對スルモノタル事ヲ要ス。

第貳拾四條　小サキ中庭ニ依リ光線ヲ引キ空氣ノ流通ヲ謀リタル門衛ノ料理場ハ成規ノ煙突ノ外限ニ截面最少限四「デシメートル」角ヲ有シ建物ノ最高部分ヨリ高キ事壹「メートル」ニ達スル通風管若クハ之レト同等ノ通風力ヲ有スル或ル他ノ設備ナラス事ヲ要ス通風管ハ力メテ煙突ニ接近シ之ヲ設クベシ。

第貳拾五條　中庭ニ面シ建設セル建物ノ高サ凸出部ノ外劃線ハ各中庭ニ於テ下層ノ土間若クハ地下室ノ天井ノ板張ノ水準線ヲ測點トス。

第貳拾六條　晝間若クハ夜間ノ住居ニ充ツル部屋又ハ料理場ニシテ道路又ハ成規ノ屋根ヲ有セザル中庭ニ面シ空氣ノ流通ヲ受ケ光線ノ注射ヲ受タル事ナク唯單ニ硝子天井ヲ以テ蔽ハレタル中庭ニ面スルモノニアリテハ該中庭ノ通風管ノ截面ハ千九百〇二年八月十三日附告示第十四條ノ規定ニ準スベキモノトス。

第三項　穴藏及ビ地下室

第貳拾七條　穴藏ハ外氣ト交通スル最少限截面六「デシメートル」ヲ有スル各々少クトモ高サ拾貳「センチメートル」ヲ有スル空氣拔ヲ充分多數ニ設ケ其通風

ニ備フベキモノトス。

猶又劃壁ノ上部ニ穴ヲ設クル事ヲ要ス。

第貳拾八條　穴藏ニ通ズル戸又ハ揚蓋ハ夜中ノ住居ニ充ツル室ノ內部ニ面シ之レヲ設クル事ヲ得ズ。

第貳拾九條　如何ナル場合ト雖モ晝間若クハ夜間ノ住居トシテ穴藏ヲ使用スル事ヲ得ス。

第參拾條　地下室ヲ夜間ノ住居ニ充ツル事ヲ禁ズ。

地下室ニシテ晝間ノ住居ニ充ツルモノハ左ノ條件ヲ具備スル事ヲ要ス。

第一、四壁及ビ床ハ阻水的ノ構造トナスベキ事。

第二、各室ノ面積ハ少クトモ十二「メートル」平方ヲ要ス、室ハ道路又ハ中庭ヲ面シテ設ケタル窓ニ依リテ通風ト光線ノ注射ヲ爲サシメ且窓ノ大サハ少クトモ其部屋ノ面積ノ十分ノ一ニ相當スル事ヲ必要トス。

第四項

第參拾壹條　穴藏ノ上及ビ平地ノ上ニ設ケタル下層ニアル室ノ床ハ必ズ阻水的ノ構造トナスベキモノトス。

第參拾貳條　下層ノ四壁ハ床ノ水準線マデ阻水的ノモノタル事ヲ要ス此水準線ニ於テ四壁悉ク阻水的ニシテ且離隔的ナル一層ノ上塗リヲ施ス事ヲ要ス。

第參拾參條　下層及家屋ノ最高層ヲ除キタル其他ノ各床ニ於テ晝間又ハ夜間ノ住居ニ用ユル事ヲ得ル室ノ床ハ最少限九「メートル」ノ面積ヲ有スル事ヲ要ス

部屋ハ各々煙出管ヲ備ヘ其室ノ床ノ面積ノ少クモ六分ノ一ニ相等スル廣サノ一ケ所又ハ數ケ所ノ窓ヲ道路又ハ中庭ニ面シテ設ケ空氣ノ流通及ビ光線ノ注射ニ備フベキモノトス。

料理場ニ專用スル室ハ前記ノ廣サヨリ少ナキ面積トナス事ヲ得。

特ニ門衛室ハ其面積十二「メートル」チ下ル事ヲ得ザルモノトス。

第參拾四條　建物ノ最高層ニ在ル晝間若クハ夜間ノ住居ニ使用シ得ル室ノ床ノ面積ハ最少限八「メートル」トス而シテ此面積ハ床ヨリ一「メートル」三十ノ所ニ於テ之レヲ量リ且室ノ立方積ハ二十「メートル」立方ヲ下ル事ヲ得ザルモノトス。

室ハ各々煙出管ヲ備ヘ少クトモ其室ノ面積ノ八分ノ一ニ相當スル廣サヲ有スル窓ヲ一ケ所又ハ數ケ所ニ設ケ通風ニ供スベキモノトス。

屋根裏ノ段階ハ總テ外氣ノ變化ニ對シ住家ヲ保護スル方法ヲ以テ之レニ設備ナスベキモノトス。

第參拾五條　梯子段ヲ置キタル部分ニアリテハ其總テノ部分ニ適宜光線ヲ引キ空氣ノ流通ニ便ナル設備ヲナスベキモノトス。

第參拾六條　自由ニ開閉シ能ハザル窓又ハ嵌メ殺シ窓ハ決シテ空氣ヲ流通セシムル窓ト見做ス事ヲ得ズ。

第參拾七條　私用ノ馬屋及ビ其附屬物（中庭、馬糞置場等）ハ完全ニ手入シ且清潔ニ爲シ置クベキモノトス又其臭氣及ビ馬匹ノ發スル音響ニ依リ近隣ニ迷惑ヲ及ボス事ナキ樣適切ナル設備ヲナスベキモノトス。

馬屋ハ天井裏ヨリ計算シ其高サ少クトモ二「メートル」八十トシ馬一頭ニ付

キ最少限二十五「メートル」立方ノ空氣ヲ入ルヽニ足ルベキモノタル事ヲ要ス

充分光線ヲ引クニ必要ナル戸及ビ硝子入リ明窓ノ外ニ大サ四「デシメートル」角ノ特別管ヲ以テ馬三頭毎ニ一個ノ割合ニテ常設通風管ヲ備フベキモノトス

馬屋ノ壁、床並ニ馬糞置場ノ床ハ阻水的構造トナスベシ床ニ適當ナル傾斜ヲ與ヘ又濕ニ依テ尿、汚水、洗滌用汚水等ヲ家屋ノ總下水ニ通ズル常設密閉塞ヲ備ヘタル排泄管ニ注入セシムル事ヲ要ス。

馬糞ハ少クトモ三日毎ニ午前九時前ニ之ヲ取去ルベキモノトス。

明ヲカニ近隣ノ妨害トナル場合ニ於テハ毎日之ヲ取去ルベキモノトス。

馬屋ニ於テ夜間用ノ常設居住室ヲ設クル事ヲ得ズ。

第五項　煖房。通風。點燈。

第參拾八條　ストーヴ。置ストーヴ。暖房機（カロリフエール）。料理用ストーヴ。其他ノ暖房用機具ニ用フル煙突ハ之レヲ他ノ煙突ト連絡セシムル事ヲ得ザルモノトス

又其圍壁ヲ通ジテ瓦斯及ビ煙ノ漏レ出ツル事ナキ樣之レヲ造ルベキモノトス

其高サハ建物ノ最高部分ヨリ少クトモ一「メートル」ヲ超ユル事ヲ要ス。

第參拾九條　住居ニ用ユル室ノ煙突ハ外部ヨリ空氣ヲ入ルヽ爲メニ充分大ナル截面ヲ有スル通風管ヲ備フベキモノトス此通風管ノ大サハ少クトモ一「デシメートル」半平方トス。

暖房用機具（ストーヴ。置ストーヴ。暖房機（カロリフエール）等）ハ室内ニ煙埃及ビ其家屋及ビ隣家ニ於ケル居住者ノ健康ヲ害スベキ瓦斯等ノ少シモ漏レ出ツル事ナキ樣ニ之ヲ造リ又ハ据付クベキモノトス。

暖房機（カロリフエール）ノ空氣注入ハ道路。中庭。若シクハ庭園ヨリ直接ニ空氣ヲ引クニアラザレバ之ヲナス事ヲ得ズ、

第四拾條　煙ヲ生ゼザル燃燒物又ハ瓦斯實ノ生成物ヲ用フル火焚場ニシテ晝間又ハ夜間ノ住居ニ使用スル部屋ノ暖房ニ充ツルモノハ燃燒ヨリ生ズル生成物ヲ排出スベキ特別ノ管ヲ備フルカ又ハ成規ノ煙突ニ通ズル管ヲ備ノベキモノトス。

第四拾壹條　竈所用ノ固定又ハ動カス事ヲ得ル料理用ストーヴハ燃燒材料ヨリ生ズル煙若シクハ瓦斯ヲ排出スベキ特別ノ煙突ヲ備フベキモノトス。

第四拾貳條　煙突ノ空氣吸收力ヲ左右スベキ辨ハ其煙突ノ穴ヲ全然開塞スル構造ニテ之レヲ造ルベカラズ。

第四十三條　或ル暖房用機具ヲ備ヘタル晝間又ハ夜間用ノ室及ビ總テ置ストーヴ。料理用ストーブ及ビ暖房機（カロリフエール）等ヲ備ヘタル場所ハ空氣ヲ流通セシムベキモノトス。

第四十四條　本項ニ揭ゲタル規定ハ瓦斯專用暖房及ビ點燈ニ關スル千八百六十二年二月十八日及一千八百六十八年四月一日附ノ達ニ揭ゲタル規定及ビ火災ニ關スル千八百九十七年九月一日附警察令ノ規定及ビ煙突ニ關スル千八百九十七年十一月廿五日ノ達ニ之レヲ附加スルモノトス。

第六項　飲料水ノ供給

第四十五條　晝間又ハ夜間用住居ニ充ツル建物ハ總テノ床ニ供給スル爲メニ適

當ニ設ケタル導管ヲ以テ飲料水公配管ト之レヲ連絡スル事ヲ要ス。

猶又建物ニ於テ洗滌用及ビ工業用水管ノ設ケアルトキハ此種ノ管ハ赤色ニ塗リテ區別シ飲料水管ト決シテ之レヲ連絡セシムル事ヲ得ズ。

第四十六條 食物ノ調理及ビ飲料ニ供スル水ハ飲料水ノ外使用スベカラズ。

飲料水道栓ヲ雜用ニ供スル爲メ便所內ニ設クル事ヲ得ズ。

不可抗力ノ場合ヲ除キ飲料水ハ家屋居住者ヲシテ自由ニ使用セシムベキモノトス。

第四十七條 水口ハ排水管ト連絡シ且第六十條ノ規定ニ依リ設置シタル排泄孔口ノ上ニアラザレバ之ヲ置ク事ヲ得ザルモノトス。

濕氣ニ對シ水口ノ附近ニ於ケル壁若クハ床板ヲ保護スベキ豫防的設備ヲナスベキモノトス。

第四十八條 飲料水道栓ハ上昇水道管ヨリ直接ニ水ノ供給ヲ受クベキモノトス

必要上止ムヲ得ズ水溜ヲ經テ水口ニ水ヲ出サシムル方法ニ依リ水口ヲ設クル事アル場合ニハ其水溜ノ設備及ビ手入方ニ於テ水ヲシテ汚レ又ハ其他一切ノ變化ヲ蒙ムル事ナカラシメ又水溜ヲ明ケ之レガ掃除ヲ容易ナラシムル一切豫防的設備ヲ爲スベキモノトス（備考）「公共衛生ニ關スル千九百〇二年二月十五日ノ法律第一條ニ依リテ定メラレタル市衛生規則。市。町。村ニ適用スベキ　形A。

第廿七條飲料水溜ノ內側ハ水ノ爲メニ變化ヲ蒙ル恐レナキ材料ヲ以テ之レヲ造ルベキモノトス但シ亞鉛ヲ用フベカラズ。

其上部ハ埃液体其他一切ノ異物ヲシテ侵入スル事能ハザラシムル樣之レヲ密閉スベシ。

飲料水溜ハ日光ノ注射ヲ受クル場所ニ之レヲ置シベカラズ又家庭用汚水若シクハ廐物ノ排泄管ノ附近ニ之レヲ置ク事ヲ得ズ、其下部ニ洗滌用栓ヲ設クベシ。

飲用水溜ハ常ニ清潔ニ之ヲ保管スベキモノトス

第四十九條 掘井戶ノ水ハ飲料品若クハ食物ヲ入ルベキ容器ヲ洗滌スルガ如キ食物ト間接ノ關係アルモノハ勿論食物ト關係アル一切ノ用途ニ之ヲ用ユル事ヲ得ズ。

其他ノ用途ニ井水ヲ使用セントスル時ハ其使用前少クモ廿日前ニ「セーヌ」縣知事ニ豫メ届出ズベキモノトス。

第五項

第五十條 住居ニ用フル事ヲ得ル建物ノ屋根ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之ヲ造ルモノトス。

第五十一條 屋根ノ低キ部分ニ於テ適當ナル大サニテ阻水的ノ雨溝及ビヒ横樋ヲ設ケ雨水ヲ受クルモノトス雨溝若クハ横樋ノ傾斜ハ竪樋ノ口ニ向ヒ停滯スル事ナク速ニ水ヲシテ流入セシムルニ足ルモノトナスベシ此竪樋ノ孔口ニハ數多ノ小孔ヲ穿ケタル蓋ヲ附スルモノトス。

第五拾貳條 度水ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ雨溝又ハ横樋ノ中ニ之レヲ棄ツベカラズ犯カス者ハ違警罪ニ處セラルベシ

第五拾參條 中庭又ハ小中庭ノ床ハ阻水的ノ材料ニテ之レヲ造リ雨水ヲ排泄孔

口ニ導キ入ル、爲メ之レニ適當ナル傾斜ヲ附スベキモノトス。

排泄孔口ハ永久的ノ密閉セル蓋ヲ附シ排泄管ト之レヲ連結スルモノトス。

第五拾四條 總テ便所ハ直接光線ヲ受ケ空氣ノ流通スル場所ニ之レヲ設クベキモノトス新タニ建築スル家屋ニアリテハ住居ニ用フル部屋三室（料理場ヲ除キ）以上ノ各住家毎ニ其住家ノ大小ヲ問ハズ備フベキモノ左ノ如シ。

第一。便所一ケ所。

第二。飲料水道栓ヲ備ヘタル流場一ケ所及ビ廢水流場一ケ所。

第五拾五條 又一室又ハ二室ニ分チ別々ニ貸付クル家ニアリテハ住居ニ用フル部屋六室毎ニ便所一ケ所ト各床一ケ所宛ノ水場ヲ前條ト同一條件ニテ設置スベキモノトス。

第五拾六條 團體ニテ使用スル家屋ニ於ケル所ノ數ハ便所使用者ノ人數、使用者ノ家屋内ニ在ル時間家屋内ニ於ケル各室ノ配置等ヲ斟酌シ家屋建築認可狀ニ於テ所轄官廳之レヲ定ムルモノトス

第五拾七條 新タニ建築スル家屋ノ便所ニ於ケル圖形及ビ液体物ハ縣廳ノ達ニ依リ示定セラレタル道路ニアル公設下水渠ニ直接之レヲ排泄スルモノトス。

第五拾八條 便器ハ室内ノ空氣ト下降排泄管内ノ空氣トノ流通ヲ防グベキ永久的ノ密閉ヲ形成スル機具ヲ備フベキモノトス。

便所ニ於テハ其便器ヲ完全ニ洗滌シ又汚物ヲ流出スルニ足ルベキ追水ヲ注入スベキ適當ナル設備ヲナス事ヲ要ス

千八百九十四年七月十日附ノ法律ヲ實施シ現存家屋ヲ爲サントスル時ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第拾貳條以下ノ條項ニ依リテ定メタル規定ニ抵觸セザル限リハ本規則ノ規定ヲ適用スルモノトス。

第五拾九條 小便器ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之レヲ造リ充分ニ追水ヲ流ス設備ヲナスカ或ハ又之レニ等シキ他ノ方法ニ依リテ消毒シ常ニ清潔ニ之レヲ保存スル事ヲ得ベキ設備ヲナスベキモノトス

第六拾條 汚水ノ排泄孔口ハ（中庭、馬屋又ハ馬車置場、水口、流シ、水場、洗面所又ハ化粧室、風呂桶、大便所、小便所等ノ排水口）ハ各々下降排水管又ハ排泄管ト連結スル前ニ永久的ノ閉密器ヲ備フヘキモノトス。

前記ノ孔口及ビ大便所、小便所、ハ道路ニ向ヒ排出セシムルモノナレバ道路ノ水準線ヨリ低キ位置ニ之ヲ設クル事ヲ得ザルモノトス。

第六拾壹條 便所ノ汚物ヲ下降セシムル導管ハ雨水及ビ家庭用ノ汚水ヲ下降セシムルモノト全然之レヲ區別スル事ヲ要ス。

此導管ハ共通排泄管ニ連聯セシムルモノトス。

第六拾貳條 便所ノ下降管ハ其接處ノ密着セルモノヲ用フベシ又其直徑ハ必要ニ應ジ之レヲ定ムルモノナレドモ少ナクトモ拾「サンチメートル」以下タルコトヲ事ヲ得ズ。

此下降管ハ阻水的ノモノニシテ又通風ノ爲メ建物ノ最高部分ヲ超ユル事少クトモ一「メートル」ノ高サニ之レヲ延長スルコトヲ要ス。

管ハ成ル可ク其全部ヲ露出セシムベキモノトス。

第六拾三條　雨水及ビ家庭用ノ汚水ヲ同時ニ受クル下降管モ亦前條ト同一ノ規則ニ準ズベキモノニシテ通風ノ爲メ建物ノ最高部分以上ニ成ル可ク之レヲ延長スベキモノトス。

單ニ雨水ノミヲ受クル下降管（竪樋）ハ之レヲ除外トス此管ハ雨溝又ハ横樋ト内ニアラザレバ其上部ノ孔口ヲ設クル事ヲ得ズ。

第六拾四條　排泄物（糞尿）及ビ廢水ハ阻水的ニシテ通風ノ設備ヲ有スル一ノ導管ヲ下降管ト連結シ途中ニ停滯セシムル事ナクシテ之レヲ公設下水渠ニ排泄セシムルモノトス此下降管ノ大サハ必要ニ應ジ之レヲ定ムベキモノナレドモ公設下水渠ト連結スル箇所ニ於ケル大サハ直徑十二「センチメートル」ヲ下ル事ヲ得ザルモノトス。

第六拾五條　排泄管ハ眞直ナル管ヲ可及的大ナル彎曲ヲ有スル管ニテ連結シタルモノニテ之レヲ造リ少クモ一「メートル」ニ付キ平均三「センチメートル」ノ傾斜ニテ之レヲ設置スベキモノトス前記最終ノ條件實行スル事能ハザル特別ノ場合ニ於テハ所轄官廳ハ排水溜又ハ其他ノ排水法ヲ採用セシムル事ヲ得

第六拾六條　排泄管ト下降管トノ連結ハ最少限五拾「センチメートル」ノ屈曲ヲ有スル彎曲管ヲ以テ之レヲナスカ或ハ又排泄管ト四十五度ノ角ヲ形成スル枝管ヲ以テ之レヲ連結スルモノトス。

直徑ノ相違セル管ヲ相連結スル場合ニハ其必要ニ應ジ圓錐形、眞直形又ハ斜弓形ノ管ニテ之レヲ連結スベキモノトス。

第六拾七條　排泄管ハ抵抗力ヲ有シ阻水的ニシテ且腐敗セザル材料ヲ以テ造リタル表面滑ラカナル管ヲ漏水セザル方法ヲ用ヒ相連結シ之レヲ造ルモノトス

此連結点ハ其如何ナル部分ニ於テモ家屋ノ石工部内ニ包入スル事ヲ得ズ且出來得ル場所ニ於テハ至ル所外部ニ之レヲ露出セシムル事ヲ要ス又此導管ニハ容易ニ近ヅキ得ベキ檢査口ヲ充分多數ニ設ケ此檢査口ノ動カス事ヲ得ル蓋ハ嚴重ニ密閉スル事ヲ得ル樣之レヲ造ルベキモノトス此導管ハ此導管ヨリ排泄ヲナス公道ニ於ケル地床ノ水準線ニ至ル迄其内部ニ水ヲ充滿セシムル結果生ズル所ノ内部ノ壓力ニ抵抗スル力ヲ有スルモノタルベシ。

第六十八條　諸種ノ機具及ビ繩テノ吸引並ニ排出導管ノ氷結ヲ避クル爲メニ必要ナル一切ノ方法ヲ採用スル事ヲ要ス

第六十九條　排泄導管内ニ便所、排泄孔口又ハ檢査口ヨリ固形物、食器、及料理場ノ破片、料理場ノ塵芥、馬糞、液体物又ハ製造品ヨリ生ズル廢物等ニシテ導管ヲ閉塞シ空氣ヲ有毒ナラシメ可燃性又ハ危險ナル蒸氣若シクハ瓦斯ヲ發生スベキモノヲ棄ツル事ヲ嚴禁ス。

又私設排泄導管ニ依リテ酸氣ヲ帶ビタル水ヲ棄ツル事ヲ禁ズ。此種ノ水ハ豫メ中和セシメタル後導管ニ棄ツベキモノトス。

熱湯ハ三十度以下ノ溫度ニ冷却スベキモノトス。

第七十條　古キ家屋ヲ有スル家主ガ直接公設下水渠ニ排出ヲナサント欲スル時ハ豫メ其工事設計書ヲ所轄官廳ヘ差出スベキモノトス。

此設計書ハ工事ノ寸法ヲ示セル圖面

平面、截面、竪面）及ビ水ノ分配、排泄管ノ大サ及ビ其傾斜等ヲ說明シタルモノヲ含ム。

當該官廳ヨリ認可ノ通知ナキトキハ其受領證ニ證明シアル工事設計書提出ノ日ヨリ廿日後ニ工事ニ着手スル事ヲ得ベシ但此衛生規則ノ規定ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ工事ヲナスベキモノトス。

第七十一條 家屋ニ於ケル衛生上ノ設備ニ關スル改造又ハ增築（溝道、下降管、便所、水口等）ノ爲メ屆出ヲ爲シタル上ニアラザレバ之ヲ實行スル事ヲ得ザルモノトス、此屆書ハ當該官廳ニ差出シ之レニ實行スベキ改造工事ノ平面及ビ截面圖ヲ添付スベキモノトス。

第七十二條 新築家屋又ハ古キ家屋ニ於ケル衛生上ノ設備ニ關スル工事（水ノ分配、廢水又ハ排泄物ノ排出）請負人ハ千八百三十八年七月廿日附ケ警視廳令第一條ノ規定ニ基キ豫メ工事ニ付屆出ヲ爲スベキモノトス。

第八項

公道又ハ私道ニ於ケル私設下水支渠固定又ハ動カス事ヲ得ル溜。井戸。水道栓。下水渠ノ泥溜。大下水渠ヲ備ヘタル道路ニ於テ採用スベキ設備。

第七十三條 私設下水支渠ハ其當事者タル家主ノ負擔ニテ之レヲ設ケ又其手入レヲナスベキモノトス。

一本ノ私設下水支渠ハ一軒ノ家屋ニ專用スベキモノトス、然レドモ廢水ヲ成ル可ク完全ナル條件ノ下ニ排出スル必要ナルトキハ一軒ノ家屋ニ數本ノ私設下水支渠ヲ設クル事ヲ得。

第七十四條 一般ニ下水ノ支渠ハ其支渠ト連結スベキ大下水渠ヲ造ルニ當リテ準據シタル規則ニ從ヒ且ツ其材料ト同一材料ヲ用フルカ或ハ市役所ニ於テ同等ノ材料ナリト認メタルモノヲ用ヒ之レヲ造ルモノトス。

此支渠ノ内部ノ大サハ左ノ如シ。

頂點以下ノ高サ一「メートル」八十「センチメートル」。

穹隆起點ノ幅九十「センチメートル」。

底部ノ幅五十「センチメートル」。

私設下水支渠ハ各々家屋ノ内部ト交通シ通風ノ設備ヲ備フル事ヲ要ス。私設下水支渠ハ公設大下水渠ト交接スル點ニ於テ疎石ト「セメント」ヲ以テ造リタル厚サ少クトモ三十「センチメートル」ノ墻壁ヲ以テ之レヲ閉チ其兩面ニハ漆喰ヲ塗リ家屋ノ側ニ於テハ垂直ノ壁面ヲ顯ハシ大下水渠ノ側ニ於テハ大下水渠ノ穹隆起點以上ハ支渠ノ凹天井ノ頂點ノ高サ迄垂直ニ延長シ而シテ該穹隆起點以下ハ大下水渠ノ穹隆起點以下ト相一致シ斯クテ其口ハ大下水渠ニ顯ハルヽモノトス家屋ノ番地ヲ顯ハシメタル陶器又ハ瀨戸引金物ノ板ヲ大下水渠内ノ墻壁ノ表面ヲ蔽フ漆喰ノ内ニ取付クルモノトス。

第七十五條 通行少ナキ二等道路及ビ五千以下ノ所得ヲ有スル家屋並ニ私設道路ニ於ケル下水支渠ハ其地床ノ性質之レヲ許ストキハ石工ヲ以テ造ル代リニ厚キ鐵管ヲ以テ之レヲ造ル事ヲ得但其接處（ツギメ）ハ鉛ヲ以テ之レヲ接ギ少クトモ一「メートル」毎ニ三「センチメートル」ノ

傾斜ニテ之レヲ配置スルモノトス此鐵管ハ直接ニ家屋ト大下水渠トヲ連結スルモノトス。

唯單ニ家屋前部ノ雨水及家庭用汚水ヲ排出スル爲メニ設クル補助下水支渠ニアリテモ亦前記ノ規定ヲ適用スルモノトス。

第七十六條 總テ私設道路ニ接シテ設クベキ下水支渠ハ市役所ガ下水渠ヲ設クルニ當リ使用スル規定ノ斷面型ノ一ツニ由リテ造リタル下水渠ノ一部分ヲ以テ其一部分ヲ造ルモノトス。

此一部分ノ支渠ハ公道ニ於テ如何ナル工事ヲモ施コス事ナクシテ總テノ廢水ヲ受クル爲メニ充分深ク公設大下水渠ヨリ私設道路内ニ公道ノ線ヲ超ヘ進入セシメ之レヲ造設スルモノトス。

此下水支渠ハ流込ニ便ナル方向ニ設ケタル屈曲セル一部分ヲ以テ公設下水渠ト相連結スルモノトス此一部ノ下水支渠ハ私設下水渠ガ石工ニテ造ラルヽ時ニ當リテハ私設下水渠ト相連結シ其一部トナルモノナリ又此一部ノ支渠ハ私設道路内ニ鐵管ヲ以テ下水ヲ造ル時ハ横壁ヲ以テ其上部ヲ開ツルモノトス

公設大下水渠ト私設下水渠トノ交通ヲ遮斷スル爲メニ兩下水渠ノ界ニ鐵柵ヲ設置セシムル事ヲ得。

第七十七條 廢水及ビ排泄物ノ排泄公道ハ公設下水渠ノ内壁迄之レヲ延長シ流入ニ便ナル變形ノ一部ヲ附加シ公設下水渠ノ濠低渠ニ之レヲ連結セシムルモノトス。

道路ニ面セル家屋ノ外部ノ壁面ニ設ケタル竪樋ハ之レヲ排泄溝道ニ導ク爲メ必ラズ家屋ノ内部ニ其下端ヲ入ルベキモノトス。

實際之レヲ行フ事能ハザル場合ニ當リテハ此等ノ竪樋ハ人道ノ下ニ通シテ直接ニ排泄溝道ニ之レヲ連結スル事ヲ得此連結ハ厚キ鐵管ヲ鉛ニテ接合シ最少限一「メートル」毎ニ三「センチメートル」ノ傾斜ヲ以テ之レヲ造ルモノトス

此最後ノ條件ヲ充タス事能ハザル事アルトキハ補充的支管ヲ設クベキモノトス。

第七拾八條 私設下水支渠ノ設計ハ所轄官廳ノ費用ニテ家主ガ提供スル說明ニ基キ市廳ノ技師之レヲナスモノトス。

正規ノ認可ヲ經且此認可ノ條件ニ依ルニアラザレバ工事ヲ實行スル事ヲ得ザルモノトス。

第七拾九條 石工ヲ以テ造リタル下水支渠ノ或ル一部分ガ以前ヨリ存在スル瓦斯管ト出會スル事アル時ハ瓦斯管ハ鐵製ノ包裝ヲ施シ之レヲ隔離スベシ而シテ家主ハ其費用ヲ負擔スベキモノトス電流管ノ存在セル時モ亦之レト同一ノ方法ニ依ルモノトス。

第八拾條 一條ノ道路又ハ道路ノ一部ニ連合ニテ造ルベキ下水支渠ハ此種ノ工事ニ對シ特ニ入札ヲ爲サシメ豫メ定メタル一人ノ工事請負人ニ之レガ造設ヲ一任スル事ヲ得。

然レドモ此請負工事ハ嚴ニ外部ノ工事ニ之レヲ限リ支渠ノ内部ニ造設スベキ導管ノ供給及ビ其敷設モ亦之レニ含マレザルモノトス。

家主ハ支渠内部ノ下水工事ヲ自由ニ自己ノ選擇セル工事請負人ヲシテ實行セシムル事ヲ得但其工事ハ遠ニ之レヲ

實行シ外部ノ支渠工事終了後廿日以内ニ終了セシムベキモノトス。

此猶豫期限經過後ハ豫メ特ニ通知ヲナス事ナクシテ人道上ノ樋ヲ當然除去スル事ヲ得ルモノトス。

若シ家主ノ要求アル時ハ工事ノ實行ヲ監督シタル技師ニ依リ無料ニテ完成工事ノ檢査ト精算ヲ爲サシメタル上家主ハ各自ノ負擔スベキ費用ヲ直接ニ工事請負人ニ支拂フベキモノトス。

第八拾壹條 家主ガ個々別々ニ計畫スル下水支渠工事ハ家主ノ選擇スル工事請負人ヲシテ實行セシムルモノトス。

第八拾貳條 公道ノ下ニアル下水支渠及ビ其附屬物ノ手入ハ其創設時代ノ如何ヲ問ハズ家主ニ於テ之レヲ負擔スベキモノトス。

家主ハ下水支渠ヲ常ニ顧ル清潔ナル狀態ニ保存シ水ノ停滯スル事アル時ハ之レヲ掃除セシムベキモノトス。

家主ハ下水支渠內ニ其性質ノ如何ヲ問ハズ決シテ物品ヲ留置スベカラズ。

監督ノ任ヲ帶ビタル所轄官廳ノ官吏又ハ警視廳ノ吏員ガ臨檢スル事アル時ハ家主ハ何時タリトモ之レニ應ズベキモノトス。

下水支渠敷設以後ニ於テ水道、瓦斯管又ハ電流管ガ下水支渠ヲ橫斷スルカ又ハ一般ノ利益ニ基ク工事ノ爲メニ下水支渠ヲ侵害セラレ或ハ又變更セラルヽ事アルトモ家主ハ之レニ對シ如何ナル要求ヲモナス事ヲ得ザルモノトス。

第八拾參條 各家主ハ其所有ニ係ル家屋ニ於ケル排水ノ爲メニ家ノ內外ニ建設スル諸設備ノ創設、存在及ビ保管ヨリ生ズベキ一切ノ事件ニ付キテハ官廳ニ對シテモ亦第三者ニ對シテモ其責ニ任ズベキモノトス。

第八十四條 現存ノ公設下水渠ト連聯セル下水支渠ハ第七十四條ノ規定ニ從ヒ公設下水渠ノ交接点ニ於テ漸次之レニ墻壁ヲ設クベキモノトス。

此改造ハ其家屋內ニ直接ニ公設下水渠ニ流出セシムル設備ヲ爲ス際ニ之レヲ實行スルモノトス。

第八拾五條 私設下水渠ノ配置、新設及ビ其保管規則ニ關シ是迄公布セラレタル達ニシテ前記ノ規則ニ抵觸セザルモノハ悉ク其効力ヲ有スルノモノトス。

第九項

一時的特別規定

第八拾六條 大下水渠ヘ直接排出ヲ爲ス方法ヲ適用シタル爲メ溜、穴等ノ不用トナリタルモノハ之レヲ汲取リ全部消毒ヲ施スベキモノトス。

下降管及ビ通風管モ亦等シク全部之レヲ掃除シ消毒スベシ。

第八拾七條 地下ニ吸收セシムル流場ノ使用ハ其性質ノ如何ニ係ハラズ之レヲ嚴禁ス。

第八拾八條 固定シタル溜又ハ動カス事ヲ得ル溜樽、阻水的ノ流場等ハ所轄官廳ノ認定スル場合ニ限リ假リニ之レヲ設置スル事ヲ得ルモノトス卽チ下水渠ヲ欠キタル場合或ハ又公設下水渠若シクハ水道ノ配置又ハ其他ノ原因ニ因リ廢水又ハ排瀉物ヲ下水渠ニ排出スル事ヲ得ザル場合ニ限ルモノトス。

第八拾九條 現ニ下水渠ヲ備フルコトモ直接下水渠ニ排出スル設備ナキ町ニアリテハ千八百八十七年十一月廿日附達

ノ條件ニ依リ水流（樽ノ上部ヲ開キタル）樽ヲ用ヒ之レヲ經テ下水渠ニ溜水ヲ排出セシムル爲メ假リニ其認可ヲ與フル事ヲ得。

第九拾條　固定又ハ動カス事ヲ得ル溜ノ汲取口ハ家屋外ノ自由ニ空氣ノ流通スル場所ニ之レヲ置クベキモノトス。

第九十一條　固定又ハ動カス事ヲ得ル溜水流樽。下降管及ビ通風管等ノ新設及ビ其配置ハ本規則ニ依リテ廢施セラルヽモノヲ除キ總テ現行ノ法令、達、規則等ノ定ムル規定ニ準據スベキモノトス

第九十二條　溜ノ內部ヲ檢査シ又ハ修繕セントス必要ヲ生ジタル時ハ豫メ汚水ヲ汲取ル事ヲ要ス猶又溜ノ中ニ降ル時ハ其都度先ツ降入ヲ安全ナラシムルニ足ルベキ空氣ヲ一方ヨリ送入シ通風ヲ爲スモノトス、斯クシテ排出シタル不潔ナル空氣ハ大氣中ニ放散スル前ニ火中ニ通過セシムル事ヲ要ス。

又溜ノ中ニ職工ヲ除入セシムル時ハ其原因ノ如何ニ係ハラズ職工ノ腹部ニ綱ヲ結付クルニアラザレバ降入セシムル事ヲ得ザルモノトス、其綱ノ一端ハ外ニアル職工ヲシテ之レヲ持タシムルモノトス。

第九十三條　何レノ方面ニ於テモ下水渠ヲ備ヘタル道路ニ接觸セザル家屋ニアリテハ下層ノ床ノ水準線ニ於テ下降管ヨリ道路ノ石溝ヘ雨水及家庭用汚水ヲ左ノ條件ノ下ニ排出セシムル事ヲ得。

中庭及ビ小中庭ノ床ハ阻水的ノ材料ヨリ成ル外皮ヲ以テ之レヲ造リ雨水又ハ汚水ヲシテ停滯スル事ナク容易ニ且速カニ流出セシムルニ足ル傾斜ヲ附シ之レヲ造ルベキモノトス。

此目的ヲ以テ設クル溝及ビ樋ハ住居ヨリ少クトモ六十「センチメートル」ノ距離ニ設置スベキモノトス而シテ非常ニ傾斜セル漆喰塗（タタキ）リカ又寧ロ歩道ニヨリ建物ト之レヲ分離セシムルモノトス

雨水及ビ家庭用汚水ハ少クトモ五「メートル」毎ニ檢査口ヲ備ヘ一樣ニシテ且充分ナル傾斜ヲ附シ造リタル上蓋ヲ有スル阻水的ノ溝ニ依リテ家屋內ヲ通過セシムルモノトス。

此ノ溝ハ追水ヲ流ガシ常ニ之レヲ顯ル清潔ニナスベキモノトス又住居ニ充ツル場所又ハ商工業ニ用ユル場所ニ之レヲ設クル事ヲ得ズ。

共用ノ通路、廊下又ハ緣側等ニ此溝ヲ通ズル事アルトキハ是等ノ場所ハ適宜ニ光線ヲ引キ又常ニ明放シアル窓ニ依リテ空氣ヲ新陳代謝セシムル事ヲ要ス。

此ノ溝ヲ公道ニ於ケル人道ヲ橫斷シ設クル時ハ浚渫ニ便ナル鑄鐵製ノ箱樋ヲ用ヒ直接ニ道路ノ石溝ト連聯セシムベキモノトス。

此樋ハ常ニ之レヲ完全ニ手入スベキモノトス。

第九十四條　場所ノ位置惡シキ爲メ公設下水渠又ハ道路ノ石溝ニ家庭用汚水ヲ流ス事能ハザル事アル時ハ家主ハ地下ヲ通シテ個定溜ニ汚水ヲ排出スル許可ヲ得ル事アルベシ。

固定溜ハ全然阻水的ノ條件ノ下ニ之レヲ造リ便所用溜ノ構造ニ關スル千八百十九年九月廿四日勅令ノ規定ニ準シ之レヲ造リ其汲取法ハ千八百三十四年六月五日附法令ノ規定ニ依ルベキモノトス。

固定溜ヲ新設シ又ハ在來ノモノヲ保存セントスル家主ハ其工事設計圖ヲ添ヘ「セーヌ」縣知事ニ出願スベキモノトス。

願書受領證ノ日附ヨリ廿日以内ニ認可ノ可否ヲ決裁スベキモノトス。

第四章　食料品ノ販賣又ハ貯藏ニ充ツル場所

第九十五條　鮮魚、鷄、獲物、乾酪、諸種ノ生肉ノ如キ食料品ヲ販賣シ之レヲ保存スル店ハ總テ肉類販賣業並ニ豚肉販賣業ニ關スル特別規則ニ準ヅ空氣ノ流通ヲ完全ナラシムル樣構造スベキモノトス。

空氣ヲ流通セシムル爲メ店ノ前面ニ於ケル天井ノ最高部分ニ其孔口ヲ有スル少クトモ四「デシメートル」角ノ孔ヲ有シ且其高サハ家屋ノ最高部分ヲ超ユル通風管ヲ設クルカ或ハ又他ノ通風ニ適スル設備ヲナスベキモノトス。

店ノ前面ニハ其全表面ノ面積ノ少クトモ五分ノ一ニ相當スル目透窓ヲ設クベキモノトス。

壁及床ハ阻水的ノ腐蝕セザル材料ニテ造ルモノトス。

床ハ頻繁ニ洗滌スル事ヲ得ル樣之レヲ造リ其傾斜ハ下水渠ニ汚水ヲ導キ密閉スル事ヲ得ル蓋ヲ備ヘタル地下溝ノ孔口ニ向ヒ水ヲ流下セシムルニ足ル程度ニナスベキモノトス又此地下溝ノ孔口ニハ金網ヲ張リ溝内ニ固形物ノ流入ヲ防グモノトス。

此種ノ店ハ決シテ夜間ノ住居ニ之レヲ充ツル事ヲ得ズ又小部屋、便所ヲ店内ニ設クル事ヲ得ズ又家屋ノ全部若クハ一部ノ水ヲ排出スル爲メニ充ツル樋ヲ店内ニ敷設スル事ヲ得ザルモノトス

煮沸セズシテ費消スベキ食料品ニシテ店内ノ陳列棚ニ置キ又ハ公道ニ於テ販賣スルモノハ塵埃ヲ避ケ且汚レザル樣ニ之レヲ保護スベキモノトス。

第九十六條　店ニアラザル場所即チ穴藏地下室、物置等ニシテ前條ニ示シタル食料品ノ調理若クハ保存ニ充ツル場所ハ專ラ店ノ前面ニ關スル規定ハ之レヲ除キ其他ノ店ニ關スル規定ト同一ノ規定ニ依ルベキモノトス。

第五章　建造物ノ手入

第九十七條　壁、板羽目、天井ハ決シテ外氣ノ侵入又ハ水ノ侵入ニ通路ヲ與フベキ割目又ハ裂目等ヲ生ゼザル樣手入スベキモノトス。

第九十八條　共用ノ通路、廊下、階段、小廊下等ノ床及ビ便所ノ床ハ穴、凹等無キ樣平滑ニ之レヲ保存スベキモノトス又中庭及ビ小中庭、溝等ノ床ハ水溜リノ出來ザル樣常ニ之レヲ修理スベキモノトス。

第九十九條　煙出管ハ必要アル都度之レヲ檢査及ビ試驗ヲナシ又之レヲ修理スルモノトス。

煙突ハ少クトモ毎年一回宛掃除スルモノトス。

第百條　道路又ハ中庭ニ面セル家屋ノ外面ハ總テ少クトモ十ケ年毎ニ之レヲ清潔ニナスベキモノトス。

家屋ノ外面ヲ漆喰ニテ塗リタルモノハ清淨ニナシタル上之レヲ塗リ替フルカ又ハ石灰水ヲ塗ルモノトス。

第百一條　小中庭及ビ料理場ノ中庭ニ面スル家屋ノ表面及ビ共用ノ通路、廊下、階段、小廊下等ノ塗リタル壁ハ少クト

モ十ケ年毎ニ灰汁洗ヲナス。

前記家屋ノ表面ガ漆喰ナル時ハ之レヲ塗リ更フルカ又ハ石灰水ヲ塗ルモノトス、中庭、料理場ノ中庭若クハ小中庭ニ設ケタル鐵柵及ビ硝子屋根ハ何時ニテモ之レニ近ク事ヲ得ル設備ヲナシ清潔ニナシ置クベキモノトス。

第百〇二條 共同便所ノ壁、天井、板羽目等ハ毎年洗滌シ又ハ灰汁洗ヲナシ少クトモ五ケ年毎ニ塗替ヲ爲スベキモノトス。

第百〇三條 各小中庭ニ於テハ日々其壁及ビ床ヲ洗滌スル爲メニ護謨管ヲ取付クル事ヲ得ベキ洗滌水栓ヲ設ケ如何ナル場合ト雖モ小中庭ノ床ニ直接ニ達スル事ヲ得ル一ノ入口ヲ備フベキモノトス又小中庭ノ屋根ガ二階ノ高サニ設ケラレタルトキハ其洗滌水栓ハ屋根ノ上ニ於ケル中庭ノ壁ノ上ニ之レヲ設ケ屋根ノ上ニハ容易ニ且直接ニ屋上ニ出ツル事ヲ得ル出口ヲ設ケ置クモノトス。

第貳節 傳染病ノ豫防

患者ノ運搬

第百〇四條 傳染病ニ罹リタル患者ノ運搬ハ市有ノ病者又ハ負傷者ヲ運搬スル馬車ニ依ルカ又ハ所轄官廳ノ認可ヲ經其監督ヲ受ケ特ニ病者ノ運搬ニ適スル機具ヲ有スル私設會社ノ手ニ依リテ之レヲ行フベキモノトス。

傳染病患者ヲ運搬シタル馬車ハ運搬後直チニ消毒スベキモトス。

普通ノ馬車ニテ傳染病ニ罹リタル患者ヲ運搬スル事ヲ禁ズ特別ノ場合ニ於テ傳染病患者ヲ運搬シタル普通ノ馬車ハ其運搬後直チニ之ヲ消毒スベシ。

病毒ニ感染シタル場所及ビ物品ノ消毒

第百〇五條 病期間患者及ビ其看護者ノ家庭用若シクハ自用ノ物品ニシテ傳染ノ媒介トナル恐レアルモノハ成ルベク速カニ消毒スベキモノトス。

前記ノ物品ハ決シテ屋内ノ所々ニ之レヲ放置スベカラズ。

第百〇六條 患者ノ占メタル室及ビ其室内ニアル物品ノ掃除ハ必ラズ消毒液ニ浸タシタル布巾又ハ布片ヲ用ヒ之レヲナスベキモノトス。

傳染病患者ヨリ出デタル糞尿及ビ分泌物ヲ公道、私道、中庭、小中庭、庭園又ハ馬糞堆ノ上ニ棄ツベカラズ。

前記ノ汚物ハ消毒シタル陶器製ノ特別容器ニ入レ便所ニ之レヲ棄ツベキモノトス又便所ハ丁寧ニ消毒スベキモノトス。

第百〇七條 患者ノ爲メニ用ヒ又ハ患者ヲ置キタル場所ヨリ出ツル布巾、衣類若クハ物品、敷物、窓掛等ハ消毒シタル後ニアラザレバ窓口又ハ屋外ニ之レヲ乾カシ其塵埃ヲ打拂ヒ又ハ其洗濯、賣却、贈與等ヲ爲ス事ヲ禁ズ。

汚レタル洗濯物ハ洗濯ニ出ダス前ニ消毒液ニ之レヲ浸タスベキモノトス。

蒲團ハ慥カニ消毒ヲ了シタル事ノ證明アルニアラザレバ其綿ヲ打返ス事ヲ得ザルモノトス。

患者ニ接觸シタル價値少ナキ物品ハ之レヲ燒棄スルカ又ハ熱湯ヲ以テ消毒スベキモノトス。

第百〇八條 病毒ニ感染シタル場所及ビ物品ハ患者ノ全快、死亡又ハ運搬後之レヲ消毒スベキモノトス、所轄官廳ノ要求アル時ハ常事者ハ消毒ヲナシタル

事ヲ證明スベキモノトス。

宿ナキ者ヲ一時救助スル公私ノ慈惠院ニアリテハ被救者ノ爲メニ用ヒタル物品及ビ彼等ヲ置ク場所ハ毎日之レヲ消毒スルモノトス。

第百〇九條 消毒ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第七條ニ定メタル條件ノ下ニ之レヲ行ナヒ殊ニ其方法ハ內務大臣ノ認可ヲ得ル事ヲ要スル規定ニ從ヒ官憲又ハ個人之ヲ行フモノトス。

第百十條 義務的消毒ニ用ユル消毒機械及ビ其方法ハ常ニ巴里市衛生局（セーヌ縣所管）ノ監督ヲ受クルモノトス。

消毒機械及ビ消毒法カ其使用認可狀ニ於テ豫期シタル條件ヲ充タスニ足ラザル狀態トナルカ若クハ檢査ノ上認メラレタル機械ノ損壞ハ機械ノ普通ニナスベキ作ヲ妨グルモノナリト認メタルトキハ其使用ヲ禁止スルモノトス。

第百十一條 或ル人カ法律第四條ニ示定シタル疾病ノ一ニ因リ死亡シタルモノナリト推定セラレタル時ハ直チニ市役所ニ其死亡届ヲ差出スベキモノトス。

市醫死亡届アルヤ直チニ臨檢ヲナスベキモノトス。

市醫ノ臨檢證明書ニ於テ速カニ入棺スベキ旨ヲ記載シアル場合ニハ市長ハ直チニ入棺ヲ命ジ速カニ埋葬セシムル爲メニ必要ナル方法ヲ採ルベシ。

死骸ヲ包ムベキ布ハ豫メ消毒液ニ之レヲ浸タス事ヲ要ス。

棺ハ阻水的ノモノタル事ヲ要ス又厚サ五乃至六「センチメートル」ノ中和性藥品ト消毒性藥品ヲ混合シタル滿園ヲ備フベキモノトス。

特ニ届出ヲ要スル疾病ニ因リ死亡者アリタル時ハ市長ハ埋葬許可狀ニ特ニ届出ヲ要スル疾病ニ因リ死亡シタル者ナル事ヲ記入シ其病名ヲ記入セザルモノトス而シテ此記入事項ハ墓地ノ受入簿ニ記入シ置クモノトス。

總則

第百十二條 此達ノ規定ハ郡ノ全部。公設ノ建物、學校、病院、兵營、官廳等ニ適用ス。

第百十三條 特別ノ場合ニシテ所轄官廳ヨリ特ニ許可ヲ得ルニアラザレバ此達ノ規定ノ適用ヲ制限スル事ヲ得ザルモノトス。

前記諸規定ノ一部分ノ適用ヲ制限スル事アル時ハ當事者ハ其筋ヨリ與フル一切ノ命令ニ服從スベキモノトス。

第百十四條 此規則ノ適用ヲ監督スル爲メニ正當ナル職權ヲ有スル官吏ガ臨檢及ビ取調ヲ爲サントスル時ハ何人モ之レヲ拒ム事ヲ得ズ。

第百十五條 此規則ノ規定ニ違反依ル者ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第廿七條及ビ第廿九條ニ依リ之レヲ起訴シ刑法第四百七十條及ビ前記ノ條文ニ於テ示定シタル刑罰ニ處スベキモノトス。但第廿八條及ヒ第卅條ノ適用並ニ前記ノ違反者ニ適用セラルベキ大道取締法ト稱スル規則ノ適用ヲ妨グル事ナシ。

第百十六條 現行ノ達、規則、布告等ハ此規則ノ規定ニ抵觸セザル限リ其効力ヲ有スルモノトス。

第百十七條 市長、市建築部長、巴里市工事行政部長等ハ各自關係事項ニ於テ此規則ノ實行ヲ擔任スベキモノトス此規則ハ行政法規公報及ビ市ノ公報ニ揭載シ巴里全市ニ之ヲ揭示スベシ。

セー、ド、セルヴ（署名）

千九百〇四年六月廿二日巴里ニ於テ之ヲ布告ス。

縣知事ノ命ニ依リテ

縣書記官オートラン（署名）

役員及職員

理事長	片岡安
理事	池田寶（主計）
	野村一郎（編輯）
	瀨戸文吾（編輯）
	日高胖（編輯）
	波江悌夫（主記）
編輯補	松本禹象
	伊藤正文
	佐藤四郎
書記	本田登
	岡部顯則
	小谷信藏

會員	一二六
名譽贊助員	一七
特別贊助員	六
會員（地方）	二八
終身贊助員	三〇
普通贊助員	二一八

本誌及廣告料定價表

本誌			
冊數	定價	郵稅	
一冊	金參拾錢	貳錢	
十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	（每月壹回）
一頁	拾五圓	（廿五日發行）
特別頁	貳拾圓	
裏表紙表	貳拾五圓	

大正七年十一月二十日印刷
大正七年十一月廿五日發行

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人 伊藤幸太郎

大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷兼印刷人 伊藤幸太郎

大阪市東區今橋一丁目十一番地
印刷所 大阪活版所

發行所 關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

廣告目次

ハ、原安商會　一八
ニ、日本石綿盤株式會社　(前)二
日本コル株式會社　二五
ヘ、米國貿易會社　二一
ト、東松工作所　一九
オ、大阪窯業株式會社　二三
大阪煖房商會　裏表紙裏
大野式特許品營業所　一四
ヨ、横河橋梁製作所　二七
タ、高田商會　二〇
レ、土木建築内外材料合資會社　一六
ム、村井工業所　二八
ノ、野澤幸三郎　二八
マ、松尾和助商店　二四
ケ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　六
コ、コルク工業合資會社　二二
エ、榮進社　一一
ア、秋山小林商店　一七
淺野スレート株式會社　二六
メ、明正社　裏表紙表
ミ、みよし組大阪支店　一三
モ、木材商案内　一〇
セ、石材商案内　一〇
ス、須賀商會　一五
巣鴨製作所　一二